

330.4-Ta59



1200500736960

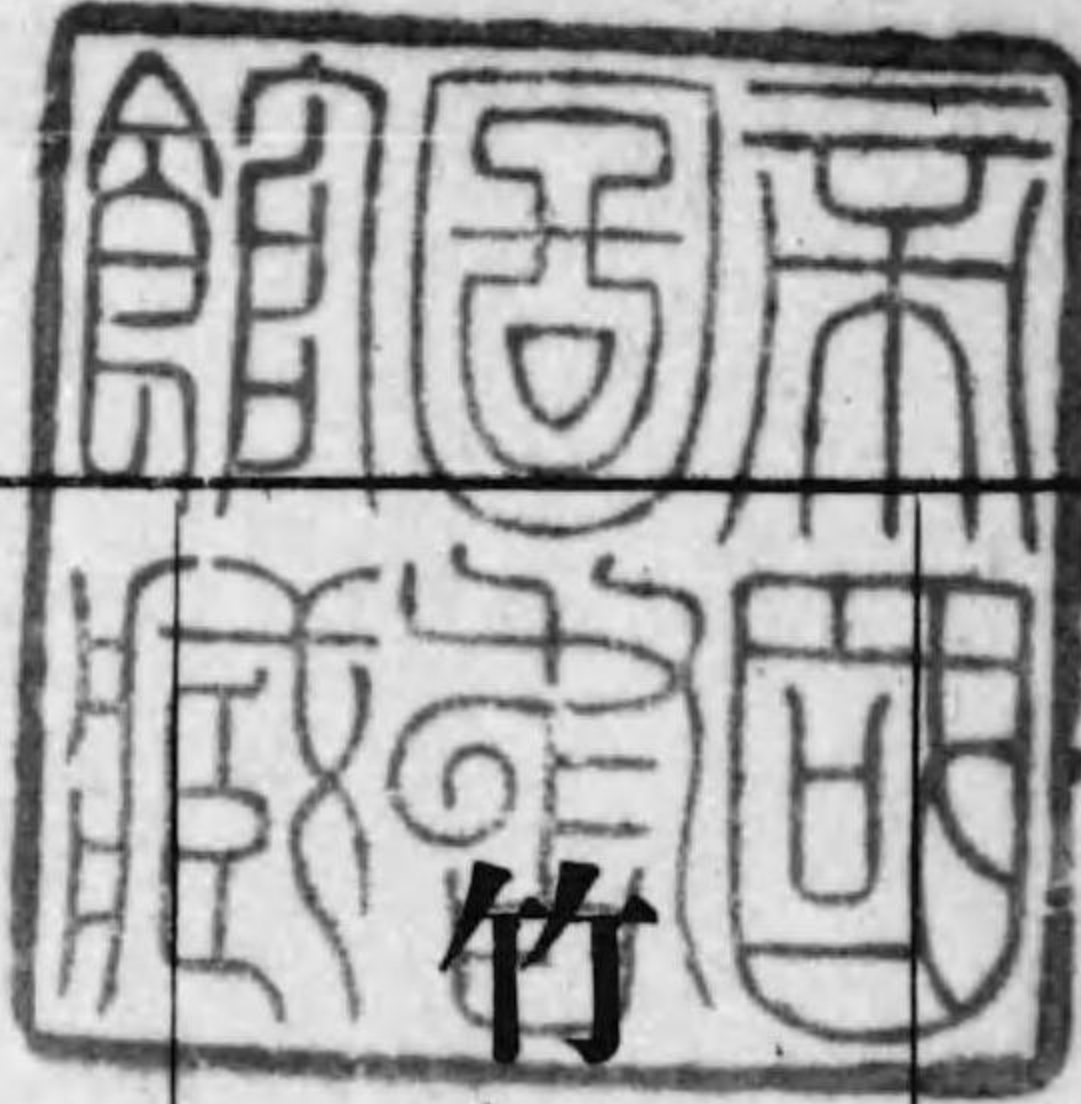
0.4
59



始



330.4
TA59



武田經濟研究所長
博士 武田鼎一著

竹堂經濟瑣談



東京 敬文堂書店刊

330.4
TA59



945
11

序

温故知新と言ひ歴史的回顧と云ひ、とにかくに過去に振り返つて來るべき未來を察知する手掛りを得ることは極めて肝要な事柄である。又その時その場の事態に應じた個人の生活態度とか國家の政策とか、斷片的でなく歴史的發展段階の必然性の一節一環としての特殊性を保ちながら時間的普遍的眞理に繋がりを持つて居ると云ふことも是亦明白な事柄である。そこで歴史法則を知りそれに即して運命を開拓する指針を把むと云ふことが個人及び國家の生成發展上必要不可欠の用意であると信ずる。

筆者は實業界と學界の兩棲動物であつて審かに理論と實際の接觸面に關聯して幾多の苦澁の體驗を持ち過ぎる程持つて居る。従つて時間と場所の特殊性と時間的流れを一貫する普遍的歴史法則との關聯についての研究を怠りなく努めて來たのである。茲に過去二十年間に筆者の書いた短篇時事論文などを集めて一冊の小冊子にまとめて讀んで看ると、時處的特殊性と普遍性の關係がはつきりと促えられ得るのである。

他人の勝手な議論を活字にした書物など読むのは馬鹿馬鹿しいと言ふゝがあるかも知れないが、他人の尊い體驗から生れ出た歴史的記録としての論文を前に述べたような用意を以て讀んで他山の石とし且つ將來の指針をその中から採り出すことは決して損な仕事ではない。殊に世代の變遷に對する豫言的な筆者の主張が今日まで着々事實となつて現れ實證されたことは何人も否認出來ない所である。何故にそう言ふ實證が出來得たかと言へば、歴史的必然性を過去の事實の中から把握して之を將來に當て嵌める操作に成功したからである。

筆者は世の青年學徒が又青年實業家が筆者が採つたと同じ態度を以つて本書を讀んで將來諸士が筆者と同様の記録を作成して諸士の次代の青年諸士への贈物とする契機とせられんことを切望する。

昭和十七年二月八日

東京の旅舎にて

著 者 識

竹堂經濟瑣談 目次

一、物價を安くせよ……………	一
二、對米爲替の暴落と我財界の對來……………	三
三、統制經濟と價格公定……………	七
四、經濟統制とインフレーション策の矛盾……………	二二
五、米金本位停止と我國内經濟への對策……………	二七
六、ブロック經濟下の爲替觀念……………	三二
七、經濟非常時を論ず……………	三七
八、世界の景氣はどう動いてゐるか……………	三四
世界經濟は上向——黒字英國經濟界——米國經濟界の現状——獨の經濟界——	
金本位と金本位離脱國——金本位國の行道——日、英、米の好況の正體——世	

界經濟界の二潮流——資本主義の前進と世界經濟界

九、最近財界の展望……………四四

序——消費中心の經濟界——國防財政と消費——列國の軍備狀態——日本軍事費は多からず——公債續發の可能性——潜在購買力の増加——圓貨幣による日滿支經施ブロックへ

一〇、北支工作は純經濟的に……………七三

一一、經濟統制の本義を論ず……………七五
電力國營問題に關聯して

一二、前途全く計り難し……………七九
新財政の三原則——消費節約と不急事業の繰延べ——第二原則——生産力の擴充と悪性インフレ

一三、物價國定論の提唱……………八六

一四、今後の景氣觀測の重點……………九一

自由經濟的景氣觀測は不可能——經濟統制はどう云ふ方向をとるか——國內景氣を左右する國外的要因——本年の景氣果して如何なる方向に進むか

一五、北支景氣は果して出るか……………九七

景氣爆發までに一年はかゝる——復興資金が問題となる——政治的安全も大きな役割をする——一ヶ年はどうしてもかゝる

一六、中小商工業者の對策……………一〇一

何處に活路を求むべきか——中小業者悲況の原因——營利統制と非營利統制のギャップ——儲けず損せず——長期戦と中小業者の力——中小業者の保護助成——誰も名案を持ち合せず——一元的經營組織

一七、國防國家體制完成の急務……………一〇八

一八、景氣は決して悪くはならない……………一一三

統制強化と景氣——支那事變が解決しても——日滿支經濟の整調——支那開發の進展——物價引下げと景氣

一九、戰時經濟統制に就て……………一〇〇

序言——自由經濟と戰時經濟——統制經濟——日本の國力——金と國際經濟

二〇、現行經濟統制の改善強化に就て……………一八三

現行統制經濟の不備と統制經濟本來の意義及目的——統制經濟開始の適時性——統制經濟の目的認識の明確性——國民の體位向上を如何にすべきか——國防國家體制に立運れた日本——國民思想の動員と國家總力戰の眞諦——軍需と民需の同一重要性——國防と理想國家體制への途

二一、經濟統制改善強化の根本策の提唱……………二二三

統制方策樹立の根本目標としての國防國家體制——國防國家に於ける國防總力の構造——統制經濟に於ける資本主義組織改革の限界——總力國防に於ける軍

需品と民需品の同一重要性並に價格統制と需給統制の一貫性

二二、物價統制目的達成の具體的方策……………三三三

主務官廳の機構を改革し需給統制と物價統制に關する政務並に事務を同時に且つ一元的に管掌し得る如くすること——官廳直接統制を中止して統合組織による民間自治統制を強化し公益優先主義の下に統制實行の衝に當らしむること——輸出入貿易に關しても亦組合統制を採用すること——公定價格表の編成は生活必需品の價格を基本として爲すこと——闇取引闇相場を根絶する方法に就て

二三、物資配給機構改革への私案……………三三〇

在來の配給機關の存在の合理性を尊重する事——配給を司る商人の業種別統制組合は、その數に於て少なく、而も最も有効に配給の責を果し、且つ低物價政策に協力し得る如く組織する事——問屋卸商の如き中間配給機關の階層的組織を合理化する事

二四、中小商工業對策要綱……………二二六

二五、經濟機構變革の目標を誤る勿れ……………二三九
新體制便乗の赤化思想を排す

二六、現行物價統制是正の必要を主張す……………二四二

二七、經濟統制機構改革案……………二四四

二八、經濟統制改善に關する二三の考察……………二四六

二九、中小工業に望む……………二四九
整理は飽まで必要——「技術向上」に救ひの道

三〇、中小商工業の問題の根本的解決策……………二五五
長所と短所——下請制度整備——企業の合同——特技の伸長——代用品製造へ
 ——商業者の活路——救済の對象——商工相携へて

三一、産業人の反省奮起を望む……………二六六

三二、國防經濟學……………二六六

三三、時局の深刻性を論じ政治經濟の本質に及ぶ……………二八四

三四、經濟情勢の豫測……………三〇七

三五、科學的産業立國論……………三二二

三六、商品の多様性と中小商工業の向上發展策……………三二六

三七、經濟統制整備論……………三三〇

三八、如何にして經濟機構を強化すべきか……………三三四

三九、經濟的庶政一新の動向……………三三九
統制經濟から計畫經濟への移行

四〇、新春雜想……………三三三

四一、自治的經濟統制の強化擴大を勸説す……………三三六

四二、中小商工金融について……………三三九

四三、如何にして物價を抑制すべきか……………三四二

四四、最效果的なる物價及金融對策……………四四六

四五、暴利取締か價格統制か……………三五三

四六、戦局の進展と經濟界の將來……………三五六

四七、稅務思想の普及と稅務行政の民衆化……………三五九

四八、商店法と商店員の生活向上……………三六〇

四九、協同と繁榮……………三六二

五〇、商賣と法律……………三六三

五一、會計帳簿と營業の繁榮……………三六五

五二、小店舗とその美裝……………三六六

五三、新春所感……………三六八

五四、經營と廣告……………三六九

五五、納稅義務について……………三七一

五六、小額金融に就て……………三七二

五七、中小商業振興策に就て……………三七四

五八、中小輸出貿易業について……………三七六

以上……………

竹堂經濟瑣談

物價を安くせよ

財界整理の必要が社會一般に高唱せられて居るが、實行が伴はなければ何にもならない。銀行の貸出を整理せよと云つても其貸出の目的物が有利に處分出来なければ銀行としては貸付金勘定を損失勘定に振り替へる丈で實質上貸出の整理とはならない。一方に貸出金額が減じても他方に損失勘定が増しては銀行としては堪へ得ざる苦楚を嘗めることになるから寧ろ其儘そつとして置いた方が平地に波瀾を起さなくて済むのである。従つて經濟界が現状を維持する限り金融の改善は望まれないと云はねばならぬ。

言ひ換へれば一般の景氣がよくならざる限り獨り財界の改善は求め得ざると云ふことになる。

然らば一般の景氣をよくするには如何にすればよいか、これは一に百般物資の生産賣買消費の旺

盛である。結局生産消費賣買を盛にする方策さへ見付かればよいのである。

我國が大正四年から八年迄五年間の好況は全く交戦國の軍需品のためであつて國民自體の消費力の増加による好況ではない。だから戦争終了と共に風船球の破れた様にヘタヘタとなつてしまつた。今日此頃の消費力に對し生産力はすべての方面に於て過剰を來して居るのである。銅然り肥料然り織物然りである。國民の消費力が停頓して發展せぬとすれば此等の生産品を海外に賣り捌いて過剰生産力を調節すればよい筈である、又餘分の輸入をせぬ様にせねばならぬ、と云つても海外の輸出が振はぬとあつては正に進退谷まつてしまふ外はない。

何故に輸出が振はぬかと云ふと内地の物價が高いからで結局通貨が大膨脹をして居るからである。此通貨が縮小されない限りは物價は安くならないのである、依つて國內の需要が遅々として増加せぬ限り一般經濟界の好況は輸出の促進によつて過剰生産力の捌け口を造るより外に求めるべき途はないと思はれる。

輸出が盛になり生産が増せば賣買は自ら殷盛となるであらう。輸出を盛んにするには是非國內の物價を海外仕向地の物價より安くせねばならぬ、が然し特定の市價を命令的に安くさすなど

は昨年の物價調節運動の失敗によつて明かなる如く到底不可能のことであるから是非共一般的に物價を安くせねばならぬ。

それには通貨收縮より他に方法はない、故に銀行に貸出の整理を強行さすよりは一般的に物價を安くさせ輸出を旺盛にし生産を増加し延いて消費經濟の寛濶進展を來さしむるのが第一の財界整理法である。(大正十一年五月九日大阪時事新報掲載)

二 對米爲替の暴落と我財界の將來

最近對米爲替の奔落は實にすさまじい勢ひで何人も其あまりに急激なのに驚いて居る。予を以て見れば斯の如きは當然の歸結であつて今日に於て始めて知るべきではないのである。一昨年夏秋の交に金輸出解禁の世論が喧しかつた時にすでに世人は覺悟せなければならなかつたのである。人爲的に正貨準備の保有に努め國內の物價低落を阻止し一面在外正貨を輸入爲替尻の決濟に使用して輸入を助長し内外相應じて今日の情勢を導くにつとめたのだから、昨秋の大震火災なくとも早晚かくなる運命に居たのである。昨秋關東の大災を政府當路は勿論關東方面一般の人々が

日本全國の大災禍と誤認して罹災地以外の地方の利害は勿論國家産業の根本方針をも顧みず、無暗に輸入を督勵したために其時期を早めたことは疑ひない。

關東現下のバラツクの復興は輸入品の到着をまたずして大部分實現し得たのであるから當時政府が泡喰つて米國に注文した材料は今日から見ると全く無意味のものとなつて終つた。然るに對米爲替關係に於ては彼地から積出に着手すると同時に現實に其害毒を相場の上に現はすに到つたのである。

品物を手に握らず材料の恩恵に浴せざるにすでに早く爲替相場で頭を叩かれたのは誠にお目出度すぎると云はねばならぬ。過度の輸入は政府と共に我輸入商全部が其過半の罪科に服せねばならぬことは勿論言ふを俟たない。從來とても數へ切れない程の經驗を持つて居る我輸入商がまた凝りずに思惑輸入投機輸入をやるのはどうした事であらうか。詮する所、貿易商一般に大正九年來多大の打撃を受けて居るために河合トタン王と殆ど甲乙なき心理状態に於て見越輸入をやるものであらう。其心情や恕すべしとするも結局收支決算の上で赤残を出すに終るとすれば今少しく慎重に行動せんことを望まざるを得ぬ。

對米爲替相場を維持するために爲替銀行をして輸入信用狀の發行を制限せしめて其目的を達せんとした政府の遣り方は全く兒戯に類したものであつた。内地物價が高位にあること一般消費力の旺盛なることは到底爲替銀行が營利會社である限り爲替相場の維持を許さない。内地物價を低落せしめ國民の消費力の減退せぬ限り輸入の大勢を阻止することは絶對に不可能であり従つて對外爲替の低下は免れない。圓の對外的價値を向上せしむるため外債を募集して爲替尻を調節するのが目下の急應策として一番利目の多いことではあるが、其は第二第三と永久に外債を連續募集せぬ限り單に一時的の糊塗手段に過ぎないことを悟らねばならぬ。米國の金融界が如何に豊富の資力ありとも我國の財界の情勢にして改善せぬに於ては連年數億圓の募債は不可能と斷ぜねばならぬ。國內の不合理の情態を其儘にして外債に依て一時の安きを求めるのは悔いを他日に貽すことになりはしまいか。我財界の將來のため沈思熟考の必要がある。

現在の我國の經濟界が跛行的景氣を呈して居るのはとりも直さず財界の深部に癒ゆる能はざる創痍があるのを糊塗しつゝ立て直しをしようとする爲に生じた變態である。大正八年の景氣轉換時代に一思ひに荒療治をして置けば正に第二の米國として今後は股盛なる好景氣時代に出會して

居る筈である。その時以來天衣無縫の經濟政策を一顧だもせず専ら修覆を重ね遂に病をして膏盲に入らしめ終つたのである。目前自力では修覆の利かぬ事の分つて居る衣を手にして又候米國あたりから布切を借りて來て其破れをつくらう積りらしいが、其衣たるや縫絲の完全な物とは殆ど一筋もないのだから、暫く用ひて居ると又他所から繕ろいの布切を借りて來ねばならぬことになるだらう。

そんな無駄をするよりは我財界の將來を泰山の安きに置くためには、此際外債募集の計畫を破棄して一時の苦痛を忍んで金の自由輸出を許し、兌換券の收縮を行ひ物價の引下げを招致し輸入を制し輸出を振興せしむべきだと信ずる。

金の自由輸出を許せば對米爲替は急激に舊率に復することは火を賭るよりも明かである。又金の自由出入を許せば勢ひ日本銀行の内地保有正貨も流出することになるから、兌換券は急速度に收縮することは論を待たない。

其結果として物價は奔落すべく消費力は減退著しく輸入の思惑は止み此處に財界は眞の底入状態に達するであらう。其間多少の犠牲は忍ばねばならぬが、然し底に入つた財界が再び擡頭する

時は、眞の復興であるから基礎鞏固である、他國より布切を借りてつくらう必要は更でない。

昨年大晦日の兌換券大膨脹のレコードに於てさへ正貨準備の發行高に對する割合は六割位の割合を保つて居たのであるが、斯の如き高額の正貨を保有しながら、なほ且つ外債を募集して強ひて正貨を増し、物價を騰貴せしめ輸入を助長する必要が何處にあらうか、借りたものは返さねばならぬ。

自分の物で始末をつける工夫がつかぬであらうか。東京、横濱の復興にしても高價な材料高率の賃銀を以てしては中々に困難である。安き物低き報酬でやらねば到底復興費に窮するであらう。遠慮なければ近き憂ありで、對米爲替の對策を眼前の小刀細工に墮せしめず、根本的立て直しの方法によつて解決し我財界を百年の將來迄安泰ならしむることを望む。

(大正十三年一月大阪時事新報掲載)

三 統制經濟と價格公定

自由制資本主義社會において統制經濟組織を完成しようとする事は可なり困難である。それ

は自由に對する或程度の束縛を必要とするからである。もし統制による束縛をしも甘受し得るだけの覺悟が全國民にあるならば、勿論、統制の事たるや容易に實行し得ると思はれる。換言せば自由主義の或程度の變改を、全國民が快く受認することが經濟統制の實行における基礎條件であるのである。

統制經濟における自由主義の變改の第一要求條項は利潤の廢棄である。自由制資本主義社會における恐慌の發生は需要供給の甚しき不均衡の釀成にその原因を求むることが出来る。かゝる需給の不均衡は利潤による需要者擄取から原由するものであることは何人も異議なく認むるところと信ずる。物價の横斷的均衡、即ち諸商品の諸價格の間における均衡が保たれてゐないこと、ならびに物價の縦斷的均衡、即ち原始的生産物、原料品、精製品の再生産過程における諸價格の不均衡および卸賣價格と小賣價格の不均衡はよく需給間の擄取關係の存在を物語るものである。従つてかゝる横斷的ならびに縦斷的擄取の關係を匡正して、上下左右側背の對隅均整を得たる價格を保持することが、恐慌乃至は不景氣の原因の大半を除去することになるのである。

分業交換經濟の發生期においては供給即需要であり得たのである。供給能力あるもの達の間

交換が行はれ得たことは歴史的事實である。然るに今日においては決してさうで有り得ないのである。生産力は必ず購買力とは成らないのである。高度資本制社會においては生産資本は容易に通貨の創造的増發によつて供給することが出来るけれども、購買力としてそれが百パーセント再生することは不可能である。何故なれば、そこに利潤の資本主格による占收があるからである。この食違ひを匡正せざる限り需給の圓滿なる回轉を期待し得ない。従つてインフレーションによつて生産資本を増給してもそれが百パーセントの購買力に轉化し得ないがために、不景氣を退治することは出来ないのである。

このことは次の例が最もよく示すものと考へる。今假りに、こゝに十萬圓の新資本が増給されたとする。それによつてM商品がn個だけP價格で販賣さるべく増産されたとする。さうするとそれに對してnMxPだけの購買力が増加するか、または増加してをることを必要とするのであるが、この増加購買力はどこから増生して來るのであるかを檢究せねばならないのである。他の需給が均衡においてあるとするならば、この増加購買力は新資本そのものである外はないのである。即ち新資本の分岐せる形態は生産原費、地代、利子、勞銀および利潤であるから、新資本

はこれ等の形において購買力への轉生の途を辿るのである。そこには勿論生産完成と新資本の分配支出との間の時間的遅延があるけれども、こゝではそれを考慮の外に置かざるを得ない。今生産原費を C' とし地代を R' とし利子を I' とし勞銀を W' とし、さうして利潤を P_r' とする、さうすると次の公式が成立する。

$$n'M \times P = C' + R' + I' + W' + P_r'$$

そゝでもし $C'R'I'W'$ および P_r' が全部購買力に轉生する場合は、過剰生産はなくて済むはずである。然るに P_r' は常に必ず購買力に變生しないのである。資本主義社會においては P_r' は多くの場合蓄積資本として資本家の手中に残留するものである。従つてもし P_r' の率を一割とするならば、十萬圓の新資本はその中九萬圓だけ購買力に轉生するも利潤一萬圓だけはさうあり得ないのである。即ちそこに一萬圓だけの需要力の不足が生ずる。然るに或はかういふ人があるかも知れない。この一萬圓は銀行預金の形において蓄積されるのであるから、銀行の貸出金即ち新資本となつてそのままさらに生産力即購買力に轉生するのであるから、一萬圓だけの購買力不足でなく、利潤即ち一萬圓の一割、一千圓の購買力の不足しかないといひ得ようと主張する。もしこ

の議論にして誤りなしとするならば、それはさらに百圓、十圓、一圓と順次減じて、購買力不足は消滅することとなるであらう。がしかしそれは誤算であつて、新生産資本の供給されるたびごとに一萬圓から一萬一千圓、一萬一千一百圓と順次購買力不足が増加して行くのである。これを要約すれば、高度資本制社會においては購買力不足は生産の増加するに連れて漸増するのである。これ即ち利潤の廢棄が需要供給の吻合を計る上において必要であるゆゑである。

利潤の廢棄は一種の革命の如く考へる人があるかも知れないけれども、消費組合の信條が利潤の排除にあることを知るならば、決して革命的であるとなし得ないといはねばならぬ。資本への配分所得には利子が存する以上、利潤の收得は餘剩利得にほかならない。従つてかゝる餘剩利得の排除は是認せらるべく、それによつて需給の均衡保持が可能である限り反對すべき理由を發見し得ない。

第二段の要求條項は無利潤價格、即ち均衡價格の公定である。需給關係の調節によつて價格を均衡において持ち來たすことの困難は、我國の米價調節の實績によつて熟知される所である。單位價格の變動は收支の全價額を變化せしめるがゆゑに、需給の全價額の出合を阻害することは明

かである。そこで先づ横斷的均衡價格と縱斷的均衡價格を査定し、それを公定して、その價格の均衡に順應する如く、需給量を統制することは比較的容易である。かくて第一に利潤の排除、第二は均衡價格の公定、この二つが是認されて始めて、經濟統制の實を擧げることが出来るのである。

私は現政府が時局匡救のために努力しつゝあることを多とするものであるけれども、それは常に供給過剩を齎らす作用因となる方面に資本的援助を興ふること多くして、それを根本的に匡救する基本政策に觸れないのを遺憾とする。無利潤價格の公定は、カーテルまたはコンチエルン式の企業の横斷的結合または縱斷的結合を結成せしめることによつて容易に實行が出来る。私はこの基本原理を提供して、當局の熟考を煩はしたいと思ふ。

(昭和七年九月十五日大毎エコノミスト所載)

四 經濟統制とインフレーション策の矛盾

恐慌克服策としての經濟統制とインフレーション策は、相互に手を携へてもつてその使命を果

し得るものであるならば、現に政府の採りつゝある方策は萬全を期待し得るかも知れない。しかし統制策とインフレーション策は、互に相容れざる作用をなすものであるがゆえに、究極において萬全の成果を齎らすものであり得ない。このことについて少しく分析的に述べて見たいと思ふ。

低金利による通貨膨脹策は物價の騰貴を招來するをもつて、企業の採算を有利ならしむるばかりでなく、對症的に融通される低資はよく弱體企業をして蘇生し得せしむるものであるがゆゑにフュージョンの行はるゝ契機を消散せしめ且つ企業の横斷的或は縱斷的結合の必要をなくするものである。従つて低金利による通貨膨脹策は、一般的にも將たまた對症的にも企業統制の機運から企業自體を遠ざからしむる作用を營むのである。

恐慌克服策としての經濟統制に於て第一に企業統制に手が染められたるは、一にそれによつて企業の立場を強化せんと欲するがゆゑである。即ち横斷的結合としてのカーテルの結成によつて、あるひは縱斷的結合としてのトラストまたはコンチエルンの結成によつて、企業の市場支配力を強化し獨占化することによつて、企業自體の立場を恐慌から保護せんとするものである。し

かるにもインフレーション策によつて企業の各自独自の立場を有利にするならば、企業の合従連衡の必要は消失し、従つてまた企業統制の必要も自から失はれるはいふを俟たない。

かくの如く經濟統制の主題たる企業統制とインフレーション策とは互に相反する作用力を持つものであるがゆえに、統制とインフレーションを同時に行ふことは、各自の作用力を互に殺滅するものといはなければならない。これは原理的に然るばかりでなく實際的にも明かに認められるところである。従つて商工當局が統制策の強化を主張するに對し、他方同時に財務當局が膨資策の遂行に努力するは相反する二律を同一對策に適用せんとするものであつて、究極において兩者ともに中途半端に終らざるを得ないことに成るは必定である。この二律相反に氣附くならば吾人の採るべき方策はこれ等の二つのいづれか一に選定さるべきである。然らば假りにインフレーションに偏執するとして、如何なる結果が生れ出るであらうか。低金利による通貨膨脹策には一定の限度がある。その限度を越す時は、通貨の價值の激減は反對に金利の昂騰を招來するのである。即ちより、高き利子を支拂つて借り入れたる資金をもつて購入する商品は、通貨の標準價值のより、大なる激落によつて、次の時間においてより、高き利子を償つてあまりあるより、大なる利潤を

もたらすが故に、通貨資本に對する需要は急増し、通貨の資本價值を象徴する金利は急騰するに到るのである。かかる時代に到達する時は定額金利證券たる公債社債類の市價は急轉直下の奔落を來たすがために、證券市場には一大恐慌が襲來するは必然である。インフレーションが徹底すればするほど、有價證券市場はそれだけ多く危機を孕胎するのであるから、目今の如く株式市價の高騰に陶醉し得るは、インフレーションが未だ高潮に向はない間のみである。もしインフレーションがその上潮に乗つた時に到らば、吾人は十分に戒心しなければならないのである。

纏つて企業統制について考察するに、企業統制はその使命として、需給統制と價格統制を持つものであるが故に、換言すれば需給の均衡と價格の均衡が企業統制の使命であり、そこに經濟統制の主働的作用の効果が顯現するが故に、もし幸にしてかゝる主働的統制策が完成されるとすれば、資本主義經濟組織は再び恐慌の襲來に遭遇することなくして、安穩なる將來を樂しむことが出来るであらうと思はれる。かゝる主働的統制策にして確立せんか、通貨統制のごときは單なる支援的役目を果すに過ぎないのであつて、インフレーション策によつて恐慌兌服を成さんとするごとき危険極りなき方法は全然不必要となるであらう。

そこで結論するならば、インフレーション策は資本主義經濟組織の行詰りを阿片の吸飲によつて一時忘れようとするものであり、經濟統制は資本主義經濟組織の行詰りを根本的に救済しようとするものであるといひ得よう。企業の結合を阻止する作用を営むインフレーションは資本主義經濟組織の發展をも阻止する作用を営むものであつて、それは同時に將來において恐慌の再發すべきことを豫約するものでもある。吾人は恐慌の惨苦を嘗め盡すだけ嘗めて來たのである。かゝる嘗膽を將來再びすることは何人も好まざるべきは明かである。吾人は最早資本主義經濟組織を統制經濟組織の形態において永遠に安穩の地位に置き得る時期と機運に到達してゐるのである。然るにその好機をインフレーションの一時的陶醉によつて逸せんとするは惜しみてもなほあまりあることではあるまいか。私は識者の深思熟慮を煩はしたい。

終りに附言したきは現今の景氣の性質である。目下の一見しての好景氣は決して永遠の持續を約束されたるものではなくて、私のいふ所の轉向調節的景氣變動——拙著「全體觀的社會經濟學」第二〇二ページ参照——の一齣であつて、恐慌克服の支柱によつて生じた一時的の上昇景氣である。これが相當長期の持續性を得るためには、經濟機構の根本的な安定を必要とする。即ち這

般の恐慌を轉向階段とする次期のより、高度の資本制經濟のための基礎が確立されるを必要とするのである。そのためには、既述せる如く一層の統制組織強化を必要とするは多言するまでもなき事柄である。(昭和八年二月一日大毎エコノミスト掲載)

五 米金本位停止と我國內經濟への對策

米國の事實上の金本位制度からの離脱は、その全國的銀行預金拂戻停止によつて行はれた。彼の國がかゝる運命に到達すべきことは、一般に單なる時間の問題として取扱はれてゐた限り、それが事實となつて現はれても、あへて驚きを新たにする必要は毫もないのであるけれども、豫期したことが事實となつて現はれる場合にも、人情の自然として、精神的に相當のショックを受くることは、否定出來ない事柄である。従つてわが國の定期諸市場が休業したのは、當然の處置として是認され得るのである。しかして兩三日來の新聞紙上に散見する財界のいはゆる諸名士によつて發表された意見のすべては、冷靜に對岸の事態の推移を注視せよといふにあるが、これまた當然の見解であつて、わが國の經濟力的一端をもつて米國の恐慌を救援し得ない限り、泰然とし

て彼岸の事象の變化を視護るより外に何等の仕方もないのである。

勿論米國が金本位制から離脱して純然たる不換紙幣國となるや否やの報道は、筆者が本稿を草しつつある際には未だ筆者の耳に到達してはゐなかつたのであるが、前後の事情より推斷して、事の此所に到るべきを豫斷するは難くないのである。即ち全國の破綻銀行を救済するためには、フーバー大統領時代において採られたところの特別融資の形式における救済方法にては到底不可能であつて——融通必要額が數十億ドル以上に達すべきを以て——如何にしても兌換停止によるより外に方法はないと思はれるからである。従つて今において米國の兌換停止による影響が如何なる作用をわが國內經濟におよぼすかを豫測研究することは、決して徒爾ではない。このことに關しては、すでに諸新聞紙上にも記述されてゐるのであるが、私は少しく目先を變へた考察を行つて見たいと思ふのである。

わが國が一昨年十二月に金本位制から離脱した時以來、我國民中の算盤勘定の巧者な人達によつて「金から物へ」のスローガンの下に換物運動が巻き起されたのであつた。しかして換物運動の中心地帯は兎町および北濱の株式街であつたことは熱知の事柄である。これ等の算盤人達は、

通貨の國內的標準價值が國民の總平均評價において少しも低下してゐないにも拘らず、當時の圓の對外價值の低落率を國內的標準價值の低下率なる如く誇張叱呼して、換物運動を煽り立てたのであつた。勿論軍需品の巨大なる製造注文による不可避的に發生すべきいはゆる軍需インフレは早晚起り得る事柄であらうが、それはこゝ一、二年間の事柄であり、萬一それが數年に亘るものとすれば、その後に来るものは我國運を賭するところの對×戰爭であるべく、然る時は、そこに待ち受くるものは軍需インフレによる爆發景名ではなくして、それは必然的に戰時非常統制經濟の實施でなければならぬ。従つて軍需インフレに期待するところがあまりに大であつては、他日の失望が延いてまた大であらうと思はれる。のみならず熱河の平定が豫期以上に完成され、戰禍が平津地方に波及する恐れなき今日、しかして米國が國內經濟救済に没頭せざるを得ざる結果、太平洋の波浪靜かなるを豫想さるゝ今日、軍需インフレの永續は到底一、二年の後におよぶべきを期待し得ないのである。かくては農村救済インフレも泡沫の如く消え去りたる際、何物かよく我國内にインフレーションを起し得ようか。——軍需品の受注者の殆ど全部は巨大コンチエルの直接間接の枝葉であつて、當該注文による収入の過半、否殆ど全部は、該コンチエルの財的

中樞機關に還流するものであるが故に、廣く一般人の財布の中にまで交附金が流入することを期待し得ないがゆえに、そこにインフレーションの發生を豫期するを得ないであらうと思はれる。

——理實にインフレーションの發生してゐない際に、それを恰も發生してゐるもの如く現在化して換物運動を煽動することは、社會を毒するところ尠少ではないことを悲しまざるを得ない。

米國がその經濟的破綻によつて民國政府の抗日運動を援助し得ないとすれば、すでに述べた如く、太平洋の浪靜かにして、平津地方の風雲もまた平穩なるを得るがゆえに、わが國民はこの好機を利用して米國と親善關係に歸り、民國をして抗日の不利を悟らしめ、なほ英佛等との友交關係を密にして、即ち略言すれば、國際的孤立より國際的親和に復歸して、わが國內經濟を混亂に陥し入れることから救出しなければならぬ。而して米國の兌換停止は更に必然的に佛國のそれを誘導するを以て、全世界は此所僅少の時間の内に、不換紙幣の世界と化することは言ふをまたない。従つてわが國が外國爲替相場の低落によつて受くる利益を失ふに至るべきこともまた明かである。かくては我國内經濟は再び一昨年十二月以前と同一の國際的經濟關係に置かれるものと覺悟せねばならぬ。勿論米貨の對外價值が四、五十パーセントも低落すべしとは今日のところ、

豫想出來ないけれども、米國內の不換紙幣浩出の程度——それは經濟困難救済の程度によつて定まるものであるが——が巨大なる場合は必ずしも實現しないとはいひ得ない。従つてわが國民は今において一昨年十二月以前と同一の國際的經濟關係を想定して、それに處するところの態度を決定し置く必要があるのではなからうか。

わが國が滿洲國との經濟聯盟を緊密にし、その相互に結成する經濟プロツクに據つて、統制經濟制度を完備し、國內的經濟均衡を樹立し得るならば、英佛米等の外國資金の援助なくして國內經濟の維持發展が可能であるかも知れない。しかしながら我國内經濟の、少くとも二〇パーセントは外國貿易に依存するものであり、殊に農村收入の重要な部分を占める生絲の需要者が米國である限り、對外殊に對米親善は不可欠の農村經濟維持の要因である。米國の金本位制からの離脱は、生絲に對する需要減退の原因であるとするは、對米爲替相場を基礎として論ずる限り妥當性を有するも、金本位制停止が經濟恐慌の救済手段であるとすれば、金本位維持による不況の深刻化による需要減退は、その離脱によつて救出されて、將來において却つて増加が豫期されるのではあるまいか。恰もわが國の棉花の需要において現はれたる如き(精製再輸出の事情を除けば)

現象を見るのではないかと思はれるのである。わが對米貿易業者が米國民の不換紙幣による購買力の變化を精細に研究して善處するならば、私は決して對米貿易を悲觀する必要はないと考へるものである。況や米國は今においてもなほ世界第一の金保有國であり、それが平價切下げによる金本位復歸を考慮する時は、決して悲觀の必要はない。これを要するに米國の金本位離脱を直ちに我國内經濟への不利益な作用因としてのみ考察せずして、しかして又外國爲替相場による換算差益にのみ着眼せずして、合理的な經營によつて國內經濟を維持すると同時に、對外發展を策ずることが肝要であらう。(昭和八年三月十五日大毎エコノミスト掲載)

六 ブロック經濟下の爲替觀念

國際經濟會議は遂にまとまる見込がなくなつて仕舞つた。それは、その必然の結果としてのブロック經濟組織の強化への邁進へと、各國を導いて行くであらう。吾人は最早前世紀の遺物たる自由通商の理想主義を勇敢にかなぐり捨て、國家自立主義による自足經濟組織の完成に向つて努力せねばならない時期に際會した。

歐洲大戰後の世界大恐慌は、全世界のすべての國を孤立封鎖經濟主義に轉向せしめるに至つたのであるが、しかし孤立封鎖の實際的な完成は未だ成し遂げられてゐない。それは今や漸く實行の高潮期に向つてゐるに過ぎないのである。殊にオッタワ會議によつて作成された大英帝國の孤立封鎖の經濟ブロックの構成工事は今や漸くその緒についたばかりであり、また米國の孤立封鎖化も今やその序曲を奏しはじめたに過ぎない。従つて、少くとも英米兩國のかゝる企圖が實際において兩國の指導發達によつて豫期されたる効果を擧ぐるや否やの證明がなされるまでは、かゝる企圖の實際化に向つて彼等が邁進すべきは當然でありまた必然である。彼等は國際的道德の尊重を否定するほどの勇氣ある正直者ではない。彼等は法衣の下に鎧を着けた平相國の故智に倣つて、國際的協調を口にしつゝ内密においては孤立封鎖の經濟組織の強化に全力を盡しつゝあるのである。

英國が日印通商條約を破棄したのも實は封鎖組織強化の一手段であつて、決して日本の紡績業者の競争を恐れたためのみではない。我國の紡績絲布が今日の如くインドに向つて侵入しなくとも、英國は必ず通商條約の破棄を提案したであらうと、私は固く信ずるのである。それはブロック

ク強化の必要上必然的に要請せられる手段であつて、決して競争を恐れたためのみではない。従つて我國の紡績業者達が棉花不買をもつて對抗したのは最も拙劣な方策であつたと思はれる。

米國は英國のごとく通商條約破棄のごとき荒々しい對外的手段をとらないで、ドル價低落の一本鎗でもつて見事目的を達しようとしてをるやに見える。けれどもこれもまた、その效果に限りがあつて、一本鎗の成功は覺束ないであらう。米國以外の他の各國が米國に對抗するために貨幣價值の低下を競争的に行なふ時は、元々金保有が多く且つ國富資源のすべてが多い米國は結局において負け勝負をしなければならぬであらう。従つて、米國もまた再び、關稅および通商條約を弄ぶ段取りに到ると思はれる。その時にわが紡績業者は、米棉不買を決議するであらうか。恐らく米國へは紡績製品の輸出が極めて僅少であるとの理由の下に不買を決議しないであらう。これは勿論餘談であるが、とに角に米國が英國の手法を眞似る時が早晚來ることを覺悟してをらねばなるまじ。

そこで本題に歸つて論じて見よう。ロンドン經濟會議の主目的は通貨價值の安定についての國際的協調の相談にあつたと思はれる。然るにその主目的が米國の態度變化によつて——否、米國

の國策の根本的要請によつて——達せられないとなれば、會議の決裂は當然過ぎるほど當然である。従つて又全世界の殆どすべての國が今後續々金本位を離脱する結果、世界は銀本位國と紙幣本位國の二種別となるであらう。しかして銀本位國は經濟的に劣弱であるがために爲替相場算定の基準國であり得ない結果として、世界の各國はいづれも自國の通貨の對外的價值を知る標準を失ふに至るは見やすき道理である。然る時は各國は如何にして爲替相場を統制し得るであらうか。統制の手綱を失つたる爲替相場は一樣に激變の浪の中に漂ふほかはないであらう。

不換紙幣の對外價值指數の算出は、購買力の比價に國家の經濟的信用の比價の逆數を乗じて得られるものであつて、カツセルのいふ如く單純に購買力のみによつて算出し得られない。現に我國の去る五月中の平均對米爲替相場は大正三年の電爲平均相場を基本として購買力比率を乗じて算出すると卅二ドル四三となるけれども、實際は廿三ドル六六である。これは日米兩國の信用の増減率が加算されてゐないからである。そこで日本の信用率を〇・六強とし米國のそれを〇・九弱とすれば丁度二十三ドル強の相場が得られる。即ちその公式は

$$\text{基本相場} \times \frac{\text{米國物價指數}}{\text{日本信用率}} = \text{現相場}$$

竹堂經濟瑣談

となるであらう。従つて物價を騰貴せしめると同時に國際的信用を低下せしめるほど外貨表示のいはゆる受取勘定の爲替相場は低落するのである。従つて國際商戦において爲替相場を楯として勝戦の榮冠を獲んとするならば、信用低下と物價騰貴の原動力たるインフレーションの強行以外に方法はない。しかし各國が同時に競つてインフレーションを強行すれば、遂に紙幣が無價値となるまで競争を繼續するほかはないであらう。かゝることは國民經濟と同時に世界經濟を破壊するものであるがゆえに、絶対に避けねばならぬ事柄である。然らばかゝる競争は如何にして絶止し得るだらうか。

爲替相場の變動の激化は暫く忍ぶべしとするも、競争的な通貨價値の低下は到底耐へ得ないところである。これを一定の安定點にベツギングするを得るものは、各國の一樣なる金本位への復歸でなければならぬ。従つて、各國が前陳の慘禍から脱出せんとするならば、必ずまづ國際的協調による金本位復歸の方策が採用されねばならない。然るに、各國が孤立封鎖主義を完全に遂行する場合は、國際的通貨價値の不安定は何等の價値ある問題ではあり得ないであらう。他國との通商から孤立する時は、爲替相場の安定如何の問題は元より、爲替相場そのものさへも不必要である。

ある。ゆえに、國際經濟會議の決裂は、爲替相場の安定は勿論成立の不必要を前提とする孤立封鎖經濟主義の強行が意味されるものと考へねばならない。

私は世界的自由經濟の理想主義を敢て拒否せんとするものでもなく、また孤立主義を謳歌せんとするものでもない。がしかながら、自由通商の拒否されつゝある今日徒らにわが國のみ舊來の觀念を守る必要はないであらう。われわれは大びらに勇敢に大アジア經濟ブロックの形成に邁進して行くべきであらう。世界がロシアブロック、大英ブロック、西歐ブロック、中歐ブロック、米大陸ブロック等に分化せんとする時代において、吾人はこれ等に對立する大アジア・ブロックの結成に躊躇する必要がいづれにあるであらうか。吾人は英國の好意等に信賴すべき時代から離れてをることに氣づかねばならない。(昭和八年八月一日大毎エユノミスト所載)

七 經濟非常時を論ず

非常時の名において顯現する、目下の世代の非常時たる真相を、本當に誤りなく認識し理解してゐる人々は、いはゆる軍部の人々であつて、一般國民は正確十全なる認識理解を有してをらぬ

ように、私には見えるのである。しかして、私をして腹臆なく言はしむれば、軍部の人々も、來るべき眞の經濟非常時を見透してゐるようには思はれないのである。

滿洲事變の勃發を顧るに、該事變は私をしていはしむれば、たゞ少しく私の豫期よりも早く起つたといふだけであつて、當然起る可き事柄が起つたに過ぎないのである。四年ほど以前に、私は南滿洲共和國建設の必要を説いた論文を物したのであるが、滿洲の我國存立についての關係の重要性を解せざる人の手に託したるために、遂に活字に刷られるにいたらずして止んだのであるが、數年前にすでに、滿洲において一獨立國の成立が要請される事態が認識されたのであつた。否、獨立國存在の必要性は日露戰後において豫感せられ、さらに清朝覆滅において痛感せられるに到つたのである。私は川島浪速氏の運動の消息に多少通ずる所があるために、その感を深くしたのであるが、然らずとするも、少くとも滿洲の特殊性を知悉するものは、當然かゝる必要性を思はないことはなかつたであらうと考へられる。

前述の感想は、我國存立のための自然發生的な必要性から湧出づるものであるが、外部からの衝動によつて生じたものは、國民黨政府の利權回收運動、ならびにその宣傳に因るものである。

國民黨政府の利權回收の主張は必然的に南滿鐵道と關東州租借地の奪還を要求するものであり、滿洲における我國の地歩を根本より覆滅せしめんと企圖の下に高唱されたものであつた。當時の我國の紳士外交或は忍従外交は、自大思想の中華民國人にとつては、日本與し易しの印象を深くするに役立つに過ぎなかつたのであるから、かゝる外交が存續する限り、滿鐵と關東州は條約の期限の如何に拘らず、奪還を強要されたであらうことは、豫想に難くないのである。

國民黨政府が國際聯盟を利用し、米國を誘ふに利權を以てせば、その主張と實際の矛盾を不問に附して、これらの政治諸機關はその尻押の勞を惜まざるべく、我國の歐米恐怖外交家は、一も二もなくその要求の前に膝を屈したかも知れなかつたのである。その時においては、天佑的な柳條溝事件の契機もなく、たゞ勢の赴くまゝに日華間の戰端は世界戰爭の口火となつて開始されたかも知れなかつたと思はれる。すなはち、滿洲問題は今日の如き容易なる解決を得られないことは、何人も否認し得ないところであらう。

従つて現下の滿洲問題を中心としての非常時は、一昨年九月十八日の事件なくして勃發すべかりしそれに比して、極めて困難の度が小であるといひ得るのである。私が柳條溝事件を天佑と

なすは全くこれによるのである。

事實に即して考ふるならば、現下の我國の非常時は、當然あるべかりし非常時よりは、極めて軽度の非常時であるといひ得るのである。しかしてこの軽度の非常時に處するに當り、意識的に計畫的に外侮に備ふるため、軍備を擴充することは、遂に外侮の到ることを未然に防止するがゆえに、非常時は想定的非常時となつて、事實上の非常時と成らずして終ることと思はれる。そこで私は、想定的非常時の終了とともに、それを假りに千九百三十五年とするならば、その年の終るとともに、眞の經濟非常時が来るのではないかと觀念せざるを得ないのである。勿論、千九百三十六年に先立つ軍備會議の決裂が、最大危機であると云ひ得るかも知れないけれども、それは單に軍備擴張競争へのスタートたるのみで、未だ眞の危機を招來するものではないのである。再論するならば、現今から見透し得られる世界の軍備擴張は、千九百三十六年までに完成せられる所のものをもつてしても、決してわが國の軍備擴張によつて對抗し得ないほどの巨大なるものではない。しかしその後に来るところの軍備の世界的擴張は、現時において見透し得ない視界の彼方にあるものである。従つて、吾人の注視を忘つてはならぬところの非常時は、千九百三十六年

以後においてであると斷言し得るのである。

來る可き眞の非常時が千九百三十六年、即ち昭和十一年以後にあるべしとの議論も、これまた豫測に過ぎないのであるが、これには二つの異なる經濟非常時が含意されてゐるのである。

その一はロンドン條約に代る可きものが都合よく締結され、それに關聯して太平洋における安全保障が約定され得る時と、他の一は、かゝる改訂約定が成立せずして前述のごとき軍擴の無制限な競争が行はれる時である。太平洋安全保障問題は、つまりは日米海軍均衡問題であり、それは延いて米國の海軍ならびに飛行機の根據地の問題でもある。飛行機根據地の問題は、つまりは支那に對する米國の飛行機政策の問題であり、それは延いて我國の陸軍防空の問題に關聯するものである。かゝる全面的な考察における太平洋問題が安定を得るならば、我國の軍備の擴充は對露國のそれを除いては、全く必要性を失ふものといひ得るのである。對露軍備にしてからが、昭和十一年までの擴充と滿洲國軍の整備とによつて、その以後の必要性はなく、唯補充改良の費用をもつて足ると考へられる。その時において、私は、我國内に軍需インフレーションの解消が起つて、再び不景氣の襲來を見るのではないかと憂慮するのである。

過年、金本位離脱を主張した論客の多くは、貨幣價值の低下による農村負債の軽減を目的とすることを高唱したのであつたが、金本位離脱後においても、穀價は依然として低迷し田畑地價は少しも騰貴しないし、勸農兩銀行および地方商業銀行の不動産貸出金の融解作用は、殆どいふに足りない有様であつて、地方の景氣は決して好轉してゐないのである。かつまた生絲相場の下押しは地方の憂色をますます深くするものである。従つて金本位離脱の効果は農村救済の方面においては、殆どいふに足りないものであるが、これに反して輸出貿易方面においては、漸次効果を現はし、遂に全世界に日本商品の脅威を押しよほすに到つたようである。しかしこれとても對外的に金價格において計算するならば、輸出貿易が金本位時代よりも倍額に増加しても、決して驚くべきことではないのである。がしかし、勿論、輸出貿易の増加による生産の隆興に原因する國內好景氣の一部分的好轉は認めざるを得ない。これに加へて、戰鬪なき戦争時代たる現在における軍需品需要の激増は、創造されたる國家信用資本による創造されたる大消費の出現であつて、そこに部分的好景氣の到れることは、これまた必然の事柄である。

然らば現時の跛行的な景氣の好轉のうちにおいて、輸出貿易と軍需品製造と、いづれがより大

なる作用力を有するやといふに、その金額からいへばほど同額に達することが、貿易月報および財政豫算表から推知し得るのである。従つてもし、昭和十一年に至つてアジアの平和が確保され得るに至らば、目下の程度の景氣の支柱の一半が失はれることに成る懸念が多分にあり、その時において景氣の崩壊が来るのではないかと思はれる。この推論は、輸出貿易の現状の持續を前提としたものであるが、米國の貨幣政策の如何によつて佛國を盟主とする金本位ブロックの牙城が陥るならば、その前提もまた撤回されねばならないであらう。然る時はアジアの平和來は、我國内景氣の崩落を約束するものであるともいひ得るのである。

アジアの平和は勿論、太平洋の波穩やかなるを得ないと假定すると、どうなるであらうか。そこには國民負擔の加重は益々加はり、平和來の時よりも、より以上の景氣の崩壊作用が起りはしないだらうか。かく考ふるならば、非常時は經濟的にも政治的にも、昭和十一年から眞に起算されるべきではあるまいか。私は識者がこの點に注意して善處の方策を講ずるに遺漏なきを切望してやまなう。

(昭和八年十一月十五日大毎エコノミスト所載)

八 世界の景氣はどう動いてゐるか

世界經濟は上向

世界各國の經濟の現状は、一口に云へば、景氣好轉の途上にあると言ひ得ないではない。少なくとも、景氣最惡の時代を通過して、幾分好氣配を呈して居ると言つて差支なからう。勿論その好轉の氣配は、少なからず人爲的操作に原因して居るのではあるが、それでも事實上、自好に向ひつゝあることは否認し得ない所である。尤も、それは一般的な成行としてであつて、國によつては必ずしもそうでない所があるは、言ふを俟たない。そこで我國と最も密接な經濟關係に在る國の國內經濟状態を、個別に觀察して、然る後にそれ等を綜合して、世界的な成行の主流を捉えて見たいと考ふる次第である。従つて支流的な部分の動向は、假りにそれが反對の方向にあるとしても、此所では殆ど顧ないことにする。

黒字の英國經濟界

先づ第一に英國の經濟状態について考察するに、不景氣のバロメーターそのものと云つても差支ない失業者の数が、本年三月には千九百三十年來の低記録たる二百二十萬人に減少したと報告されたのが、その翌月即ち四月には更に五萬餘を減じて、二百十四萬餘の最低記録を示したと傳へられて居る。それは實に前年同期に比べて六十萬人近くの失業者數の減少に相當するのである。之によつて英國の經濟状態が好轉しつゝあることが看取され得るのである。

又轉じて考察の對象を財政の方面に求めて見るに、千九百三十三年度の歳入超過は三千九百萬磅に達し、その内一部を減債基金に繰入れ、殘餘二千九百萬磅を、所得税、自動車稅等の輕減と官吏減俸半額復舊、失業手当減少全額復活等に充當して、財政上の餘裕を示して居る。右は勿論對米戰債支拂を行はないがために爲し得たものではあるが、それでも尙氣配の好化に拍車をかけるに十分な力となるであらう。更に轉じて他の材料に就て見るに、千九百三十二年度に比し千九百三十三年度の外國貿易は、輸出に於て僅少ながら増加を示し、輸入が二千五百五十萬磅の減少を

示し、而も銑鐵に於て四十五萬噸、鋼に於て百七十餘萬噸、石炭に於て約一千二百萬噸の國內生産増加を計上せるは、同國の國內的經濟狀態が國內的原因によつて好調を示すに到つたことを物語つて居る。此事は英國大藏大臣も認むる所であつて、彼の議會に於ける豫算演說に於てもこの事情が述べられて居る。

米國經濟界の現狀

次に米國の經濟狀態を見るに、ルーズベルト大統領就任後に於て著しき好轉を示して居ることを知り得る。即ち、米國特有の景氣のパロメーターたる自動車製造高によつて見るに、昨年三月中の製造高は十二萬臺弱であつたが、本年三月中のそれは約三倍の三十四萬臺弱にまで増加して居る。之によつて米國內の景氣の好轉を窺ふことが出来る。更に之を鋼の生産高について見るに、昨年三月の生産高は約八十九萬噸であつたのに對し、本年三月には是亦約三倍の二百八十萬噸近くに上つて居る。その他凡百の指數すべて程度の差こそあれ、増加を示さないものはないのである。

佛、獨の經濟界

更に轉じて獨逸について或は又佛蘭西について見るも、それ等の國々の本年度の生産指數は、昨年度の同期指數に比して多少共増加を示して居ることによつて、假令それ等の國々の外國貿易が減退して居つても、國內的原因によつて景氣が好くなりつゝあることを窺知し得るのである。殊に獨逸に於ては、千九百三十三年度の輸出入總額は、千九百三十二年度に比較して、十三億二千餘馬克の大減少を來たし、之に加ふるに金銀の流出は、千九百三十二年度の八千三百萬馬克に比し、千九百三十三年度は四億二千七百萬馬克の巨額を示し、甚敷き逆潮に在るにも拘らず、昨年末の失業者數は失業保險局の報告によれば、一昨年末に比して百七十餘萬人の減少を計上して居り、本年三月には更にそれに近い減少を報じて居る。此は一に國內的原因によるは明かである。

金本位國と金本位離脫國

吾人は上記の英、米、獨、佛の經濟狀態の變化を見て、直にそこに既述の如き國內的原因による景氣の好調を知り得るが、そこには一つの甚しき惱が存在するのを見逃し得ないのである。それは貨幣制度の問題であると言ふ迄もない。獨逸が國內景氣の維持のために、將又往年のマーク貨の慘落の被害を繰返さざらんがために、金の流出に脅かされながら金本位の死守に血泥になつて戦つて居る姿は、悲壯そのものであると云はねばならん。程度の差こそあれ、同じ惱が佛蘭西にも存するのである。即ち金本位制度への執着は、言ひ換えれば金貨幣價值安定の熱願は、貨幣價值の慘落によつて最多く慘苦を嘗めた國に於て甚敷いものであるは當然である。併し乍ら、此等の國々の景氣上向指數が、金本位離脱國又は平價切下國のそれに遠く及ばざるに比較して見るならば、早晚此等の金本位死守國も或は平價切下を敢行するか、或は金本位を離脱するに到るであらうとも推測され得るのである。

金本位國の行く道

再説するならば、金本位を離脱することによつて、より多く景氣を好轉せしめ得ることが、或

は又平價を切下げる事に依つて、より速に好景氣を迎え得ることが、可能であるならば、何を苦んで平價又は金本位を死守する必要があるだらうか。英國及び米國並に我國の先例は、國內物價の騰貴率は、平價切下率或は本位紙幣價值低落率に、必ずしも應從するものでなく、多くの場合國民一般の購買力減少に制約される商品價格の騰勢抑壓によつて、遙にその下に置かれる事を教へて居るのである。例へば米國の卸賣物價指數は、アナリスト誌によれば、千九百三十二年十二月のそれは、千九百十三年のそれを一〇〇とすれば、八五・七であるが、千九百三十三年十二月のそれは一〇三・三であり、本年三月のそれは一〇八・二であつて、平價が四割切下げられたにも拘らず、物價平準は或は二割引しか、或は二割六分強しか騰貴して居ないのである。又英國に於ては千九百三十一年九月に於けるエコノミスト誌物價指數は八九・六——千九百三十三年を一〇〇として——であつたのが、本年二月は九六・六となつて居るに過ぎないにも拘らず、平價は四割強の低下に相當するものと推定され得るのである。我國に於ては更に甚しく本年四月の日銀物價指數は大正三年を一〇〇として一七六九であるが、本位紙幣價值は約六割の下落を金價值に對して經驗しつゝある。従つて、獨佛等の金本位死守國が此等の事例に想到する時、必然的に平價切

下又は金本位離脱の途を選ぶに到るべき事が考へ得られる。

併し、佛國はその國家的體面としての金本位の死守に、今後尙相當の年月に亘り努力し得る實力を有するも、獨逸は早晚金本位の離脱、而して平價切下の舉に出でざるを得ないであらう。獨逸が金本位離脱のまゝ英國及び我國の如く久敷に亘つて居るか、將又米國の如く速急に平價切下による金本位復歸を爲すかは、同國の兌換準備資源の多少と、その吸收の難易に因るものであるけれども、今日の同國の金保有高を以てしてよく急速の復歸を期待しながら金本位を離脱することが出来るとは考へ得られない。獨逸の金本位離脱は、我國以上にその復歸が困難であることが豫想される限り、容易に行はれないであらうが、否容易に離脱をなすことを欲しないであらうが、客觀的情勢の逆潮が持續する限り金本位離脱は必至の運命であるだらう。かくては、それが和蘭に、瑞西に、而して佛蘭西に如何なる影響を與ふるかを考ふる秋は、英米並に我國等の金本位離脱國又は平價切下國の好景氣の將來が疑問となるのである。

日、英、米の好況の正體

英米並に我國等が今日の好調を保ち得る所以は、貨幣の對外價值の下落に比して國內物價の騰貴率が少なく、従つて、國外よりの受入れ所得が國內に於てより、大なる購買力源泉として作用するに存するものであつて既述の如く國內産業の繁盛と失業者の減少を結び合せて、それを純國內的に解釋することは、聊か妥當を缺く嫌があるやに考えられるのである。詳説するならば、英米日の景氣の好調の程度と——我國が英米兩國よりもより、多く好況であるは、貨幣價值の低落の度がより、大であるのと、軍需工業の拍車が作用するためであるが——獨佛の好調の程度の差を研究することによつて、吾人は容易に純國內的原因として前述した所に少しく考察の粗漏があることを發見し得る。即ち、前述の如く、我國に於ける特有の景氣好轉原因たる軍需品需要を除外して考察を加ふる時は、英米日等に於ける景氣好調の原因は、貨幣價值下落又は切下の程度よりも物價平準の昇騰の程度が少ないと云ふことにあるのである。而してかゝる原因の實體は何であるかと云ふに、國外取引——それは主として金本位國との取引であり、次では平價切下又は紙幣價值低落の程度の小なる國との取引である——の齎らす收入が貨幣價值の對外的下落率と物價の國內的騰貴率の差に相當するだけ、より、大なる購買力として作用するのであるが、つまりはかゝる收

入が謂ふ所の實體に外ならないのである。即ちかゝる天來の收入増加が創造的購買力としてより多く好調なる國內景氣を出すのである。

世界經濟界の二潮流

前述の如き修正を加えて、日英米並に獨佛等主要各國の景氣の歩調を観察するに、獨佛等が金本位を離脱した場合は、前述の如き購買方の創造が困難となるから、獨佛の本位紙幣の價值の低落の程度だけ、又米國式な急速復歸による切下に於ては、その切下の程度だけ、その他の國の景氣の拍車が作用力を減することになるから、日英米等の景氣の好歩調が阻害されることが想像され得る。つまり、目下の世界には二つの景氣の主流があつて、その一は比較的急速に好景氣に向ひつゝあるものであり、他の一は極めて遅々たる歩調で好景氣に向ひつゝあるものであつて、而して後者は前者の犠牲たるがためにその好轉の歩調が鈍く、而も動もすれば逆轉の危險を包蔵する所からして、或は前者の足跡を追従せんとする氣配を有するのである。従つて、後者が前者の例に倣つて離脱切下を斷行するならば、二つの流れは平均運動を起して、前者の歩調は歩みを止

め或は後退して、後者の進出と歩を俱にするに到つて、世界の景氣は全部同一歩調に於て好景氣への進軍を行ふであらう。

資本主義の前進と世界經濟界

金本位離脱國或は平價切下國の急調も、金本位國の鈍い歩みも、その好景氣への方向は同一であつて、而してかゝる同一傾向の生じたる普遍的な共通的原因は何であるかと云ふに、私はそれは、歐洲大戰後の恐慌の瘡痕が多年の調節作用によつて漸く全癒の域に達したによるものと考えるのであるが、その治癒の状態が國內的形式に於て現はれるのは、貨幣制度の孤立性によるものと信ずるのである。

が併し兎に角に世界の經濟は、恐慌克服のために執つた企業の合從連衡による所の資本主義的經濟統制が廣く行互つたことによつて、恐慌なる病氣を征服して、一段と進歩したる資本主義組織を形成するに到つたのである。従つて經濟統制の下に於ける景氣は一路好景氣に向つて進むべきは、理論上からも必至の成行として認諾されるものである。唯我國として憂ふべきは既述の

平均運動の來るべきことが豫想される一事である。

(昭和九年七月一日實業之日本掲載)

九 最近財界の展望

一、序

只今御紹介に預りました武田でございます。先般當會議所の堀内さんがお見えになりました、何か話をせよとの御命令がありました。私極めて多忙でありまして、何の準備も出来ませぬので實は躊躇致したのでありますが、會頭からのお話もあるといふ事を承りお断り致すのも却つて失禮かと存じお引受け致した様な次第、御承知の通り大阪は先般商工祭をやり、その總務とか色々、會議所が引取られましたので日々忙殺されて十月中に自宅で食事を致した事は、二回しかない様な状態にあります。お話致す事をお引受けしてから、何等の準備も實は出来ませぬので、商工祭は一日二日とありまして、二日にも講演を大阪の公會堂に於てやりましたが、夫も

只私その場の責任逃れをして、済ませた様な事でありまして、當地に参つてお話し致すに就て、相當纏つたものをと考へてをりましたが、さういふ事情で何等準備も出来ませぬが、只茲に統計を澤山材料として持つて参りましたのでありますが、それで即席と申すと失禮でめりますが、お話を致すより仕方がありません。尙最近の支那の貨幣制度の變革に就て何かお話をしたらどうかとの會頭からのお話がありましたので、夫に就て極く僅であります、考へました事がありますので、その點にも少し觸れて責を果さして頂きたいと存する次第であります。

二、消費中心の經濟界

最近の經濟界と申しましても、殆ど經濟界の狀態が純粹の經濟的原因によつて左右せられるのでなく、何といひますか、特に日本などでは軍事といふか、さういふ軍國主義的の何らかの政策が第一に經濟の主たる地位に置かれてゐる様に思はれるのであります。

從來の十八世紀以來唱へられた自由主義といふものはその影をひそめ、何でも統制といふ國家的色彩が多くなりました。その基本を爲す物は軍事的の要素でありはせぬかと思つてをります。

併し此軍國主義的の一つの國家の政策が、經濟に對しては大變良い影響を與へてゐるといふ事が今日に於ける經濟界の現狀に於て特に注意すべき事柄ぢやないかと考へるのであります。

今日の日本の經濟は申す迄もなく、軍備擴張、軍事インフレーションといふものが、經濟を良くしてゐるといふ事は、争はれない事で又その他に日本の通貨の對外價值の下落による、輸出貿易の増進といふ事も考へられます。特に本市の如き貿易關係のある生産業の盛んな所では、非常な好影響が表はれてゐます。是は大阪市も同様であります。併乍ら輸出貿易の問題を離れて軍事に就て私が從來研究した處によりますと、是は矢張り軍事といふものも、一つの消費經濟として重んずべきものではないかと考へます。

で「最近の經濟問題」といふよりも、私のお話申す事はむしろ「軍備と經濟」といふ風な題目にしてお聽きを願ひました方が良くはないかと考へてゐるのであります。

從來凡ての經濟の發展の基礎は生産にありといはれてをりますので、昔は何でも物を造る、凡て生産の發展を第一條件にしてゐましたが、此消費經濟が段々完備して來ますと、生産第一主義よりもむしろ消費第一主義に變つて來てゐるのではないか、つまり消費といふものがあつて、夫

れに合せて生産が起るのである、作つた物が賣れ、ば良いがさもなければ賣れるだけ作る、そして滞りなく賣れる様にする。夫が又今日の統制經濟といふものゝ實體を見ると矢張りさういふ處に歸着してゐるのではないかと思ひます。

統制の必要といふ事は結局生産の自由は消費の不足によつて束縛されてゐるのでありますから消費の不足を補ふ仕事を講じて夫に適合する様にする、そこに經濟統制が生じたのではないか。外國貿易のコーターステムとか關稅障壁とかも結局消費を第一に置いて考へて見るといふ風にしてゐるのではないか。勿論安い品物を澤山入れて十分な消費をする方が良いのであります。しかし軍國主義的思想を帶ぶ場合はさういふものでなく、消費といふものを前提として、國內の生産を夫に合せて行く、さうすると不足だけの輸入の統制を行ふといふ結論になるのではないか、之を認識して考へますと、消費經濟を第一に置いて輸入を適合させるといふ段取りが採られると考へます。

夫で消費を増すといふ事は即ち購買力を増さねばならぬといふ事であつて、購買力を増すにはどうしたら良いかといひますと、結局私の研究しました處によりますと、お互に何らか蓄積貯蓄

してをいた購買力を持出して来るか、若し蓄積された購買力を持出さぬならば新に購買力を作つて購買力を増す。夫に應ずる様に生産するといふ事ではなければなりません。さうすると新に購買力を作るには各個人では出来ぬ事であつて、收支計算を頭に置かず、足らぬ物は借りて来て生活をするといふ事は、個人には許されて居りませぬし、又個人の集つた法人經濟に於ても許されませぬ。收支計算を度外視する事は、中央政府の財政に於てのみ許されるのでありますから、そこに中央政府によつて購買力の創造といふか創始といふか、さういふものがあつて始めて生産の増加が今日の事態に於て齎られるのである、斯う考へます。

三、國防財政と消費

さういふ事態から見ますと、今日のインフレーションといふものは全く時代に適したといふか或は經濟の萎縮してゐるものを振興せしめる爲に當を得た政策であつたといふ事が、今日になつて發見出来るのではないかと思ひます。

初め赤字公債の發行といふ事、不健全財政の下に軍備を擴張する事は、大變不都合な事である

といつて反對した人が澤山ありましたが、今日の實績に徴しますとさうでなく、是が日本の萎縮せる消費經濟を購買力の創造によつて振ひ立たせ、従つて生産經濟が盛んになつて來たと思ふのであります。

従つて赤字公債は結局日本國民の購買力を増すけれども國民の負擔をそう増大せぬから、十數年位の間を考へて見ると大した國家の負擔でなく、購買力を増進して經濟を立直した偉大な功績があると考へてゐるのであります。

特に最近某方面より對露滿の關係から、軍備といふものは今後相當充實しなければ非常な危険であるといふ事を吾々に教へられました。併し特に現在の狀態に於ては露滿國境の兩方の戰鬥力は日本の方が優れて居る、従つてロシアは露滿國境に軍備を固めてゐるが、向ふの武力が弱く日本の進撃に堪えぬから、アーいふ風に軍備を整へてゐるのであります。

併しロシアの國力は非常に發達して來てゐます。特に昨日某氏の話によると今の所では日本が優つてゐるが、ロシアの生産力といふものを能く調べて見ると、凡ゆるものを犠牲にしても、或一つの事を爲さんとすれば夫を斷行する様な組織になつてゐるから、極東に彼等が軍備を殆ど充

實し、イザ日本に向つて進撃しやうといふ考へになれば、立處に爲し得るのである、彼らの生産力とか機械力は今では恐るゝに足らぬが、五年六年後を考へると彼らの進歩の力、生産力増大の割合は日本の今日の力では到底追つ附けぬ。従つて此ロシアの生産力に對抗して行く爲に、特に軍備上重大な整備をする上に於て餘程覺悟せねばならぬ。彼らは今は弱いが、強くなつて來れば決して黙つて居らぬ。「北鐵讓渡なども非常な損失である」といつて、ロシアでは後悔してゐる人がある。彼らはアフガニスタン、トルコ方面には非常に懐柔策を講じてゐる。ア—いふ方面の經濟的工作が終つたといふことになれば、極東に刃を向けて來るのではないか、此點から考へて大に今日から準備せねばならぬといふ話を聞きました。

御承知の通りの日露戦争の例もあります、今日ロシアは社會主義國家ではなく數年前から赤色帝國主義の國家といふ名を、私は附けてゐますが、事實に於て軍國主義、帝國主義のもので、色が赤いか白いかの相違に過ぎませぬ。従つて之に向つて備へる事は必要であるといふ事を、考へてをらねばならぬのであります。

さうすると日本今日の經濟といふものに對する軍備といふものが非常に重壓になつてその結果

所謂悪性インフレーションといふものが起つて日本の經濟は破壊されはせぬかといふ危惧を抱きさういふ議論が世間で多く行はれてゐますが、最近新聞で御覽の様に東京方面に於ける財務當局は勿論、銀行家にしてもその他にしても、如何なる犠牲を拂つても軍備は擴充して置かねばならぬといふ考へになつてゐます。是は多少陸軍のオドンが利き過ぎたかといふ風に考へる人があるかも知れませぬが、事實オドカシでもなからうと思ふのであります。

そこで吾々が經濟の現情を能く觀察し、將來に至つてどうなるかといふ關心を持つ限り、どういふ風に見通しをして行けば良いか、過去及現在に即して將來を如何に判斷すべきかといふ事が皆さん御關心の點でもありますし、その判斷が正しかつたならば、その判斷によつて經濟が指導され、安全なる状態が長く續くのではないかと考へるのであります。

四、列國の軍備状態

そこで少し脇道へ入る様であります、列國の軍備の状態を先づ頭に入れそして日本の軍備に就ても、モウ少し吾々反省すべき處を考へてみやうと思ふのであります。

夫で最近に於て彼の社會主義經濟學者たるバルガといふ人の書いた「政治經濟社會的恐慌」といふ書物があります。夫れを讀んで見ますと日本は甚だ軍國主義の國であつて總豫算の五割近くも軍備に出してゐる、しかし其の他の國は非常に低いといふ事を書いてゐます。之に就て私の調査した統計がありますが、イギリスは昭和六年は總豫算に對して一割一分が軍備、昭和九年は一割三分強に増してゐます。しかし夫れでも一割一分乃至一割三分でありませぬ。次にアメリカは二割一分から一割八分に減つてゐます。是は減つたのは事實であるが、多少統計材料の關係に於て軍事費を算出する項目の變更によるから事實減つては居らぬと見てゐます。夫からドイツは五パーセントから三パーセントに減つてゐます。是は明かでありませぬ、次にフランスは廿五パーセントから廿一パーセントに多少減つてゐます。イタリーは昭和六年は廿五パーセント餘、夫が廿一パーセントに減つてゐます。之も事實上の減少ではなく、植民地から澤山出してゐますから之を入れぬとすれば本國の軍事費は減るのであります。ロシアは昭和六年の五・八パーセントから昭和九年は九・八パーセントに増してゐます、殆ど倍近く増してゐるのであります。次で日本を見ますと普通日本の外形の統計に表はれてゐる所を見ますと、昭和六年が廿九パーセント、七年が

三十四パーセント、八年が三十六パーセント、九年が四十パーセント、十年が四十六パーセントと斯ういふ風に遙かに總豫算の半數を軍事費に出してゐる事に、此統計丈けからなら當るのであります。

併乍ら是は少し豫算の採り方を考へますと日本は決してソンの大きいパーセンテージの軍事費を出してゐるのではないのであります。

然らばどういふ風に計算するかといひますと一般會計と特別會計とを總計します。日本程特別會計の澤山ある國は他にありませぬ。兩方併せますと殆ど倍以上になります。昭和六年の一般會計は十四億九千、特別會計が廿八億八千、倍であります。昭和七年が一般が十九億四千、特別が三十七億四千、八年の一般が廿億二千に對して特別が五十一億一千、九年の一般廿一億に對して特別が六十八億七千、三倍以上であります。十年が一般廿二億一千に對し特別が八十一億六千、四倍であります。

斯様な多額の特別會計があります。にも不拘その會計は、政府の財政の外にあるかの如く計算して、而して統計を上げるものですから外國の學者達に利用され、日本は軍國主義の國である。

歳計の半數を軍備の爲に出してゐると宣傳され、外國で軍擴の材料とされます。ロンドン軍縮會議の様な物に於ても斯ういふ統計の誤りが英米佛あたりの政治家の頭を支配してゐます爲に非常に不利な點に置かれてゐると思ひますから、此點大聲叱呼して軍備の少い事を説かねばならぬのであります。

五、日本の軍事費は多からず

そこでさういふ兩會計を合計して、一般から特別、特別から一般といふ風に、支出が重複してゐるものを除きますと、昭和六年は全豫算を合せて三十四億五千に對し軍事費が四億五千、一割四分六厘に當ります。之を一般會計丈けで見ますと二割九分四厘に當りますが、一般特別總計算から行きますと一割四分に減ります。昭和七年は總額三十九億二千に對して、軍事費が六億九千であるから、一割七分七厘であります。是は又一般會計丈けですと、三割四分七厘になります。昭和八年四十九億六千に對して軍事費が八億二千ですから一割七分二厘。昭和九年は六十六億五千に對して、軍事費が九億二千でありますから、一割四分二厘、前の一割七分二厘から見ますと三

分減つてゐます。昭和十年は七十八億七千の總額に對して軍事費が一十億三千でありますから約一割二分の割合になつてをります。

此點からしますと日本の軍事費は段々低減してゐるのであります。日本國家の全財政に比べて日本の軍事費は一割二分位であるといふ事は、決して外國、特にイタリーとかフランスとかの如く二割以上のものに比し、又米國の一割八分に比しても、非常に低いといふ事が判るのであります。

ですから日本の軍備は餘り擴張されてゐるといふ風に見る事は、誤ではないかと考へるのであります。

斯く申しても決して陸軍から、さういふ宣傳をして呉れと云ひ附かつて來たのではありませぬが、吾々の認識を新にする必要がありはせぬかと考へるのであります。

只問題は公債が餘り多くなつたから、どうするかといふ問題、従つて悪性インフレーションといふ様な問題に觸れますと、金融政策といふ上から心配が起るのであります。是は冗談でありませんが、餘り公債を發行され、悪性インフレが起る心配があるなら日本は以前昭和六年に平價の切

下げをした。通貨に於ける平價の切下げであります、赤字公債が餘り多くなれば、公債の平價といひますか、額面切下げをしたら良いぢやないか、持つて居れば五十圓にしか賣れぬといふより、七十五圓位に切下げて、夫で保つ様にすれば五十圓に下がるよりも良い。さうすると公債を持つ者、特殊銀行、保險會社などでさういふ公債に備へる爲に、毎年公債の償却を行ふだけで良いのではないかといふ事を申した事があります。

さういふ事は結局昭和二年の金融恐慌に於ける様な非常対策であります、さういふ事をすれば結局經濟的破綻を來さないで済む、損失は是は適當な處置によつて丁度曩の恐慌を防いだと同じ様な、特別融通法などで尻拭ひをすれば良いと思ひますので、結局心配する事はないと思ひます。

しかしその以前に今日の通貨の模様を研究しますと、結局茲暫くの間軍事費の重壓はあるが其の國民經濟の根本を破壊するものではない。今日行はれてゐる赤字公債の發行による購買力の創造といふものをやめたならば、却つて大恐慌が起つて來はせぬか。若し財政が健全ならば日本の圓の對外價値が上つて來る、さうすると今對英爲替が一志二片であります、是がグン／＼上つて

來る、すると輸出品の採算が悪くなつて輸出貿易が萎縮しはせぬか、斯ういふ懸念があります。

従つて輸出貿易、車需工業によつて金儲けがモウ少し出來、さうして國力が強固になるまで赤字公債政策を續けて行くといふ事は却つて日本國の利益ではないかと考へるのであります。

六、公債續發の可能性

そこで先刻申しました赤字公債の尻括り策が出來れば心配はありません。その尻括りは随分先の事で夫に到る以前に金融操作によつて、何年か安全を保つ事が出來ればその間に尻拭ひに要する資金が蓄積されますから國民は蓄積された力の幾分を出した丈で、尻拭ひが出來、百萬圓儲げた者は五十萬圓吐出して五十萬圓残るといふ状態に達するもので、此政策を繼續する方が國民經濟上良いといふことを、斷言したのであります。

是は餘り大膽な言葉であります、今茲で赤字公債を發行せず、色々の事を停止しましたら却つて破産者が續出すると考へますから、その點から赤字公債不可論を多少訂正して置く必要が發見されると思ふのであります。

今日までの公債發行その他の状態を少し調べて見たのでありますが、夫は兌換券と公債發行の割合といふものを、常に見てをりましたならば、日本の赤字財政による悪性インフレーションが起るかどうかの、そのポイントを掴む事が出来ると思ふのであります。

之を統計によつてみますと、昭和六年度の平均した日本銀行の兌換券發行高は十億三千萬圓であります。夫が少し下つて七年は十億二千七百萬圓になり、昭和八年は十億九千八百萬圓、九年の平均が十一億六千四百萬圓、十年は八月末までを平均したのであります。十二億一千八百萬圓であります。さうすると六年のデフレーションの影響を受けて、七年は不景氣であつた關係上通貨の流通高が三百萬圓減つてゐますが、八年は七百萬圓ばかり増加し、九年度には六千六百萬圓ばかり、前年度に比して増加してをります。十年の八月までを採りますと、九年に比して五千四百萬圓以上、通貨の流通高が増加してをります。即ち六年に比べ或は七年に比べて約二億圓近くの通貨が増發されてゐる事になるのであります。今日まで通貨が二億圓ばかり、五年も増加して居りますのに日本の經濟には何ら悪調が表はれてゐませぬ。

一方公債の増加はどうかといひますと、少し調べて見ましたが、茲に申すのは内外債共の統計

であります。外債は増して居りませぬ。昭和六年の統計が五十九億五千萬圓、七年六十一億八千八百萬圓、八年が七十億五千萬圓、九年が八十一億三千九百萬圓、十年三月には九十億九千萬圓となつて居ります。此十月末日には九十五億四千であります。

でありますから昭和六年に比し三十六億近くの増額がされてゐるのであります。ですから三十六億の公債が増加してゐるのに兌換券の増加が僅か二億圓であります。約六パーセントであります。一ヶ年平均して公債發行額の六パーセントしか兌換券が増加せぬといふ事から割出しますと此金融操作が非常にウマク出来てゐる。その爲に斯ういふ割合で毎年公債發行の六パーセント位づゝ増し、或は通貨が五千萬圓六千萬圓、毎年増發されても、悪性インフレーションが起るなどゝは考へられぬのであります。

日本の今日の國力は非常に増加して居りますから、通貨が二十億になつても、日本の今日の國力が昭和六年に比すれば倍になつてゐますから、國民は憂ふべきではなくむしろ此通貨の量が少過ぎはせぬか位に私は考へてゐます。

そこで日本の生産力がどういふものかといふ點を調べますと能く諒解せられると思ひますが、

日本國民の生産力を調べる統計は極めて杜撰な物で、茲に數字を申しても商工省も統計などやつてゐますが、實に杜撰であると思ひます。しかし兎に角その數字を目標にして考へますと、昭和六年全國民の生産力は五十二億ばかりと計算されて居りましたが、昭和七年は六十億、八年には七十九億といふ風に増加して來てをります。八年以後の統計はありませぬが、商工省が始終出してをります主要工産品の統計を調べますと昭和八年は三十一億の割合でありましたが、九年には三十六億に増加してをります。十年八月までは既に二十五億の生産がされてゐます。

此工産品の外に農産物初め、凡ゆる生産物を合して私の推算であります。今日生産力は少くとも百億といつても過當ではないと思ひます。

従つて昭和六年に比べますと約二倍に増加して而して通貨は約二億圓にしか増加してをりませぬから如何に通貨の状態が健全であるか、生産力が増せば通貨も増して良いのではないか、同じ割合といふ事はいへませぬが、それでも二億の増加は少いのではないか、二億の増加といひますが、尙能く調べて見ますとその内に朝鮮銀行保有の日本銀行兌換券が可なり増してゐます。五千萬圓ばかり増してゐます。ですから二億増發されました内、内地にあるものが一億五千、アト五

千萬圓は朝鮮銀行の金庫の中に取りまして、銀行券發行の準備として、その財布の中に入れてゐるのでありますから、通貨の増量は私は一億圓そこゝの物ではないかと考へてをります。

従つて毎年五六千萬圓増加するといふ通貨が、十年して假りに六億圓増加するとしても、今日に比すると十二億の兌換券が十八億になる丈けである。今日之丈けの大生産力のある日本國に於て夫位の増加を見ても決して悲觀すべきものではないと考へるのであります。

七、潜在購買力の増加

尙此公債發行と兌換券の増發といふ事は一は國民の持つてゐる購買力の増加、潜在購買力といつてゐますが、潜在で現はれるのであります。いつでも物は買へるが兎に角仕舞つて置かうといふ購買力、預金とか貯金となつてゐる購買力の増加を調べて見ますと、此兌換券が増加せぬ所が發見せられるのであります。貯蓄と郵便貯金の數を擧げて見ますと、振替貯金は除きますが昭和六年廿六億、七年は殆ど同じ、八年が廿七億、九年は廿八億、十年は廿九億九千萬圓、是は八月末であります。さうしますと預金者の數で割つて見ますと、六年は三千八百萬人程ありまし

たので、一人當り六十七圓六十四錢のものが十年になりますと四千萬人に増加して一人當りが七十四圓八十錢、一人當り七圓の増加になつて居ります。金額にして三億以上四億近くの郵貯の増加であります。

夫から尙その他は是は貯蓄銀行の例を探つて見ますと、その預金に於ても昭和六年は十六億、七年は約同じであります。八年になりますと十八億、九年には十九億、十年には七月で廿一億となつて居ります。

斯くの如く貯蓄銀行の預金が、全國で五億圓を増してをります。ですから郵便貯金の増加が約四億圓近く、貯蓄銀行の預金が五億圓ですから、九億圓國民の購買力が増してゐる事となります。

夫れから普通銀行の預金も年度によつて申しますと、無味乾燥でありますが序に申しますが、昭和六年の日本銀行の預金が八十二億六千、是は組合銀行も入つてゐる物であります。七年が八十三億、八年が八十八億、九年が九十三億、十年が九十五億幾らになつてをります。是は又十三億位の増加であります。日本全國の潜在購買力は、此五年間に約廿億増加してをります。之丈け

増加がありますから先に申しました赤字公債の尻拭ひに二割の費用を要するとすれば、國民の貯金で尻拭が出来るといふ状態であります。

昭和二年の時のやうに新規蒔直しをする國民に覺悟があれば赤字公債を始末して同時に海外市場を確保するといふことも決して至難ではないと思ひます。

今日數年の経過に徴しますと、公債の増加による事は決して憂ふべきものではないと考へるのであります。同時に尙銀行の貸出高を調べて見ますと、御承知かと思ひますが貸出しは段々減つてゐます。昭和六年組合加入全國銀行の貸出は六十七億幾らありましたが、七年は同じで八年は六十五億に減つて居ります。九年は六十二億、十年は同じであります。六十七億のものが六十二億に減つてゐます。年々減少してゐます。最近少し増しましたが、一般に於て貯金は増し乍ら貸出高の減少するのはどういふ譯かといひますと、是は輸出貿易、或は軍需工業によつて國民が儲けた利益金を以て事業を經營してゐる。即ち銀行から金を借らずに利益の一部を以て經營しますから、銀行の預金が殖える、貸出しが減つて來るといふのですから、今日の状態が續けば國民の經濟力といふものは大變良くなるのではないかと思ひます。

斯ういふ觀察をして來ますと將來決して悲觀すべきものではなく、大に樂觀して愉快に進んで行く方が良い、併乍らこの間に將來來るべき準備を怠らない。つまり儲けた金を使つてしまふとか、固定させてしまはず流動資金の形に於て常に保有すればヨーロッパ大戦後に於ける如く、或は昭和二年に於てクライマックスに達した、ア一いふ恐慌といふものは今後來ぬであらうと思ふのであります。

併乍ら斯ういふ事を判断しますには一面に於て經濟機構の變更といふ事も考へねばならぬと思ひます。ヨーロッパ大戦後に於ける統制經濟によつて、經濟機構はその以前の自由經濟バラ／＼の經濟機構とはスツカリ違ひます。商業組合、輸出組合、その他の任意の組合によつて、事業カルテルによつて固められてゐます。此カルテル結成を強硬にすれば昭和二年の様な恐慌は來ぬであらうと私は思ひます。夫らの類似のものは來るとしましても、矢張りカルテルの結合によつて支へる事が出來様と思ひます。百パーセント支へられぬとしても途中で押へられれば、昭和二年の惨害を繰返さずして済むであらうと思ふのであります。

此點に於て吾々は意を強うしてゐて差支ないと信ずるのであります。

で斯ういふ風に大體の狀勢を判断して私は居りますが、皆さんの中には勿論大に反對で悲觀せねばならぬといふ風に、考へてをられるお方もあると思ひます。是は株式にしましても賣りと買ひと違ふやうに私の考を百パーセント、アクセプトして頂かうとは思ひませぬが餘り強く悲觀する必要はないと思ひます。

八、圓貨幣による日滿支經濟プロツクへ

モウ少し廣く見ますと、滿洲事變以後日本の經濟的勢力といひますか、圓貨の勢力範圍が朝鮮を經由して滿洲に擴まつてゐます。此勢力を考へますと今内地丈けで十億の兌換券が發行されてゐますが、此朝鮮を通じて滿洲とスツカリ、リンクアップされた日本の通貨は五億六億増加しても決して心配はない、通貨の流通範圍が擴がつた以上、餘り心配はないと觀測する事が出來るのであります。

そこで一轉して支那の最近の通貨政策といふもの、是は二三日前の事ではありますが、あの變化に就て考察して見ますと日本の通貨政策は將來益々容易になりほせぬか。責任は加重しますが又

面白い場面を將來現はしはせぬかと思ふのであります。夫は數日前、滿洲の國幣が日本の圓とパーになつた。日本の一圓が滿洲の一圓と同じになつた。此操作は數日前から新聞記事が停止されてゐますから知らぬ人が多い様であります。圓と同じになり滿洲國幣が流通してゐるといふ事はむしろ日本の圓が版圖を擴大したものであるといつて良い。滿洲銀行は別に準備金を備へて制度を別にして發行してゐますが、政治的にも日本と一體であると同じく、日本の圓がパーで取引されるといふ事は國境の障壁をなくして滿洲國に通じ得る事になつた左證でありまして日本人が滿洲に於て經營してゐる商賈が銀の變動による損害から免れる點丈けでも大變な障壁が除かれる事になります。前途平坦な道を歩む事が出来るのであります。

昨日大阪商工會議所に奉天の商人が見えてのお話にて、吾々は三十年間奉天に住んで商賣をしてをつたが、一年として銀相場で損をしなかつた事はなかつた、商賈で儲けても銀で損をした。私は滿洲事變以後金建で賣つてゐるが、しかし銀はその日の相場で受取らねばならぬ、受取るその翌日變動が來てゐるので一夜の内に何パーセントとか損をする、さういふ損害が除かれて大變都合が良いといつて喜んでをられました。その事實に併せて二三日前にありました支那の銀本位離

脱、是は日本の國力或は圓貨といふ物を以ての金融的に支那への侵略の途が開かれたといふ風に解釋せねばならぬと思ひます。夫はどういふ事かといひますと支那では滿洲に於けると同じ様に銀相場がありますから、日本商人は常に銀の變動に苦しんで居りました。處が幣制を改革して紙幣になりました。夫で新聞の報道によりますと一元が一志二片^{レリツグ}とか三片^{ペンシス}とかいふ話ですから之をポンドに繋いで一志二片半とかいふ事にする。日本の圓がロンドンで一志二片幾らで釘付けになつてゐますが、リースロースが日本へ來た時に御承知の通り滿洲國を承認してやるから夫で支那に對する援助を日英共同してやらうぢやないかといふ事を提案しました時に日本の外務省は滿洲國なんか承認して貰はなくとも良いといふ返事をしましたが、滿洲國を承認されると、國境が一定して仕舞はれて色々な工作をするのに都合が悪いのでリースロースの云ふ様に滿洲國の承認と交換條件でイギリスの勢力を對等に認める事は出來ぬといふ事を答へたのであります。

そこでリースロースは非常に失望して歸りました。夫で支那に對する一千萬ポンドの借款、あれは否認してゐますが實は出來てゐるのであります、外務省の發表は國內に對する申譯けであります。イギリス政府がしなくても香港上海銀行がしてゐますから當然是はイギリス丈けでなく

その裏にはアメリカがあるといふ事が考へられます。どういふ譯かといひますと支那が銀本位を離脱した事はアメリカの銀政策に痛痒を與へます。アメリカは支那といふ國は銀本位國であるから銀を買ふ、支那の購買力が増したらアメリカの貿易が非常に都合が良いといふ事をいふてカモフラージュして銀鑛を持つてゐる資本家とルーズベルトとの間で政策が行はれてゐるのであります。支那が銀本位を離脱するとその口實がなくなりますから、之に對してアメリカの諒解を得ずして出し抜けにしたらアメリカはイギリスに抗議を申込む譯であります。さういふ報道がないとすれば事前に於てアメリカ、イギリス諒解の下にリースロースが香港上海銀行を經由した借款を成立せしめたと考へなければならぬ。さうすると一千萬ポンドでなく英米が手を繋いだ勢力はポンドブロックを経て支那に進出して行くのである。斯ういふ風に解釋せねば腦臍の悔があらうと思ひます。

そこで日本の圓がポンドに繋つて一志二片幾ら、支那の元が同じ様に一志二片幾らといへば日本は茲で從來の如き支那の自力更生とかいふ政策を捨て、むしる英米と提携して支那に金融的財政的援助を與へ、日本の圓がポンドに繋がつてゐる一志二片幾らと同じ様に支那の元も一志二片

幾らに安定する様に努力しなければならぬ。茲で英國が出し抜いたからイヤだといつて退く時ではありませぬ。日本は英國の尻馬に乗るのは不愉快だといひますが、對米爲替が弗に附いてをたがアメリカの弗市場が動搖する爲にポンドに食つ附け、さうして經濟的安定を保つてゐるのでありますから日本が幾ら威張つても仕方ありません。どうしてもポンドが具合が悪い、エチオピアが財政的に破綻するといふ様にでもなれば、日本は矢張りドルに喰附いて行かねばならぬ。或はフランス、フランスが行かねばスイスの金に日本の圓を繋いで行くといふ様な政策を探らねばならぬといふ風に、依存性を認めてゐる以上支那に對する對支借款が日本の手を離れてゐるから日本の爲に良いといふ事は國民を欺くものであつても外國人を欺く事は出来ぬと思ひます。

そこで進んで英米と手を繋いで支那の財政的援助をしようとするとシルバードラ一の紙幣が日英米のバックがありますから、國內に流通するといふ可能性が出来て來るのであります。そこで支那の奥地から品物を出して天津とか上海とか日本とか外國に出るその道が日本から一路向ふに通ずる、日本の一圓が支那の一圓であり滿洲國の一圓であるといふ事になれば、日滿支の通貨換算が要らず爲替相場がいらす鐵道でいへば阪和電鐵が省線と連結して南紀の方へ行けるといふのと

同じく、日本から朝鮮滿洲を経て支那に向つて行くのと同じ徑路を支那に行く事になりますから圓貨の道が開ける譯で、從來と違つて今度は日本の國內と同じ様な氣持で商買が出来るのであつて、此際僅かな面子に捉はれて、俺の方は國際管理になる様な支那の幣制改革に乗らぬといふ様な事をいふてをれば、英米に出し抜かれ到底日本の勢力を支那に扶植する事は出来ませぬ。特に北支に於て民衆が安定した通貨を欲するといふ聲が聞こえる様になつた以上夫を押し進めて行く事は決して不利益でないと思ひます。

殊に日本及び英國は南方の共產黨の工作に對して共同して、支那を防衛してやる位置にあるのであります。地圖を見ても各國が手を繋げばその中に支那帝國があるのでありますから當然の事であり、今回の支那幣制改革に對して参加するといふ事は英米と共同して支那の經濟的復興に助力してやる事になり、而もその裏には日本の圓が支那の通貨であり、滿洲の通貨であるといふ事實より進んで英國、日本及び滿支の經濟ブロックも自然出來て來るのであります。斯ういふ道連があるにも拘らず日本は尙ほ面目にとらはれるとすれば、夫は極めて馬鹿な事であらう、大國の襟度ではないと考へるのであります。

此事柄に對して尙支那の紙幣の弗、或は元がさういふ状態で一志二片幾らに止まるか、國內に流通するかといふ疑問があるでありませうが、外國からの援助によつてやれば問題なく。特に北平天津上海などには正金銀行の支店もありますから夫らの手でアクセプトすれば出來ます。銀が退藏され通貨がなくなれば、銅貨しかなくなれば銅貨では大金の取引は出來ませぬから、紙幣を使うより仕方がなくなります。支那人は紙幣を使う習慣がないから駄目だといふ人があるかも知れませぬが、使ふ物がなければ流通するでせう。古い歴史を見ても何千年か昔紙幣類似の物が流通してをつたのでありまして、世界の紙幣流通は支那が元祖であらうといはれる位ですから、支那經濟安定の爲に利益であるといふ事が明瞭になれば、勘定高い支那人がアクセプトせぬといふ事はなからうと思ひます。

斯ういふ風に考へますと圓が支那にまで流通する、勢力範圍が及んで來るとすれば軍事費による日本の赤字財政といふものゝ心配は消飛んで仕舞ふ。消し飛ばす爲にも私は進んで支那に向つて援助を與ふべきものだと思へるのであります。

軍事費の問題から支那通貨問題まで脱線して、色々つまらぬ事を申しまして、無味乾燥の數字

ばかりを擧げまして、相濟まぬ次第であります。

尙お話し申したい事も多少ありますが、御覽の通り風を引ひてをりまして、咽喉が少し痛くなりましたので、御申附の時間に達せず早くやめます。之を以て御免を蒙ります、永らく御清聴を有難う存じます。(昭和十年十一月七日和歌山商工會議所講演速記)

十 北支工作は純經濟的に

北支一帯が、南京政府のやうな抗日政策を取つて居る政權と離れて日滿支ブロック經濟の一單位になると云ふことは、常に日本人が希望して居るばかりでなく、支那人もこれを要望して居る。故に、我々としては、軍事工作には全然依らずして、純經濟工作に依つて急激ではなしに、徐々に、その實現を期することを望んで止まぬ次第だ。

支那人には元來、禪定と云ふか、易姓革命と云ふか、善政を施して呉れるものでありさへすれば、その血統の如何なる者たるを問はず皇帝にすると云ふ思想がある。だから、今日のやうな苛斂誅求の行はれて居る支那の國民は北支が自治體となつても、その政權の中心が日本にあるか、

何れにあるかと云ふことには全く無關心である。唯、そう云ふ自治體に依つて、所謂王道樂土を茲に建設されると云ふことならば、住民は双手を擧げて歓迎するのである。この氣運に乗じて眞に住民に利益を興へると云ふ自治制度の工作が、軍部の名ではなくして、それ以外の經濟團體の名に於てそれが遂行されることを衷心希望する。

その經濟團體は滿鐵でもよし、滿鐵の別働隊たる興中公司でもよいが、併し、それは日本人ばかりではいけない。日本人、滿洲人は勿論必要であるが、特に北支の重要な人物を網羅したさう云ふ一つの機關を作り、その機關が經濟的工作の中心であると云ふことでやつて貰ひ度い。今のやうに平清盛が衣の下に鎧を覗せて居るやうなやり方は努めて避けて貰ひ度い。

その北支經濟工作の第一手段は先づ、幣制の確立であらう。それには日本が北支に乗出し、獨立の準備銀行を作つて、日本の圓と滿洲の國幣と、北支の銀元とが等價に維持出来るやうな政策を取り度い。斯くして日滿支三國間の爲替に變動をばなからしむることが、ブロックの結合を緊密ならしめる最善の方法である。

この通貨問題に就て、支那人は紙幣を嫌ふといふことが一般に云はれて居る。併し、歴史を緝

いて見ると、今から何千年か昔に流通したのは支那である。此歴史に鑑みても發行銀行の基礎が鞏固であると思ふことが一般に信頼されさへするなれば支那に於て紙幣を流通させる可能性は十分にあると思ふ。従つてこの日滿支合作に依る準備銀行を日本の力に依つて作ることが一番よいのではないかと思ふ。

日滿支合作に成るさう云ふ準備銀行が出来た暁には、北支との連結が、更に中央にまで伸びて行くやうにならなければならぬ。今日北支の民衆は、滿洲の變遷を見て、北支もあの行方で進み度いと云ふ氣持に動いて來て居る。中支の民衆も同様である。故に、北支の準備銀行が成功すれば中支も必ずこれに付いて來る、日本の圓貨の勢力が中支に及ぶ可能性がある。その意味は、中央は今度の新幣制で磅にリンクしたが、日本の圓も今日、大體に於て磅にリンクして居る。だから、磅を通して圓貨の勢力を中支に及ぼす可能性があると思ふことだ。

更に、これを敷衍して考へると、これは日本銀行の兌換券が滿支に流通すると云ふことである。斯くて日本圓の責任は非常に重くなつて來る。茲で日本が若し悪性インフレーションを惹起するやうな政策を取るならば、その影響は、常に日本國內のみに止まらず、滿洲及び支那の經濟を攪

亂する結果になるから、日本の通貨政策は、極めて慎重になつて來ると同時に、流通範圍の擴大したゞけ、圓貨の安定度が高まると云ふことにもなる。これ等の點から見ても、北支の獨立準備銀行設置には、是非、日本が乗出すべきものであると思ふ。

支那の今度の幣制改革に就ては、私は結局、成功するものと思つて居る。その理由は、英國の外に、米國も之を援助して居ると思ふからだ。あの幣制改革は、米國の同意なくして行はるべきものではないと私は見て居る。何故ならば、支那が銀本位を離脱することは、即ち米國銀政策の裏をかくことである。さう云ふ政策を英國が米國の承諾なくして行ふものとは考へられない。従つて、英米の默契下に、リース・ロースがあつた云ふ芝居を打つたと解釋しなければならぬ。

單純に支那の自力更生を説いて参加を拒絶した日本は、結局、英米に乗せられたやうな貌ちになつて居る。(昭和十年十二月十一日「ダイヤモンド」掲載)

十一 經濟統制の本義を論ず

電力國營問題に關聯して

經濟統制の主張は、その對象として、經濟自由の制度を持つものであつて、自由の存せざるところそこに統制を必要とする何ものも在らざるは、いはずして明かである。即ち、經濟統制の目標は、自由經濟の行過ぎの匡正に在るのであつて、經濟自由の制度そのものを、否認せんとするものではない。しかし、自由主義は、他の言葉をもつてすれば、個人自主主義であつて、個人の活動の自由を、自主的に主張せんとするにほかならない。従つて、それは自由競争を極度まで押進めるに、反對はしないが、極端なる自由競争が却つて個人の自主的存立を危くすることを知らるがゆゑに、合従連衡の策に出で、もつて自己の安全をはかるにいたるのである。經濟上における、トラストとかカルテルの現象は、かゝる原因に發生するものである。高度資本主義經濟組織とは、實にかゝる段階に達せる個人自由主義經濟組織に過ぎない。しかし、かゝる段階における經濟組織が、組織そのものとしては資本主義的統制經濟であるけれども、その組成細胞として、自由主義の個人を保有するが故に、利潤追求の用具として専ら利用せらるると見ゆるところに、國家的非營利的統制の必要ありとの、主張が是認せらるべき、根據が發見されるのである。電力國營問題の如きは、實にかくの如き主張に基くものであるとするは、大なる誤を敢てするもので

はあるまい。再言すれば、庶政一新の經濟的意義にして、國家的經濟統制を主張するにありとすれば、それは當然、資本主義的經濟統制の不合理を、匡正せんとする志を持つものと、見ねばならない。

電力國營論の目的が、國家的經濟統制にありとすれば、國營論は少しく行過ぎではあるまいかと思はれる。國家的經濟統制の實行は、個人企業あるひは廣く一般の私企業の、資本主義的統制の横暴を制壓し、國民一般の經濟的福利を擁護するに目標を置くべきであつて、國家自から企業を營むべしとの主張は、經濟統制の範圍を逸脱したるものと、いはねばならない。もし國營主義をもつて、國家的統制主義の極致なりとなすものあらば、彼は國家的統制の主張を捨て、國家資本主義に鞍替へせる自からを、發見し得ざるの愚を敢てするものであらう。企業の國營と企業の國家的統制とは、全く異なるものなることを覺る必要がありはしないか。最近政府が、電力國營を電力統制強化と、その題目を變更せるは、極めて賢明な致し方といふべきである。

わが國があらゆる經濟資源とあらゆる企業を、戰時的體制化を目標として、國家的統制の下に持ち來すべきであることに對し、何人も異論なきではあるが、それがためには、必ずしも諸企業

を國營に移す必要なく、民營のまゝにそれ等のものを統制し得ないではない。すでに前段に論じたる如く、國營主義と國家的統制主義とは相反するものなるがゆゑに、わが國是として統制主義を可なりと認める限り、なるべくその範圍を嚴守して行くべきではなからうか。若し國家の經營の手が加はるを可なりとする場合には私有企業をそのまゝにして官吏の手において經營する如き變則を廢して官民協力の企業形態、換言すれば半官半民の會社組織をもつて經營すべきである。民有國營の如きは、國家の威信を害する便宜案に過ぎない。即ち、それは公債の増加を迴避する糊塗手段であつて、國家百年の計として採り上ぐべき案ではない。公債の増加を恐れながら、低率配當の特殊會社株式を民間に交附せんとするは、國家の處置として妥當を缺く憾がある。國家的處置は須らく、公明なる大道を行くものでなくてはならない。民間實業家もまた忠良なる國民である。彼等は決して奉公の念に缺くるものではない。庶政一新は、官民一途の協力に俟つべしとするならば、そこに自から解決の光明を認めることが容易であらう。

(昭和十一年九月十一日「エコノミスト」掲載)

十二 前途全く計り難し

新財政の三原則

林内閣は、首相に定見がなく、左顧右盼昨是今非の甚しきため、遂に互壞するに到つたが、その後を享けた近衛内閣は、軍部政黨財界方面の支持を得てゐるので、勿論今日に到つては、その組閣に着手した當初と同程度の、支持は得てゐないし、政黨方面では、閣僚簡拔の方法については不満を持つてゐるけれども、とにかくに林内閣當時のやうな、殊にその末期に於けるが如き、息づまるよゝな空氣から國民全體が、開放されたことだけでも、國家の利益であるやうに思はれる。

しかしてその財政經濟政策に到つては、結城政策の承繼に過ぎないけれども、それを一層具體的にして、物資需給の適合と國際收支の均衡と生産力の擴充の三原則を、明示したことは、一段の進境を示したものととして、歡迎すべきであらう。

しかしこの三原則も、詳細に研究して見ると、相互に摩擦を生ずる惧が、多分に在ることが發見され、その前途の實行に大なる難關の存するを、否定出來ないのである。賀屋藏相と吉野商相が如何にこれを處理するか、極めて興趣の多い事柄である。

今これらの三原則を、逐次に検討して行くと、結局國內生産力の擴充を、國內資源——勿論日滿兩國を一體としての國內資源を意味するのであるが——を總動員してやつて行くより外に途がないといふ結論に到達する。

従つて、結城政策と賀屋吉野政策は、究極に於て同じものだと考へて、間違がない。即ち、先づ物資供給の適合なる原則を探り上げて検討して見ると、これが實行は、

- 一、消費節約
- 二、不急事業の中止と繰延
- 三、物資供給の増加
- イ、輸入増進
- ロ、國內生産力増加

の五つの方法によるより以上の名案はないと思はれる。

消費節約と不急事業の繰延へ

然らば、消費節約はどうしてやるかと云ふに、濱口内閣當時のやうに唯漫然と、消費節約を唱えると、一般の人心が萎縮し、景氣が人氣的に悪くなつて、物價の思惑による騰貴を幾分か緩和する效能はあるが、それによつて需給の適合を必要とする物資の適合が得られるかは、大いに疑問である。

例へば、物見遊山を遠慮したからと云つて、鉄鐵の値段が下るものでもなく、その需給が適合を得るやうにならうとも思はれない。これは矢張り、消費を節約すべき商品の種類を指定して、やらせなければ駄目だと思ふ。しかしそれでも、これは消極的であつて、國運の進展の線に沿つた良薬とは云へない。

次に不急事業の中止繰延であるが、これも不足資源に關係を持つものゝみに、適用すべきであつて、その他に及ぼすことは、一般の不景氣氣分を誘發するだけで、適物適時の方法とは言ひ得

ない。

さり乍ら、現下の國際情勢より打算して、皇軍の武力整備充實を絶対に必要とするならば、國民も亦これに一致協力する意味に於て、臥薪嘗膽の覺悟を以て、あらゆる方面にあらゆる物資について、消費の節約と不急事業の中止繰延を行ふべきであらう。

が併し、さうする場合には、前述せる通り、必ず全般的な不景氣が來て、國民の収入は減じ、延いて増税力が萎縮し、國庫収入は減退し、豫期に反する結果となるだらうと思はれる。従つて、適物適時の消費節約と事業按配を行はしめるのが、最も賢明な策だと、私は固く信ずる次第である。

第二原則

物資供給の増加は、前掲の通り(イ)輸入増進と(ロ)國內生産力増加の二者に依るより外に良法はない。が併し、輸入増進は今日の場合、國際收入の均衡と抵觸する惧がある。これは先づ輸出の増加を圖つて、その増額を限度としてのみ行ふ限りに於て、國際收支均衡の原則と合致す

る譯である。

(ロ)の國內生産力の擴充は、國內資源の動員による場合は至極結構であるが、そのために外國から物資の輸入を必要とする時は、國際收支均衡の原則と抵觸を來たすこととなる。従つて、これらの相互撞着の諸點に思を致す必要がある。

第二の原則たる國際收支の均衡を達成せんとするには、

- 一、輸出増加
- 二、輸入制限
- 三、産金奨勵
- 四、國內生産力増加

の四者を実行すべきである。しかし、輸出増加は無條件に禮讃すべきだが、これには先行條件として、經濟外交の振作が絶対必要である。外交陣の刷新を行つて、大いに經濟的對外進出を、圖らねばならぬ。

また輸入の制限は、輸出増進との振合を、考へるべきであつて、輸出品の生産原料を制限する

ことは、結局輸出増進を阻害するを以て、原料品の輸入は自由放任とし、奢侈品とか必要の程度の低い完成品の輸入を、制限せねばならない。産金奨励と生産力増加の問題は、論ずる迄もなく明かな事柄である。

上來論じた所によつて知り得る如く、積極的に而も國家經濟の自主性を保つ上から云つても、最良策と考へられるのは、國內生産力の擴充であつて、結城經濟政策は、問題の核心を握つて居つたものと、評して良いと考へられる。

従つて、三原則の併列は誤りであつて、生産力の擴充を行ふ上に於て、他の二原則を補助的意味に採用すべきであると、思はれる。

生産力の擴充と悪性インフレ

前段迄で近衛内閣の財政經濟三原則の性質を、吟味して、その意義の奈邊にあるかを、明かにしたのであるが、この三原則を私の論じた如き方法に於て處理して行くならば、經濟界の前途は、左程危惧する必要なくて済むのではないかと、思はれる。

しかし、財政經濟の全體は、決して三原則の表面の解釋によつて満足すべきではなく、殊に生産力擴充に伴なつて生ずる、日滿ブロック完成の問題を解決せねばならないし、また生産力擴充に要する資金を、如何にして調達するかの問題は、金融界の重大問題として、慎重なる研究を必要とし、政府のこれらに關する施策の具體的方針の、未だ決定しない今日、現内閣に關聯して經濟界の前途を卜することは困難である。

だがしかし、國債募集難を來たしてゐる昨今の情勢から推して、低金利の趨勢を助長するような金融政策を施すことが、最も肝要であるが、これを有効に實施するには、生産力擴充に要する資金を、日本銀行を動員して調達し、而もこれが悪性インフレの原因とならぬように、物價の側に先づ強度の統制を加える必要がある。

政府にして幸にかゝる方策を敢行するの勇氣があるならば、軍備擴充による悪性インフレの心配は除き得られるであらう。結城藏相の時代にも、日本銀行の動員計畫が進められたが、行内からの反對で中途半端の改革で、終つたやうに見受けられる。

さり乍ら、十三年度豫算が編成される時機になれば、好むと好まざるとに拘らず、物價統制を

強行しながら、銀行券の増發によつて資金の潤澤化を計り、低金利の趨勢を醸成する方法が採られるに到るであらうし、そうなることによつて始めて經濟界の前途の暗雲が除かれることになるだらうと思はれる。

今回は私の意見を述べるに急で、經濟界の前途觀を記すること極めて少なかつたのを、相濟まざる義と恐縮してゐる次第であるが、十三年度豫算編成期までは、何人も的確な前途觀をなし得ないであらう。

今少しく時機を待つて、政府の具體的出様を注視した上で、筆を改めて讀者諸賢の期待に添ひたいと考へる。(昭和十一年一月一日實業之日本掲載)

十三 物價國定論の提唱

私は、今日世上に傳へられて居る通貨統制や商品の需給統制と云ふ方面からする物價對策の効果を疑ふ者である。この非常時局に於て徒らに物價の後を追駈けるやうな自由經濟的の政策では、到底、低物價の期待は出來ないのである。故に、寧ろ、先づ物價の停止點を定め、他の情況をそ

れに適合するやうに按配して行く。即ち、強力なる物價統制を加へて物價を國定し、その國定物價を中心に商品の需給を調節して行くのが、この際最も有効適切なる政策ではないかと考へる。

その國定物價決定の方法に就て、一例を云へば、假りに、軍備擴張の要求として、一萬挺の機關銃を一千萬圓の豫算で増産し度いと云ふ場合、現在の鐵鋼相場から云つて、九千挺しか出來ないと云ふ場合もあるだらう。その際に、若し鋼の値段を一割安く國定するならば、國家の要求通り、一萬挺の機關銃を作ることが出來るのである。斯くして先づ軍需品と生活必需品の均衡價格を求め、更に類似品代用品、其他それに從屬した種々な商品の價格を國定して行く。その國定價格は、單一價格でなく米穀統制法に於ける如く、最高最低の一定の幅を設けてもよい。而して市場價格がそれより離脱した場合には、強力なる統制法の發動に依つて之を訂正すると云ふ方法を取る。斯くて、今日の軍備擴充、或は大陸政策の遂行を支障なく經濟的に進捗させると同時に、國民經濟に於ても合理的なる利潤を興へ、民間事業の擴張再生産を可能ならしめるやうな價格を國定して行くならば、所謂軍部の要求も満たされ、資本主義經濟に於ける國民の要求も満たされることになるのである。

それに就て、最も必要なのは、經濟思想の動員である。即ち斯かる日本の國策遂行が、國家存立の爲に、是非共必要であると云ふ、思想的的一致協力が前提條件となるのである。例へば鐵鋼の如き商品が現在の價格を保つて居ては、右述の目的達成が困難であるとするならば、國民全般が營利とか便宜と云ふ考へを棄て、或る一定の價格を國定し、それに需給を適合させるやうに協力すると云ふことがなければならぬ。即ち、營利主義を何%か割引して、國策に順應して行くと云ふ經濟思想の國民的動員が必要になつて来る。從來の如き單純なる自由經濟法則を百%承認して居たのでは、尨大なる豫算の下に消費經濟の毎年膨脹して行く現状に於て、物價の抑制などは到底期待されないのである。今日の大藏當局は、物價對策は口に唱へ乍ら、所謂物價の停止點を少しも明示して居ない。これが一般商品市場や株式市場の思惑心を刺戟する、主な理由を爲して居るのではないかと思ふ。今日のやうな物價騰勢が、今後も尙ほ續くものとするならば、國民生活は益々脅かされ、惹いては、社會不安を激成するであらうことは、極めて明瞭である。庶政一新の目的が、國民生活の安定と軍備の擴充にあることは、云ふまでもない。これに背馳する如き政策は、單に無用であるばかりでなく、現内閣の聲明に、全く背反する所以である。茲で、政府

は、一大決心を以て、從來の自由主義經濟思想に基く政策を一擲し、極度にこれを修正した物價對策を執行すべき時期に直面して居るものと考へる。

翻つて考へれば、日本が、内地及び滿洲に於て得られざる重工業原料を、今後、北支其他支那大陸に求めなければならぬ立場にあることは、茲に喋々するまでもない。この原料獲得資金を調達し、同時に内地の物價對策にも資すると云ふ、一石二鳥の方法がある。今日資金の海外輸出は爲替管理法其他に依つて、極度に制限されて居るに拘らず、日本銀行紙幣の海外輸出は禁止されて居ない。即ち、日本銀行紙幣に依る北支其他への資本投下は可能なのである。但しそれには一つの前提條件が必要である。それは磅中心に、銀元と圓とを結合することである。即ち圓の對英爲替相場と、銀元の對英爲替相場と結合し、日本の一圓は即ち支那の一元であり、滿洲國幣の一圓であると云ふやうに、日本通貨の國際價值を修正するならば、日銀紙幣が北支其他にその儘、流通し得る可能性がある。日銀紙幣の信用は、各種支那銀行の發行して居る紙幣と同一若くはそれ以上の信用があるから、特に、北支方面に於ては、完全にアクセプトされるに違ひない。又、アクセプトされることに努力して、それに依つて重工業に必要な資源が獲得されると云ふこと

になれば、常に軍備擴張の目的が達成されるのみならず、國內に於ける物資缺乏に緣由する物價騰貴の抑制にも役立ち、日本銀行券の流通範圍を擴大して、而も増發された通貨が北支に流通するのだから、國內物價の騰貴には、何等の作用を及ぼさぬと云ふ、一舉兩得の妙策であると思ふ。

最後に考慮すべきは、金利政策である。私は、今日の場合、馬場財政以來の低金利政策は寧ろ一應放棄して、金利は寧ろ高くともよいと云ふ政策に一轉すべき時期に遭遇して居るのではないかと思ふ。金利の引上は、勿論、株式價格の下落を結果するのであるが、併し低金利政策の強行が、資金の株式方面への流入を促して、それが、公債應募財源の枯渴を結果するものとするならば、寧ろ、金利は引上げて、それに依つて遊資を多くして、公債に應募資金を増加する方が利益なのではないか。具體的に云へば、政府が十億の公債を募集しやうとする際に、利子は三千五百萬圓で済まし得ると云ふ計畫を立て、實は八億より募集出來ず、二億圓の不足を生ずると云ふよりも、利子は四千萬圓拂つても十億圓全部募集することが出來たと云ふ方が、大局的に見て利益なのではないか。僅少な利子の差額よりも、元本を多く獲得する方が今日の經濟政策として寧ろ

ろ取るべき道ではないかと思ふのである。殊に、今日の如く、一般物價騰貴率の大なる時代には如何に金利を引下げやうと試みても、金利は反對に騰貴すべく刺戟されるものである。故に、低金利政策の固守は、絶対に不可能である。強いてこれを守らうとすれば、却つて金融界に變調を招く惧れがある。物價安定策としても、寧ろ、大勢順應の政策を取るべきものと思ふ。

(和和十二年六月一日「ダイヤモンド」掲載)

十四 今後の景氣觀測の重點

自由經濟的好景氣觀測は不可能

昭和十三年の景氣が、どう云ふ風な動きを見せるか、と云ふ問題は、まことにむづかしい問題であつて、昨年夏以來のように、經濟統制が強化されて來ては、統制の局に當る人々の意志のまゝに、景氣が左右されるから、經濟現象の裡に存在する法則的事實の進行を見つめて、それに基いて景氣の先行きを推知すると云ふように、本來の觀測法は、全く役に立たないといつてもよい

のである。

今日に於ては、この次ぎには、政府はこう云つたような統制策に出るのではないかと云ふ風に、觀測の目標を、政府の政策如何に定めた方が、景氣の將來を知るに便宜であらう、又そうしてこそ始めて、正確な觀測が出来るのである。

勿論、理論的に云へば、政府の統制は、經濟の法則的進行を、單に歪めるだけであつて、經濟法則に従つての經濟的現象の進行を阻止することは出来ないものであるが、普通の景氣觀測法としては、此頃では、統制者の顔色を読んでやるより外はないと考へる。

經濟統制はどう云ふ方向をとるか

今年の景氣の動向を見るには、前段に述べた通り、政府のやる經濟統制の方向を知ることが、第一の要務であつて、その線に沿つて觀測の眼を走らせるべきである。

然らば、どう云ふ方向に、政府の方針が進むかと云ふに、何人も知る如くに、經濟統制は一途に強化の途を辿つて行くに違ひないのである。

而も戰時に於ける經濟統制は、戰勝の目的を達するに必要なるところの、あらゆる方策を強行するために、行はれるのであるが故に、従つて、營利的統制と違つて、經濟界を賑はすようなことは、絶對に行ひ得ないものであり、又行つてはならないものである。經濟界を賑はすと云ふことは、商品の價格の騰貴と、その賣行の増加を來さしむることを目的とするのであるが、併しかかるインフレーション政策は、戰時に於ては絶對禁物である。

その理由は、戰時に於ては、軍需關係の方面と然らざるものとの間に、極端な跛行景氣が生ずるのであつて、例令軍需品價格に對し極度の制壓が加へられるとしても、なほそれは無條件的に消費されるために買取られるので、少なくとも或程度の國家的企業保證が、行はれて居ると見做し得るのである。

これに反して、非軍需關係産業方面に於ては、消費節約のために、甚だしい、不況が訪れることは、言はずとも、明かな事柄である。

そうしてかくの如き跛行現象は、非軍需農商工業の軍需方面への轉換し得る程度によつて、多少の修正を受け得るけれども、その全きを期し得ないことは、言はずもがなである。とすれば、

インフレーション政策の缺點は、軍需關係方面と、非軍需關係方面との、跛行隙を擴大し、經濟界の不安を増すと云ふ點に、存することになるのである。

そこで、營利性を出來得る限り抑制し、而も軍需企業の存立を保證しながら、非軍需企業の倒壊をも防止して行くと云ふやうなかういふ統制方針、かゝる經濟政策が政府によつて採用されるであらうことは、萬々間違のないものと思はれる。

さうすれば、我々が昭和十三年度の景氣を、國內的要素のみ採擇しこれによつて、如何に觀測すべきかの指針が、此所に定立されたことになる譯である。

國內景氣を左右する國外的要因

翻つて、國內景氣に影響を及ぼす、國外的な要素について考へるに、我輸出品に對する海外のボイコット等の、反日的經濟運動は、我皇軍の戰勝の地域が、今日の如く擴大されて、最早支那の敗戦が確實となつた際、且また、支那の偽作宣傳の真相が暴露された際、最早小兒病的反日運動の外は、世界の何れに於ても、行はれなくなるだらうことは、明かである。

尙また更に、英國がその反日行動を是正するの日近きを思へば、經濟的壓迫を我國に加へんとする如きもの共は、近き將來に於て全然姿を消すに到ると思はれる。従つてそこに、明朗なる國際關係が、發生して來るものと觀測され得るのである。

更に北支について觀察するに、皇軍宣撫工作の進捗に伴ひ、又北支人による北支自治政治の安定するに従ひ、且又北支各種資源の開發並に、通貨制度の日滿北支の連繫が成立し進行するにつれて、我國内に於ける經濟的跛行性が、順次に匡正されて行くやうになると思はれる。

再言すれば中南支は暫く問はずして、北支五省を限つて考察するとしても、國內資源の不足が北支五省の資源によつて、充足されるならば、國內に於ける戰時的統制の強行が緩和され得るが故に、北支資源の開發に努めることが、國內經濟の、自由性を回復する作用を營む譯である。

従つて、北支資源の開發に全力をあげて努力することが、やがて經濟に於ける統制を緩和するとともに、景氣の自由變動性を再獲得し得ることとなるのである。北支經濟開發のかゝる重要性を重視して、民間經濟人がよく認識して、その努力を惜まざらんことを、希望して已まない。

本年の景氣果して如何なる方向に進むか

前條までの所論によつてよく知り得られる如く、國內經濟を國內的要素についてのみ考察する限りに於ては、軍需方面の經濟界と然らざるものとの間に、跛行的景氣の深酷化するであらうといふことは、明かに觀測し得るのであるが、併し政府當局の明智によつて極めて巧みに所謂悪質なインフレーションが抑壓され得る限りに於ては、經濟界に、多大の不安を來す如きことはないであらうし、而も、軍需關係業界の保證される採算は、景氣の惡化を防止するが故に、先づ大なる不景氣は來ないと思はれるのである。

加之北支開發によつて、我國の不足資源が充足され得る見込が立つならば、時局的經濟重壓は除去されて、跛行的景氣の修正が行はれ、一般的に景氣は却つて良好となるやに、觀測され得るのである。勿論、かゝる結論に到る前提條件として戦局の擴大が今日以上に達しないことが、加算されねばならない。(昭和十三年一月十五日實業之日本掲載)

十五 北支景氣は果して出るか**景氣爆發までに一年はかゝる
復興資金が問題となる**

結論から先に云へば北支景氣は今すぐ出さうにもないけれ共、少なくとも今後一年位すれば相當の景氣が出て來ると思はれる、その理由は次の通りである。

戦争の行はれてゐる間にも、局部的に景氣の良い仕事もあるが、元來戦争は破壊を伴ふものであるから、その戦争地域の經濟を攪亂し民衆の購買力を奪ふ結果、戦争が終つても直ちに景氣の回復を望む事は至難である。

尤も、北支民衆の側から自然に起るところの景氣は、上に述べた如く困難であるが、戦争に依つて破壊された鐵道道路、其他公共施設の復舊に要する物資及勞力の需要の増加による、所謂復興景氣を期待することは不可能ではないと思ふ。

それにしても、その復興に要する費用の財源が、特殊の金融機關を作つて調辨するならば出來

得るかも知れないが、現状のままで、果して中國臨時政府によつて賄なはれ得るかは甚だ疑問である。

どうしても日本内地から復舊資金を貸付けるか、或は戦費の一部分として給與するか、何れかによらないと困難であらうと思はれる。

政治的安全も大きな役割をする

戦後必然的に行はれる復興事業は、或る限られたる期間内に行はれるに過ぎないのであつて、常時の景氣維持には、相當長年月に亙る恒常的な景氣煽揚策を行ふ必要がある。

併し、一時的復興事業にしても、現在の日本國內の狀況からして、資金調整法並に爲替管理令が徹廢され得ない限り、内地から充分な資金を送致する事は困難であるから、現地で調達し得る如き施設をなし、従つて得たる資金を以て、鐵道道路の復舊改修、自動車道路の建設、又は運河開鑿等の事業を興して、労働者に職を與へるとか、農民に對して救濟資金を融通するとかして、その購買力の培養に努めねばならないと思ふ。

我國の經濟自立政策を完成する爲に必要な物資、即ち鐵、石炭、棉花、羊毛、鹽、曹達、獸皮等が、北支一帶から産出されるが故に、日本國內からの資金の移出、並に現地に於ける資金の調達によつて、これらの資源が開發されるに従つて、北支民衆の間に、貨銀其他として通貨が散布され、前段に述べた鐵道、道路、自動車路、或は運河の復舊改修建設、並に開鑿による貨銀、其他の支拂と相俟つて、北支民衆の購買力は著しく増加して、景氣回復を見る事は明らかな事柄であるが、それらに先立つて必要な條件は政治的安全の一事である。

一ケ年はどうしてもかかる

戦争地域に於ける歸還した住民の種類は資産のなき階級に屬するものであつて、北支に於ける景氣の速かなる回復に有力に作用する要素たる富裕階級は、確固たる政府の下に社會の秩序が維持される迄は、表面に出て活動するに至らない爲めに、經濟界の指導的役割を演ずるものが多くない間は、眞の健實なる景氣を期待する事が出来ない。

現在の中國臨時政府が、永久政權として強化存續されるとしても、現在の如く揚子江以北の地域

に、多數の蔣介石派の軍隊が残存する時は、北支の政治的な安定を期待することは不可能である。従つて漢口迄も進撃して、揚子江以北の殘敵を一掃しなければ、北支の政治的安定が保たれ得ない事は識者をまたなくとも明らかである。

即ち漢口の陥落が今後數ヶ月を要するとして、且つ其後の鐵道道路橋梁等の復舊に數ヶ月を要すると見て、今後少なくとも一ケ年の後でなければ、眞の軍事的並に政治的安定を齎すことは不可能である。

斯の如く觀察するときは、自から結論として今後一ケ年位の日時を経るにあらざれば、吾人の待望する如き景氣は生れて來ないものと思はれるのであるが、兎に角、北支の景氣は出るとして、人爲的なものでなければ出ないし、またその人爲的な景氣政策は、結局政治的安定を、第一要件とする限り、皇軍勇士の勇戦大勝が、北支景氣の基礎を作るものと言ひ得る。

従つて、尊き勇士の英靈に對する儀禮の點から云つても、安價放逸な景氣政策は絶対に排撃して、東亞永遠の和平を目標とする根底のある政策であつて欲しいと思ふ。

(昭和十三年四月一日實業之日本掲載)

十六 中小商工業者の對策

何處に活路を求むべきか

中小業者悲況の原因

長期戦に備へるために、今や經濟統制の強化が行はれてゐるが、そのやり方が拙劣であるため十分なる効果を擧げ得ないでゐる。これは何故かといふと、第一に當局に商品知識のないこと、第二に業界の實情に通じてゐないこと、第三に細心大膽にやらねばならぬ經濟問題の實際を、官僚机上の事務的に取扱ふことの三點に原因があると思ふ。

そのために一番悪影響を受けるのが中小業者であつて、或は廢業するとか、或は操業を二分の一、三分の一に減じて辛抱してゐるものが非常に多く、非常な打撃をうけてゐるのである。

勿論統制強化は、現下の我國に於て當然のことである。しかしその戦時に於ける經濟統制も、平時に於ける經濟統制と同様に、各方面の均衡を得たものでなければならぬ。然るに政府は、従來統制を個別的にやつてゐるので、とかく均衡を失し、中小業者、就中平和産業關係業者が、

大きな打撃をうけたのである。

營利統制と非營利統制のギャップ

また政府は、事變前に、各方面の不況克服のために、中小業者の立場を擁護するを目的とする組合を作つて、各種の施設對策を行つて來たのであるが、それが今日の戰時統制となつて、從來の對策と全く相反するものになつたため、そこに經濟行政の甚しき缺陷が生じたわけである。

自由主義的資本主義經濟時代に於て養はれた頭を以つて、中小業者擁護の經濟統制を行つたといふことは、資本主義經濟を統制主義で多少染替したにすぎず、換言すれば營利統制的資本主義時代の考へ方が十分に清算されぬうちに非營利統制を急に行はねばならなくなつたので、その急轉換のために、時代的に考へて、兩者の間にギャップが出来たのである。

勿論これは、經濟行政を司るものゝ誤謬であるばかりでなく、經濟界の實際家達もまた同様にそれを理解しなかつたといふことに原因があるのである。

儲けず損せず

そこで、經濟行政上最も必要なのは、營利統制を目標とする組合法を廢止して、これに替ふるに非營利的な國家主義的な統制機關を作らねばならぬ。戰時の情勢に順應して、中小業者が自己の地位を保全し得るやうに導いて行く團體組織を作らねばならない。

これを非經濟的な言葉でいへば、戰時國策に順應し得るやうな頭に、經濟人の頭を向けて行くことになる。例へば最近商工省の原料統制、配給統制はうまく行つてゐない、つまり裏切り者が出てこれを攪亂するやうな場合がある。これは統制によつて儲けるものがあり、一方に損するものがあるために、さうした缺陷が表れるのである。それが若し非營利主義の統制が行はれれば、お互に大いに儲かりもしないが、また潰れるやうなこともない。かくて理想的な協力が出来るのである。

長期戦と中小業者の力

貿易に關しては、貿易局或は東京の經濟團體では、個人リンク案を主張してゐるが、これは中小業者を衰滅せしめるものである。輸出貿易の伸張、輸入貿易の調整に關して、大きなものを助長するために中小業者を犠牲にしてゐるのである。

勿論輸出貿易の伸張、不足物資の調整といふ點からいへば、それでいゝかも知れないが、農村と中小業者とその子弟は皇軍の大部分を供給してゐるのであることを、われ／＼は考へなければならぬ。彼等を衰滅させることは、即ち日本の兵力を衰滅させることになり、同時にまた中小業者を駈つて獨立經營者から俸給生活者に轉化せしめることにもなる、而して當然の結果として失業者を増加し國內の人的結合を非常に弱めることになりはしまいか。これは實に由々しき大事である。

長期戦に備へんがためには、時艱に堪へて行かうと思へば、國內の人的組織に龜裂の入らぬやうにすることが最も大切であり、そのためには中小業者の擁護は、この際絶対に必要である。

中小業者の保護助成

更にまた、企業經營の獨創性といふものは、中小業者は最もそれに適してゐるものである。彼等は多くの競争者を對手に、絶えず商戦の勝者たらんと努力してゐるのである。そこに自然に豊富なる獨創性が生ずるのである。

大企業は、仕事が單一化されるために、とかく獨創性が失はれ易い。これか不利不便は、雜品工業に於て一層痛切に感ずるのである。斯くて輸出の振興は阻害されるに至るのである。

これを具體的にいへば、例へば外國から非常に手数のかゝる小口の注文があつた場合、大企業に於てはその煩を厭つてこれを拒絶することが多いが、中小業者はこれを尊重し、歓迎するのである。だから一つ一つでは金額も僅かなものであつても、纏まれば非常に大きいものになるのである。

しかも中小業者に於ける特徴として、さうした仕事に於て最も必要とされる個人的監督がよく行き互るのであるが、大規模工業はそれが不十分である。そのためにも中小業者の保護助成はいよいよ重要なのである。

誰も名案を持ち合せず

中小の貿易業者及びその輸出品製造業者等の地位を護るためには、どうしたらよいか。それには先づ第一に、その生産業者を中心にして、輸出業者、輸入原料の供給者、國産原料の供給者を打つて一丸としたシンジケートを組織し、そのシンジケートの手によつて、一切を一元的に經營するのである。さすれば貿易戦に於て、外國に對して如何なる手でも打つことが出来、その立場は非常に力の強いものとなると同時に、現在輸出原料が國內的消費に流川されてゐる弊害も、それによつて除去することが出来るのである。

軍需景氣に恵まれてゐる部門の商工業者はいゝが、これに恵まれてをらぬ國內向きの平和産業者は、従來これを軍需産業方面に方向轉換させるべく努力して來たのであるが、今日に於てなほ轉換せずして残つてゐるものは絶対に轉換し得ないものばかりであるといつて差支へない。これらの業者を救済する名案は、誰も持ち合せてゐないのである。

一元的經營組織

私の考へでは、平和産業者が軍需産業に轉換するためには、先づその新しい施設に要する、機械購入等の資金がないのである。否、資金よりも機械それ自身が容易に得られないのである。かかる状態の下に彼等を無理に轉業させるよりも、むしろ平和的商品のうちの輸出向き商品の方に轉換させる方が、却つて容易ではないかと思ふ。

上述の如き一元的經營組織體が出来れば軍需品製造に轉換させるよりも遙かに少い費用を以つて、今日國家が希望してゐる輸入力増加が、出来るのではあるまいか。

中小業者の産業界に於て占めてゐるパーセンテージが非常に多いことが、我が國産業界の一特色であるといはれてゐるが、しかしこれは、世界各國殊に大企業の最も發達したアメリカに比しても、それほど大差あるものではない。アメリカの中小業者の全體に對する割合は、日本のそれと餘り差はないのである。即ち中小業者の多いことを日本のみの特色とすることは當らないのである。

たゞ日本の中小業者は、資本力に於てアメリカのそれに劣ること甚しいものがある。換言すれば、そのやうに劣弱な、長期に亙る戦時經濟統制に堪へ得る力の少い多數を擁してゐることが、日本の經濟組織の弱點である。従つてこの中小業者を衰滅せしめるやうな政策は、絶対に避けねばならぬのである。(昭和十三年七月一日實業之日本掲載)

十七 國防國家體制完成の急務

今回の事變が蔣政權をのみ相手としたものでなく、その背後にあつて、日本打倒の魔手を揮ひつゝある、英蘇兩國の陰謀を破砕し我國の生存權を確立し、延いては東亞諸國を英蘇への隸屬から救出せんとする聖業であることは、事變當初より筆者等の絶叫した所である。

事變始まつてよりこゝに二間年、皇軍の武威は四海に布いたが支那大陸に於ける聖業經營の實際は遺憾ながら満足すべき端緒さへ得られて居ないやうに思はれる。勿論局部的成功のものもあるが、全體から見て、未だこれからの感なきを得ない。かゝる始末を來たした原因は何であるか。私はそれは一に懸つて、我國の國家態勢が、かゝる聖業經營に適應せる如く完成されて居な

いがためであると斷ずるに躊躇しない。總動員法及び經濟統制令の實施、その結果として經濟警察の檢舉等、非常時法令の非常時性は、漸次具體的現象として現はれつゝあるも、政治法律經濟の各般の國內組織は依然舊態のまゝであつて恰も古い革袋に新らしき酒を盛りつゝあるの感なき能はずである。

實例を以て之を示すならば、例へば法律に就いてあるが、總動員法及び經濟統制法は、個人の經濟的自由意思を極度に制限しつゝあるにも拘らず、經濟に關する基礎實體法たる民法及び商法は依然として個人營利自由主義の規定たるに上まり、政府は毫もその改正に手を觸れやうとはせず、今頃有限會社法の如き、洵に愚劣極まる法規を發布すると云ふ時代後れの甚しさを曝露して居る實況である。

個人營利自由主義の根本的除去をなさずして臨時法令たる形式の下に、總動員法及び統制經濟法を發布するが故に、かゝる國家主義的個人の沒我的行爲を要求する法令は、一時的例外的法例であつて、我國の根本的な法律上の主義は個人營利主義であるとの一般的原則的解釋が生じて來るのを如何ともなし能はぬのである。又現状を以てすれば、かゝる解釋を不當なりとする議論は、

成り立ち得ないと思はれる。即ち、現行の經濟實體法が、個人營利自由主義の上に立つて作られてある限り、而して府政が、之が改正を企圖したとの報導を耳にせぬ限り、筆者自身としも、純理論的には我國の經濟法の原則は、個人營利自由の尊重にあると解すべきだとの説に、賛意を表せざるを得なくなるのである。個人沒我的行動の要求が、原則的に國家組織の動的條件であるとの主張にして、若し眞に我國法律制定の根本義として承認されて居るならば、政府は何故に法律を根本的に改正しないのであるか。一時的修正策としての總動員法であり經濟統制法であるならば、國民は何日何時その變更を見るやも測られずとして、衷心より沒我的悟道に入るを躊躇するであらう。爲政者のかゝる中途半端な態度は、我國の國家態勢を大陸經營に適應する如く改造する企に對し、一種の阻止的役割を演ずるのである。今次事變の如き世界的變革性を持つ大事變に際して、而も我政府が數次聲明せる如き、聖者の行動に終始せんとするならば、即ち、領土的野心なく、支那四億五千萬の民衆を救済する以外に何の求むる所もないならば、誰に遠慮氣兼ねなく、この聖業遂行に必要なための指導國たる我國の國家態勢をこの聖業遂行に適する如く改造すべきである。勿論、支那救済のためのみならば、一時的糊塗の方策でも或は足るかも知れない。

い。併し聖業の最終目的は、我國をその存立發展の究極境地に持ち來たすにあり、八紘一字の理想を實現するに在りとすれば、尙一層、今後幾年幾十年を、その完成に必要なとする大事業遂行のため、國家態勢の適應化を圖るに、一瞬の躊躇も許すべきではない。

目下進行中である東京日英會談に關聯して見聞する所によつても我國の國防國家的體制の不完備に對する、英國側の觀測が、會談を我國に不利に導きつゝあることが判然と看取出來るのである。併し讀者は、私が國防國家體制の不完備を云々しても、國防國家とは果して如何なる國家であるかとの疑問を持たることと思はれる。そこでこの機會に少しく國防國家について論述して讀者の理解を得たる上、更に本論の結論を述べて見たいと考へる。

私見によれば、現今の世界に存する國々を二つの型に分類して、一を市民社會的國家とし、他を國防國家とすべきであると思考する。即ち日滿獨伊西蘇聯の國々は、國防國家であつて、英米佛白等の爾餘の國々は、市民社會的國家である。後者は、國家を個人の集成に成るものと考へ、個人のための國家なる考へ方のもとに、國政が行はれて居るのであるが、日滿獨伊等の國家は、國家を個人の集成と見ず、個人に先立つて存するものとし、國家への個人の沒我的貢獻を要求す

る國家である。勿論國々によつてその行ふ所に異色はあるも、本質的には國家主義である點に何等の相違もないのである。而して、私が呼んで以て國防國家となす國家は、武力の充備を重心に置いて、常に總力動員の態勢に於てある國家を指すのである。即ち、政治外交に於て、科學乃至文化或は思想方面に於て、財政經濟方面に於て、常に武力の完備と關聯を保ちつゝ、併行的に總力協調の態勢を持つ國家を指して國防國家と云ふのである。

勿論、國防國家は、國家の理想實現のためにかゝる態勢を採るものであるが故に、その態勢の發動する所、直ちに國家の理想は、實現の機運に乗ずる筈である。従つて若し我國にして、かゝる國家態勢にまで、總力動員を行つて居つたならば、前にも述べた如く、支那事變は、今日の如き状態に達する以前に、理想に近き結末を見て居た筈である。理想なき市民國家と理想を持つ、而もその實現に邁進する國防國家とは、その前途の進軍に雲泥の差を生ずる筈である。我國が、我國の肇國の理想たる八紘一字の成就に邁進せんとするならば、國家の萬般の組織制度をその方向に向はしめるべきであり、總親和のオブラートに包んで、庶政の革新を阻んではならない。然らば、如何なる革新をなすべきであるか。それを具體的に述べるならば、今日行はれつゝあ

る國家總動員法の如き、暫定的法律によらずして、恒久的なる國家總力の一元的統合運営を爲し得る如き基本的法律を制定して、その法規を基準として、あらゆる法令を改正し、それによつて國民を直接的に一人も残らず、總力動員に参加せしむる如くすべきである。かゝる諸法規の具體的條項は、此所に記述する餘裕を有せざる故に、別に一冊の著書として、世に問ふ考である。

(昭和十四年八月廿一日「ダイヤモンド」誌所載)

十八 景氣は決して悪くはならない

統制強化と景氣

獨波戦争が歐洲大戰にまで發展しても、我國は絶対に之に介入しないと云ふ態度を堅持するもこの前提の下に、今後の景氣を觀測するならば、「景氣は決して悪くはならない」と云ふ結論より外出て來ない。勿論、獨波戦争が第二次世界大戰のやうな伸展擴大を來たすとせば、我國も不介入主義を捨てねばならないが、それにしても第一次世界大戰の經驗に鑑みて、我國の輸出は増

進し輸入は減少し、國際貸借は著しく良化するであらうが、經濟統制は一層強化されるであらう。

戰時經濟統制が、益々強化されて來ると、物資の自由配給は益々窮屈になるが、その反面、配給統制圏内にある物資の配給は、益々確保の度が増す譯であるから、被統制産業に關する限り、景氣の波浪に弄ばれる程度に少なくなり、不景氣になる心配は絶對にない。

勿論、物資の種類によつて、その程度が異なつて居るのは當然であるが、蓋然率としても、決して悪からう筈はない。而して、それに伴つて、配給統制圏外の物資に關する景氣は、反對に悪くなるだらうとの結論が出て來るのであるが、戰時經濟統制の進展が、今後益々その度を増すにつれて、配給統制を受けない物資は、殆どないと云つて良い位に、殆どすべての物資について、配給統制が行はれ、統制が行はれるにつれて、一面或物資については配給量が減少する代りに、減少したなりに確保されるから、安心である。又他面生産力擴充が目的點に近づくに従ひ、即ち日が経つにつれて、配給の餘裕の出來るものも出て來るため、物資缺乏の困難から來る悩みが解消するので、仕事が仕易くなり、景氣を悪くしないですむ筈である。

支那事變が解決しても

而も供給が過剩となるやうな事は、統制がうまく行はれる限り、絶對にない筈であり、天産物でも備荒的配給統制が強化されて來ると、絶對に過剩生産から來る壓迫を除くことが出來るから心配はいらない。かう言ふと、何から何まで結構づくめであるが、勿論、その道程に於て、色々フリクションの生ずる事は、覺悟すべきであらう。

尤もかゝる良い事づくめは、時局が政治的に現状程度か又は現状以上であつても、大して悪化しないと云ふ前提條件の下に、言ひ得る事であつて、然らざる場合は、又別な考察が必要となるだらう。然らば、政治的變化は如何と云ふに、國內では大なる變革は無ささうだと云ひ得る。即ち、若し政府並に國民が、沒我的悟の道に精進する覺悟が出來さえすれば、何の問題もなく、國內の庶政一新と國家體制の確立は可能である。之に反して、國際的政局になると、問題は自から異なつた色彩を呈し、豫測が困難であるが、我國の國家態勢を層一層總力戰的に強化する、必要の度が増しこそすれ、減ずる心配は絶對にないと思つて差支ないであらうと思ふ。

假りに支那事變が治まつたとしても、その後に於ける建設のための物資需要の巨大なる數量は、到底我國內の消費の節約なしには、辯じ得ない程のものであるだらうし——少くとも、我國が東亞新建設の指導者たる限り、國內的消費の犠牲に於て、支那建設の資材を供給する丈の覺悟は、絶対に必要である——又戰時的態勢を強化して、次に來るべき對○戰、又その次に來るべき對○戰に備へるには、現在以上の統制強化の必要があることは、多言を要しない所である。

日滿支經濟の整調

従つて今後幾年幾十年の後までも、統制經濟制度の續行を必要とする限り、而して統制があらゆる商品、あらゆる産業部門に互つて、殆ど洩なく行渡るとすれば、景氣の浮動は絶対にないと思つていいし、又政府も今次の事變に對して、採つた行政手段に鑑みて、景氣の反動を生ぜしめてはならない、責任がある筈である、即ち、父祖の代からの業務を廢業して、他に轉業を餘儀なくした者に對する責任をとる事が、當然であるからである、而もかゝる政府の責任は、國家の體制を、總力戰的體制の方向に、強化擴充して行くなれば、自から解除されるものであつて、殊更

に責任負擔の要はないと思はれる。

上述せる觀測は、極めて一般論的であり、而も、物資の配給を主眼として見たものであるが、而もなほ我國內の現狀にのみ、即して見たものに過ぎないのである。眼を日滿支の全分野に放つならば、景氣は、獨波戰爭が世界大戰にまで發展したとすればなほ一層よくなりこそすれ、悪くなる心配はない。すでに述べた如き、國際政局の間に處するには日滿支の産業が相補的に組立てられ、日滿支經濟ブロックが眞の自給自足の經濟集團にまで、發達育成される必要がある、その目的達成のためには、日滿支三國の産業を相補的見地から統制して行くを要し、從來屢々見たる如き日滿支各國間の經濟的フリクションが排除されて、互に景氣の障碍たらざるやうに、産業調整が行はれるであらうが故に、不當競争より生ずる損害とか、内外各地の經濟的衝突等が無くなく、景氣の持續が可能となるは明かである。

支那開發の進展

尙一段と積極的な景氣の支柱は、滿洲及支那全土に互る開發の進展である。之は勿論、日滿支

の相補的經濟集團の完成上、必要缺く可らざる道程であるが、又三國それ自體の經濟的進歩發達の原動力として、是非爲されねばならぬ事柄である。而して、かゝる開發に要する人的並に物的資材は、先進指導國たる我國の供給に俟つべきもの多大である所からして、我國内の人並に物に對する滿支方面からの需要は、極めて旺盛であつて、そこに自から我國内に於ける、好景氣の外來的原因が、發見されるのである。

元來、經濟統制は、景氣の不動を招來するものであるが故に、統制經濟制度の續行は、景氣の惡化を來たす如きことがないのを原則とするものである。唯、統制實施に當つての初期のフリクシヨンは、己むを得ない所であるが、中期以後には安定こそあれ、動搖のあるべき筈はないのである。若しありとすれば、それは統制指導者の罪に歸すべき事由に因るものが多いのである。

物價引下げと景氣

次に、物價の側より見たる景氣計測について、少しく述べて見る考であるが、價格の統制の行はれて居る限り、それが忠實に實行されて居るならば、價格の側からする景氣の動搖は起らない

筈である。

併し、業者の最も心配する點は、價格の漸次引下げの問題である。物價の一般的引下げは、最も望ましい事であり、國民が一人も洩れなく、物價引下げに協力すべきであるが、假りにかゝる協力が行はれたとしても、配給資材の減少せるものにあつては、生産原價が自然的に高くなる結果、同種産業部門内の各企業毎に生産費を異にする實情に顧みて、最も採算不利なる限界企業が成り立つて行くだけの價格を容認せねばならない限り、無暗な引下げは實行不可能であるから、資材配給の増加なき商品部門にありては、價格統制から來る市價低下の心配はしなくてもいいが、併し之に反して生産擴充が緒についた部門に於ては、漸次價格引下げを覺悟せねばならないであらう。けれども、生産配給の數量が比例的に増せば、原價も安くなり且つ商を數でこなし得るから、却つて景氣がよく見へる事になる筈である。(昭和十四年十月一日實業之日本掲載)

十九 戦時經濟統制に就て

序 言

只今御紹介を受けました武田でございます、一ヶ月程以前でございましたか、知り合の日本ベイント會社の小畑社長から私に何か皆様にお話を申し上げよといふ御命令を受けたのでございますが、實は非常に多忙でございまして一ヶ月も先のお話をお引受致しますと何時も違約致します、もう數回各方面に違約した前科を持つて居るものですから非常に躊躇致しました。併し強つての御命令でございましたのでお引受致しましたが、實は今晚東京へ向け出發しなければならぬやうな譯でありまして、特に最近經濟界に色々問題が多いものですから、お話を申し上げます資料を整へて參りたいと存じてゐながら整へることが出来ません。一昨日來會議所の方で統計だけを拵へて貰ひまして、昨晚遅く十一時頃私歸宅致しましてからやつと此處へ思ひ付を書いて參りましたのを申上げる譯でございます、その他少し古いが書いたものがございしますので、それらも取り混

ぜましてお耳を汚したいと存じます譯であります。もう皆様は既に經濟のことは御承知だらうと思はれますので、餘り幼稚なことを申上げては相濟まぬと思ひますが、又餘り専門的になりましてもと思はれますので色々苦心を致した譯でございます。

今度の事變が我が國始まりまして以來の大事件であるといふことはもう誰でもよく承知をして居るのでございますが、併しこの事變が何時迄續くかといふことの見透しは中々附きません。昨年あの事變が始まつた當時に於ても當局は不擴大主義といふことを申されまして成るべく戰爭をしないことの方針を執られたのでありますが、御承知のやうに共產黨特にソ聯の當局が蔣介石と策謀致しまして、尙それに英米の經濟的な策動がありまして、どうしても日本を戰爭に捲き込んで長期對戦をさせて日本の國力を疲弊せしめよう、さうして英米は英米の經濟的の權益を伸ばしロシアはロシアの政治經濟の權益を支那大陸に伸ばさうといふ策戰から來て居るのであります。お聞及びの通り蔣介石はナポレオンがモスコーに於て敗れましたと同様に日本軍を漢口或はそれらの奥地迄引寄せて多數の軍隊を消耗させさうして日本軍を疲弊せしめようといふ作戦から來て居るのでありますから、或は山西、或は山東、徐州方面に於きまして、或は昨年夏のあの陰慘

な上海戦争に於きましても、常に際どい所迄参りますと直ぐ退却をしまふ、これらのものを包圍して日本軍が殲滅せしめたと考へて居りますが、實は支那軍は殲滅されないで大部分は完全に逃げて行くといふ風な實情なんでございます。ですからこの漢口の戦ひが済めば今度の事變は先づ一段落だらうといふことが常識なんでございますが、或は戦争を嚴格に區分致しまして廣い意味の戦争と狭い意味の戦闘と申しますか、戦ひと申しますか、現實に彈を撃ち合ひますその戦闘とに區別して考へますといふと、大規模の戦闘は或は漢口の攻略によつて終りを告げるかも知れませんが、その後は小規模の戦闘が各所に行はれますに拘らず、廣い意味の戦争といふものは私は今後十年、二十年の長きに亘つて繼續されるのではないかとかういふ風に考へて居るのであります。又戦争状態といふものが實際にそれだけ續きませんが、日本國といふものが眞に東亞の盟主たる國柄になりまして、英國、フランス、アメリカ、或はソ聯等の策動を完全に退けて日本の權益に關する限りこれらの諸國が喙を一つも差挟み得ないといふやうな日本の國柄に致します爲には今後これは數十年の長き年月を要するのではないかと考へるのであります。さう致しますといふと今日新聞なんかで御承知のこの統制經濟といふ風な痛屈な經濟状態が私は尙私達

の一生の後或は孫の代迄も續くのではないかといふ風に考へるのであります。日本を如何なる國からも一指も染めさせないといふやうな國にする所謂武力に於ても、經濟力に於ても、さういふ風な國柄に仕上げるといふことは非常な勞苦を要するのであります、それをやるには矢張り國民の思想といふものから立直して行かなければならないと私は考へて居ります。これはもう皆様に申上げますことは甚だ失禮ですが、私達が經濟學を研究致しましても、とどの詰りは矢張りこの人生觀と申しますか、或は國家觀、社會觀、或は宇宙觀と申しますか、さういふ風な問題に始終ぶつかるのであります、私は商工會議所に勤務致します前に大阪の千里山の關西大學で十年ばかり理論經濟學の教鞭を執つて居りましたが、その間色々研究致しましたが、もうとどの詰りが所謂人生哲學といふもの、或は國家哲學と申しますか、何かさういふ風なものが解決されない限り經濟問題といふものは解決されないものだといふ風な感じを致したのであります、今日政府がやつて居ります國民精神總動員といふものが果していゝか悪いかといふことはこれはまあ立場によりまして色々批評されませう。私もあゝいふ風な抽象的な總動員ではいけない。具體的な經濟問題に關聯して人間が生きて行く上に於ての個人の人生觀と、國家の爲に命を捨てる、或は國

家の爲に事業を営むとかいふ風なさういふ考へ方との間の統一を如何にすべきかといふことの總動員でなければいかぬのぢやないかといふことをよく色んな方面の方に申上げたのであります。最近大阪府では全國に率先されまして經濟思想總動員を行はれることになりました。先月十五日から二十六日迄を第一回としまして大阪府下の各市町村で講演會を開かれまして、その地方の有力な方々に數十人集つて戴きまして、私も一二ヶ所参りまして色々と只今申しましたやうな長期戰の覺悟、經濟問題を如何にすべきかといふ風なことをお話申上げて参つたのであります。皆様は非常にそれに共鳴して戴きましていゝ話を聞いた、自分達は漢口が落ちれば戰爭が濟むものだ又昔のやうな状態が来るものだと思つてゐたが、さうでないといふことがよく解つたから、歸つてから自分の知つて居る先、或は自分の關係方面の人々によくそれを申し傳へて、尙更に擧國一致戰時體制の強化に盡力しようと、かういふ事を聽いて私達も心から喜んで居る譯であります。今回の皆様のこのお催しに於きましても、始終色んな民衆にお接しになります皆様方、經濟問題に付ての考へ方を如何に持つべきであるかといふことを皆様からそれらの民衆にお話を願ひますことになれば、大阪府あたりの、或は私達の如き微力な者が色々人に接して申しますよりも、普

段から皆様に對して尊敬の念を拂つて居ります信徒の方々は必ずやもう無條件に皆様のお話を受け入れるだらうと信するのであります。これから私の考へて居ります一端を申上げまして尙皆様の御協力なり御指導をお願いしたいと考へる次第でございます。

自由經濟と戰時經濟

そこで先づ最初に戰時經濟と普段の經濟とどれだけ違ふかといふことを申上げまして、それから色々の統計に付て今迄の經濟状態がどうであつたか、將來はどうなるだらうかといふ風なことの概要を申上げて見たいと思ひます。普段に於きましては所謂自由經濟でありまして各人が思ふ通りに商賣をする、例へば化粧品屋をやらうと思へば化粧品屋をやります、或は牛肉屋をやらうと思へば牛肉屋をやるといふやうに自由に商賣が出来ます。さうして或は牛を飼ふとか、或は化粧品を製造するとかいふ方面も總て個人の思ふが儘に出來たのであります。唯政府へ税金さへ納めればどんな事でも經濟上の問題は解決してゐたのであります、所が戰爭になりますといふと戰爭に要します資材が非常に多く消費されます。私はよくは存じませんが、日露戰爭當時と今日と

では機關銃が一分間發射する彈の數といふものは大變な相違ださうでありまして、さういふ風に總ての物資が消費される量が非常に多いのであります。そこでこれらの物資を如何にして調達するかといふことになりましてといふと、民間の者が自由に消費して居りましたものを節約してさうしてこれを軍用に供するといふことにならなければならぬのであります。最近新聞で御覽になります綿絲の消費統制とか、或は銅を使つてはいけなやか、錫、鉛等總て節約しなければいかぬとか、或は學校の生徒も成るべく靴を履かないで下駄を履けとかいふやうな問題は、結局戦用資材を國內に於て調達することを容易にする爲に民間の消費を節約しろといふことになつて居るものであります。これが又民間の人達の生活問題と直接關聯して來ますので、これらの物を製造し販賣して居ります人は禁止されますといふと商賣が出來なくなります爲に非常な意氣込でこれに反對をされる向きもあるのであります。又その政府の禁止の仕方にも随分巧拙がありまして、随分拙い事も勿論やつて居りますが、併し大體に於て民需の制限或は禁止をさせなければならぬといふことはこれはもう已むを得ないと考へるのであります、併し日本では國際經濟問題と申しますか、或は國家の經濟問題に付ての理解が非常に一般國民に缺けて居りますので、政府が何

かさういふ事をやりますといふと甚だ不都合であるといふ風なことを直ぐ考へるのであります。これは明治初年以來自由經濟の間に七十年育てられて來ました關係上、この自由經濟といふものが最も正しい最もいゝ經濟制度であつて統制經濟制度といふものはこれは邪道である、戰爭とか何とかの時に一時的にやるものであつて常にやるべきものではない、所謂霸道であつて常道ではないといふやうに皆信じ切つて居るのであります。或所では商工省へ澤山押掛けて行つてその間多少不穩な行動をする者が現れたといふやうな風説も聞いて居ります。これは矢張り個人が自分の生業をして行くといふ事と國家の要求と如何に合すべきかといふ事に付ての考へ方が足りない、又政府がやりますに付てはこれをどういふ風にしてやらなければならぬかといふことの考へ方が足りない爲に起る一つの摩擦の現象であります。茲に自由經濟といふものをどうしても先づ放棄しまして統制經濟に服さなければならぬ。その服するには不足物資に付てどういふ風な事をしなければならぬといふことは政府のお役人、多くは學校を出て商賣を何もされないで直ぐ偉い役人になつて居る方々にはさういふ商賣上の裏表が分らないものですから時々甚だ不都合な統制を行ふのであります、國民がこれと協力して自分達の生活はかういふ風にして立てゝ行き

たい、國家の要求はかうである、これを如何にして調和すべきかといふことを御互に協力し相談し合つてやつて行きましたならば、私は只今申しましたやうなさういふ不安な事はなくて濟むのではないかと思ふのであります。ですから私先般府の依頼で参りました時にもその事を皆によく申しておきました。政府のやり方が悪く、それを唯批判的に見ないで、その悪い所をかういふ風にして正して行かうぢやないかといふ風に相互協力の態度に出て貰ひたいといふことを申しておきましたのでございます。

統制經濟

そこで話が本來に還りまして、今のやうに民需を制限し或は禁止する、それをやりましても尙戦用資材を整へますには物資が足りないのであります。そこで政府は外國から成るべく澤山これを輸入したいといふ考から、外國へ輸出する他の一般の品物は成るべく澤山出して、外國から買ふのは成るべく控へようといふやうな政策を執つたのであります。これは昭和十一年の暮から政府が考へまして、昭和十二年一月に外國爲替管理令といふものを強化致しまして、外國と取引す

るとか、或は外國へ金を送るとかいろんな事を民間の者がやるに付て政府の許可を得なければならぬといふことにしまして、それで外國へ金の逃げることを抑へます。或は戦時目的に副はないやうな澤山の品物を輸入させないで重要戦用資材のみを輸入を許さうと、かういふ風な考で十二年一月から爲替管理令を強化したのであります。既に政府に於きましてはさういふ風に十二年の初めからさういふ事をやつて居るのでありますから、日支事變が始まりませんでも矢張りさういふやうな經濟態勢を執らなければならぬ、詰り自由な國際取引といふものを制限しまして、國內ばかりでない、外國に對するものを制限する、所謂統制して行かなければならぬといふことを感じてゐたのでありますから、日本がその當時に於て將來如何なる時代に立至るかといふことは少し考へれば國民にも分つてゐた筈なのであります。それを國民一般が一向氣が附かないで呆やりして居りましたといふことは、それは政府の指導もよくなかつたでありませうが、國民にも非常に罪があると思ふのであります。即ち十二年の春林内閣が成立致しまして、あの當時林内閣は「滅私奉公」といふスローガンを掲げて民衆を指導した、或は貿易に對して管理する臨時貿易の措置法といふやうなものを立案してやりました。ですから今回の事變が起らなくとも今日の

やうな強度の自由經濟の制限といふことはもう當然起つて來て居るべき筈なんでしょう。即ち日本の國家態勢といふものを何時でも戰爭が出来るやうな状態に置く、即ちそれは政府が當初に於てはソ聯を目的として考へてゐたのでございますが、ソ聯を撃てば支那は當然頭を下げて來るといふことを考へてゐたのでありませうが、今の戰爭は政府がその當時考へて居つたと逆に支那が先に來てロシアがその後になつて居るのであります。全部は兎も角として、尠く共我が國始まつて以來の總動員を行はなければならぬといふ事態はその時に既に豫想されてゐたのであります。それで林内閣の成立しました當時私は或閣僚の方にお目に掛りまして、將來日本が戰爭はしなくとも戰時状態に入る以上は國民に豫め經濟思想動員を行つて、政府が自由を制限してもそれに國民が無條件に協力する、或は政府が國民と相談をし合つて最もいゝ經濟統制を行ふといふやうな、さういふ心構へを持たせるやうにして行つたらどうですか、それには經濟關係の各大臣達が、特に首相たる林總理大臣なんかは率先して全國に行脚して國民の思想を一つ緊張せしめ、政府の言ふ所に嚮はしめるやうにされたらどうですかといふことを私は進言したのであります。不幸にしましてその後間もなく内閣が替つた譯であります。近衛内閣は當然さういふ事は私

達が言はなくともやつて戴けるものと思つてゐたのであります。そのうち南京が落ちれば戰爭が済むだらうとか、或は徐州が落ちれば済むだらうとかいふ風な考へ方から、矢張り強度の精神動員といふものが缺けて來た譯なんでしょう。

それからまた最近新聞に出て居ります綿絲の統制違反とかいつて大きな綿絲屋さんが澤山警察の御厄介になつてゐるのがあります。あれはこの輸出入措置法といふものに引つ懸りますのと、暴利取締令といつて餘り澤山儲けてはいけないといふ一つの法律、その暴利取締令と、この二つの法律に引つ懸つて多くの綿絲屋さん、或は鐵とか銅とかを賣つて居る金物屋さんが引つ張られて居るのであります。それはどういふ事かと申しますといふと、從來外國へ自由に商賣を致して居りましたのが商賣が出来なくなりました。例へば十二年一月に、三萬圓以上のものは政府の許可を得なければならぬが、三萬圓以下の小さいものならば自由に商賣して宜しいといふ手緩い統制命令が出たのであります。さう致しますと從來自由經濟が頭に染み込んで居ります商賣人は三萬圓の許可で何十萬圓の商賣でもしたのであります。政府のお役人は馬鹿に正直でありますから、三萬圓以下といへば正直にその儘三萬圓以上の商賣はしないと申つて居ります。所が小分け

にしてやります。自分の店では三萬圓ですが、店員にもう一つ店を開かせまして、その店員の三萬圓と寄せますと六萬圓出來ます、或は親戚の者の名前でやれば九萬圓になる、さういふ風にしていやりますから三萬圓の制限といつても何にもならない。段々それを小さくして最近では百圓以上金は全部政府の許可を得なければならぬといふことになつたのであります。百圓になりましても矢張りその間を潜る者があります。例へば小さい飲食物、コーヒーとか紅茶とか、或はその他の洋食品なんかの小さい物、これらの物は百圓以下でも出來るのであります。又ココアとか洋酒とか、或はその他の飲食品なんかの小さい物、之等の物は百圓以下でも出來るのであります。コーヒーを百圓飲むのは随分骨が折れる、そこでカフェーとか喫茶店とかさういふやうなものは一口百圓宛のコーヒーの注文を出します。輸入許可の申請をする。さういふものが十軒集ると千圓、百軒集ると一萬圓になる、幾ら値を細かくしても皆間を潜るのであります。それから綿絲の統制と申しますものも、これも實は綱網で罫を押へたと同じやうで、統制命令を出して何番手以下の太い絲は勝手にして宜しい、それ以上の從來民間で本當の商品として取引されて居るこれだけの品物は政府の許可を得なければならぬといふ命令、或は國內に於て、棉花ばかりで拵へま

した絲所謂純綿絲といつて居りますが、その純綿絲に付ても、かういふ風な番手で規定するといふやうなことで、或はステープル・ファイバーを三割以上混ぜたものはどうだとか、三割以下のものはどうだとかいふ細かい規則を出して居ります。所が或太い番手、例へば八番手が從來紡績會社で商品として引いて居る一番太い絲でございます。綿絲は番手の數が進む程細くなります。八十番手になりますと絹絲みたやうに細くなります。段々番手の數の少い程絲が太いのであります。さうすると七番手半とかいふ絲を拵へます、即ち八番手以上を喧しくいひますといふと、八番手よりも少し太いが八番手と殆ど變らない七番手半といふ絲を拵へます。政府はこれでうまく行くと申つて居りますとその網の下をさつと潜つて居ります。それで今迄落綿と申しまして、アメリカあたりから、或は印度、アフリカ、支那方面から輸入して來て居りました棉花が、それが三、四年以前から南米ブラジルからも随分澤山入るやうになりました棉花でございますが、その棉花は大體さう澤山層が出來るものでないのでございます。所がこの八番手以上を喧しく規定しますといふと綿の層が非常に澤山出來出して來て詰り八番手以下は層綿で拵へるものとなつてゐたのでありますから、わざと層を澤山拵へてそれで政府の制限以外の絲を引く、その絲を買つた

者が又これを倉の中かなんかに隠れて引き直して細番手にして使ふといふやうなことをやつて居ります。さういふ者も今度は大分曳かれて居るやうであります。その外綿絲、綿布を賣買致しませぬには矢張り切符制度が出来まして、大阪府とかのその地方廳で發行します配給切符を貰つてそれを持つて行つて綿絲を買ふのであります。その配給切符が中々貰へないといふので、配給切符を偽造して綿絲を買ひに行く、中には又切符はどうでもいゝからといふので切符なしに賣買する者も出て來た。大體さういふやうな者が警察の御厄介になつて擧げられて居るのであります。さうしてそこに一つ悲しむべき問題は、自分が悪い事をしたならば自分だけでおさめておけばよいのであります。私のような小さい者を引つ張つて、あそここのあゝいふ大きい人があゝいふ悪い事をして居るのにどうして打すてゝおくかと言ふ。そこで警察が調べて見ると、段々大きい者が引つ懸つて來る。殆ど全國に於ける綿絲布關係の商人でこの商工省が昨年來出しました統制命令に引つ懸つてゐない者はないといふ話でございます。勿論鐵とか銅とかその他にも隨分あります。これも自分一人犠牲になりました。さうして罪を引被つて居ればかうも擴大しなかつたのでせうが、俺をやるのならばあれがどうだといふやうなことから段々擴大して、警察は手を濡らさず

して檢擧の網がどん／＼擴がつて行くといふやうなことであります。詰り經濟警察が殊更に努力したのでなくして、民間から犯罪者を澤山檢擧せしむるやうに仕向けて行つたといふことになつて居ります。さういふ風な詰り自由主義的な考と政府の命令との行違ひといひますか、それが今日統制命令違反の犯罪者を澤山拵へた原因であります。

特にもう一つ附け加へて申上げますのは、内地では非常に物の値段が高くなりました。民間の需要を抑へて、外國から澤山の品物が這入つて來るのを抑へて、さうして外國へ品物を成るべく澤山賣り出さう、買ふのを少くして賣るのを多くして、さうして買つた物と賣つた物との差額で軍用資材を買はうといふことを政府が考へたのであります。従つて民間の品物が少くなりますと需要供給の法則から民間の物價が隨分高くなつて來ます。外國へ賣りますといふと、例へば綿絲は一梱二百圓位にしか賣れないのであります。ヨロッパでも二百二三十圓位にしか賣れませぬ、所が内地へ賣りますといふと三百九十圓、四百圓といふ風ないゝ値段に賣れるのですから、政府の命令に従つて即ち國策の線に沿つて外國へ澤山さういふものを出すよりは、成るべく法網を潜つて内地へ賣つた方が非常に儲かるのであります。ですから外國へ輸出しませんでどん／＼

これらのものを内地へ賣りました。即ち國策の線に沿つてゐない譯であります。さういふ者は大いに嚴罪に處すべしといふ譯で經濟警察なんか張り切つてやつて居る譯であります。

思想動員、これも矢張り繰返して申しますが、思想動員さへ出來て居ればかういふ事はなかつたのでないかと思ふのであります、私は常にかういふ事を申して居るのであります、支那の兵隊と日本の兵隊と戦争をしてどうして日本の兵隊が一對十位の寡兵で以て勝つかと申しますと、その兵隊の體力に於ても銃とか機關銃とか大砲とかいふやうな軍の裝備にしても、私は支那の方が日本よりも數等良い物を使つて居り、良い體格を持ち、さうして艱苦缺乏に堪へるといふ程度は支那の土民の方が日本の軍人よりもずつと強い。従つて當然支那の軍隊が日本の軍隊に勝つべき筈であるがそれが勝てないのは、即ち日本軍隊に精神動員が行はれて世界無比の忠君愛國の熱に燃えて居るから日本軍隊が勝つのであります、物質的にいへば當然支那の軍隊が勝つべき筈だと考へるのであります。そこで國民の一般にも矢張り軍隊と同じやうな愛國の精神の動員が出來て居りましたならば、勿論經濟的に出來て居りましたならば經濟警察とかいふものを拵へませんでもうまく行ける筈なのであります。經濟警察を拵へるといふ話を聞きまして私は經濟界の或有

力な嘗て大臣であつた方に會ひまして、經濟警察を拵へるといふことは結局犯罪人をつくることであり、さうしてそれは外國に向つて日本國民が如何に時局を解してゐないかといふことを宣傳するやうなものであるからして、經濟警察を拵へる以前に、矢張り前に林内閣の時に申しましたと同様に、臺閣の諸公が街頭に出で、國民に對して政府の方針に協力せしめるやうに愛國心を振ひ起さしめる講演をされたらどうかといふことを申し上げたのであります、いやもうそれは病膏盲に入ると申しますか、縁無き衆生は度し難しと申しますか、さういふ者は打つちやつておいて警察に引つ張らして大いに引つばいた方がいゝだらうといふやうなことで、折角私が進言しましたけれどもそれが用ひられないで、丁度私の豫想通り全國に於て數千人の犯罪者が出て來たのであります。

只今申しましたやうな經濟統制を行つて居るのでありますが、その主要な目的はもう一つ國內的にかういふ問題があるのであります。それは所謂物價の安定といふことが一つの目標になつて居るのであります。前に申しましたのは戦用資材の供給を十分に確保する爲に民間の需要を減少し或は制限し、外國から民需用の品物の輸入を抑へて成るべく輸出を盛にしてその差額で戦用資

材を澤山買ふといふ方法でございますが。その外にもう一つ、これから申上げますのは物價の安定といふことでありまして、國內で民需を總て抑へ外國からの輸入をすつかり抑へて参りますといふと、先刻申したやうに需要と供給の關係から物價は何處迄でも騰貴して行く、特に政府が戦費を賄ふ爲に五十億、六十億といふ澤山な公債を發行してその金がばら撒かれます爲に、國民の懷ろに金が澤山出來ますといふと少し位高くても物を買ひます、その爲に物の値段が上つて來る。物價が上りますと矢張りこれを供給して居る製造販賣業者が儲かりますからそれらの人の消費經濟も亦膨脹して來ます、それが又購買力となつて色々な品物に向つて行きますと又物價を騰貴せしめるといふ風な關係で、詰り追つ駈け合で物價は段々と騰貴するのであります。御承知のやうにヨーロッパ大戰直後のドイツに於て所謂惡性インフレーションが起りました、ドイツのお札が随分氾濫しまして玉子一箇が何萬マルクといふやうな話がございました。當時ドイツへ行つて居りました私の友人から私は十億マルクの紙幣を一枚お土産に貰つたのであります、ドイツが戦後破産をしないならば、尠く共これが十分の一になつても一億圓にはなる、その時は一億マルクが丁度日本の四十何錢に當つて居つた時代であります、さうすると私は一躍四千何百萬圓の金

持になれるといふ譯で、お札を金庫の中にしまつておきましたけれども、段々經ちますといふとお終ひにそれが反古になつて何にもなくなつた。その當時ドイツに居りましたその友人の話をお聞きしましたが、牛肉屋のおやぢは牛肉を買つて來て直ぐこれを賣つて、又駈け足で間屋へ駈けつけて牛肉を買つて來る、詰り早く前のを賣つてその次のを早く買はないといふと、一時間も經つた後ではそれが倍に上つて届つて商賣にならないから、駈け足で仕入に行つて又歸つて來て賣つて居るといふやうな状態であつたといふことであります。もし物價といふものを抑へなければ矢張り日本でもさういふ事になると思ひます。從來年に二億か三億しか公債を發行しなかつた日本が一躍して五十億、六十億の公債を發行するのですから、どうしても金がダブつて皆の物を買ふ力が殖えて來る、従つて物價が騰貴する、需要供給の關係上さうなるのであります。御承知のやうに政府の發行します公債は郵便局で賣出しますとか銀行で賣出しますとかの少額のものはして居りませんが、大金額の政府が發行した公債は日本銀行へ渡します、日本銀行はその代りにお札を政府へ渡すのであります、詰り日本銀行は政府の預金勘定を慥へましてそこへ入れ替へまして、その入れ替へてあります勘定から政府は軍需品を注文するとか、或は色々な糧秣を買

ふとかいふ時に皆それを民間へ拂ひ出すのに日本銀行の小切手でやる譯であります。さうして民間にそれが配布される、詰り政府の出しましたのが一遍日本銀行へ行つて、日本銀行から政府の預金勘定として民間へ出て来るといふからくりになつて居ります。

そこで只今申しました物價でございますが、物價が高くなりますといふと、例へば米なら米が三十五圓のものが假に七十圓になつたと致します、さうしますと今迄百圓の収入で生活出来たものが例へば百五十圓或は二百圓なければ生活出来ないとかういふやうな状態になつて来ます。さうして實際に於てそれだけの金がなければ食つて行けないのでありますから、例へば軍需工場でもどんな工場でも、労働者に賃銀を餘計やらなければいけない、餘計呉れなければ食つて行けないからといつて逃げてしまひますから、勢ひ澤山の賃銀をやるといふことになつて来ます。さうするとそれで物を買ふ力が出来ずから、さつき申しましたやうに又今度は物價が上つて来る、さうすると又収入を増してやらなければならぬといふ風に追つ駆け合で上つて来るのであります、こゝで物價を抑へますといふと、さうして一面に於て或種のものゝ消費を禁止し制限して、それから道徳的には消費節約の運動を起しまして無駄使ひをやめさせるといふことになりますと

いふと、政府の拂ひました金が民間の者の懐に入りましても使ひ途がありません。米が例へば三十五圓のものが七十圓になつて居りますれば、三十五圓餘計に貰つた金は米を買ふ方に使はれますが、米が三十五圓の場合に於ては三十五圓餘計に貰ひましても使ひ途がないから、この三十五圓は勢ひ銀行に預けます。或は郵便貯金にしましたその金が大蔵省へ入りまして預金部資金と申しますかそこへ還つて行きます、それから銀行へ預けますとその金が銀行の金庫へ入ります。併し銀行も澤山の現金を金庫に入れておきましても儲けになりませんから、人に貸すにも大體需要を制限して居るから貸出す方面がない、そこで遊ばして居つても仕様がなからこれを日本銀行に預けるといふことになります。政府が澤山發行した公債は日本銀行からお札の代りに當座勘定に於て小切手で拂出しを致します、さうすると小切手を貰つた者は日本銀行その他へ行つてお札に換へて貰ふのですから、早い話が公債が日本銀行を通つて、さうして日本銀行の小切手の形を一遍通つて、その後で所謂我々の持つて居る百圓札とか十圓札とか五圓札になつて民間に出るのであります。その金が使ひ途がないから又銀行、郵便局へ入りまして、それが大蔵省へ還り或は日本銀行に還つて来るといふことになりますから、政府が五十億、百億公債を發行致しましても

それは物價を騰貴せしめないでその儘グル／＼水車のやうに廻るのであります。さういふ事になれば政府が幾ら公債を發行致しましても國民は所謂玉子一箇に何萬圓を出さなければならぬ、牛肉屋のおやぢが駈け足で仕入に行かなければならぬといふやうな必要が無くなるのであります。所謂物價の安定即ち生活の安定といふことになつて來るのであります。今政府のやつて居ります物價の公定といひますか、或は物價の標準價格を拵へるといふ風なことはこの爲であります。政府が標準價格を拵へましてそれよりも高く賣らせないといふことにして、さうしてこの標準價格といふものを適當に下げて行きまして大體昨年七月以前の狀態位に迄下げようといふのが政府のやり方であり、又さうするのがいゝのだと思はれます。

昨年度に於て日本の商品が外國へ非常に澤山賣れましたのはどういふ譯かといふと、まあ値段に比較して品質が良いといふ譯ですが、主として先づ安いといふ爲に全世界へ賣れたのであります。十年、十一年と随分日本の外國貿易が盛になつて來ましたが、昨年は日本の貿易として最大の記録を作つたのであります。これには又特殊の原因として、日本と支那とが愈々戰爭を始めた日本では物資が段々缺乏するであらう、戰爭の方に取られるから、今の中に注文をしないと日本

の安い商品が買へないぞといふやうな宣傳を日本の輸出商が外國へしました爲に、そら今買つておかなければいけないといふので、外國から随分注文が來てその爲に昨年は澤山賣れたのであります。それでも昨年は買ふのも随分買ひました。今後は外國から品物を買ふといふことを政府は禁止するだらう、早く今の中に買つておけといふことでどん／＼買ひました爲に昨年は六億圓餘の輸入超過になつて居ります。この事は又後で貿易その他の細かい事を申述べます時に譲りたいと存じます。

さういふ風な貿易その他の狀態からして日本に於て物價が安くなれば又昨年と同じやうに品物が出て行くといふことが出来る。然るに内地が高いからといつて内地にどん／＼賣るものですか、本年度では出ますものが品によりましては五割、一般に平均して四割前後の減少を來して居ります。ですから陸軍の方達は輸入力を増せ、その爲に輸出を非常に獎勵せよといふことを大變喧しく言つて居られるのであります。一般民間の者では品物を入れたいけれどもどうも政府が爲替の關係から許可をして呉れないといふので苦情を言つて居ります。それは軍需品を先に買ふから民間のものの輸入する代金を外國へ送ることが出来ない、それでは困るといふことを言つて居

るのであります。私は陸軍の方へ参りまして、かういふことを言つて居るがどうかといふことを聞き質しました所が、外國へ品物を餘計賣つて貰ひたいのだから、それに必要な原料を外國から輸入するのを何も陸軍が妨げて居るのでない。軍用資材は勿論必要であるが、併し將來餘計に軍用資材が殖えるといふならば、目前のものは多少犠牲にして後廻しにしていゝから、民間の輸出が盛になるやうな原料をどん／＼入れて呉れといふお話があつたのであります。併し實際に當つて見ますと中々大藏省商工省にしてもさうは行けないと見えましてどうもうまく行きません。そこで先づ成るべく日本の物價を安くして自然に外國へ物が賣れて行くやうにすると同時に、國內の國民生活の爲に物價を上げないやうにしようといふことが今日日本に於て執られて居る一つの政策、統制經濟の一つの現れとしましてさういふ事が行はれて居るのであります。それで暴利取締令とさつき申しましたが、それは矢張りかういふ物資の需要供給の關係が正常でない場合はどうしてもうまく儲けてやらうといふものが現れます、それは昔から日本に紀國屋文左衛門の金儲けの記録がありますが、紀國屋文左衛門のやり方を道徳的に考へますといゝやうでもあるが、又あれだけのぼろ儲けをするのは甚だ不都合だともいへるのであります。江戸に於て材木

だとか蜜柑だとかいふものもし足りないとするならば、持つて行つて困つて居る皆の人に原價で安く賣つて上げたなら更に道徳的に非常にいゝ事である。それを高い値段に賣つてしたま儲けたといふことは道徳的に考へて甚だ不都合だ。今日政府の要求して居るのは詰り紀國屋文左衛門の行ひは甚だ悪いものだ、かういふ風に斷定して居ることになるのであります。併し商賣道から行きますと紀國屋文左衛門のやり方をお手本にしてよいのだといふことになる。そこに餘程皆の考へ方の行違ひがはつきり私は理解されるのではないかと思ふのであります。

それでは今後はどういふ風な事になるかと申しますといふと、今後に於てこれらの物價を安定せしめますとか、或は物資の需要を制限、禁止しますとか、或は輸出、輸入を政府の思ふ通りにさせるやうにしようといふにはどうしたらいいかと申しますと、現にこれは昨年から政府がやつて居ります、大阪府なんかでも極力これに盡力して居るのであります。よく新聞の經濟面を御覧になりますと出ます「カルテル」とか「カーテル」とかいふものがござりますが、詰り組合でござります。同業者に色んな組合を拵へさせます。例へばゴムならゴムにしますと、ゴム靴は軍隊で使ひますからお百姓の使ふ以外のゴム靴は非常に制限をして居ります。さういふものは原料

は全部外國から參る、日本ではゴムが一匁も出來ないのでありまして全部外國から輸入しますから、茲に製造業者の組合所謂工業組合といふものを拵へさせます、又これの卸屋及小賣屋には商業組合といふ組合を拵へさせます、之を輸入する者には輸入組合といふやうなものを拵へさせます。さうしてこれらの組合の中に同業者を總て入れまして、さうしてこれらの外國から來ますもの、今迄百匁入れられたものが十匁しか入れられないといふやうな状態でありますから、詰り品物が手に入らないで商賣の出來ない者が澤山出來て參ります。例へば十匁のゴムがあれば會社が維持出來ますが、一匁だけ貫つたのでは何にもならない、或は小さいゴムの消費者のやうに、一匁消費して居りますとどうかかうか食べて行けるが、半匁とか三分の一匁になると食つて行けないといふやうな者が出來るのであります。それでこれらの者に組合を拵へさせまして、さうしてその少い者或は三分の一匁か五分の一匁かに減りました者は組合員の實情に應じて皆自治的に分配させるといふことにしてその商賣を維持させるといふ風な事が行はれつゝあるのであります。所謂カルテルの強化と申しますか、組合制度の強化或は組合による業界の自治統制といふものを強化しまして、これに政府から統制命令を出しまして、尻押をして呉れる、強化して呉れるとい

ふことが行はれて居ります。これは年を経るに従つて段々これが嚴重になりましたもう有らゆる商品賣る商人或は有らゆる物を製造する製造業者は全部かういふ組合に入らなければ商賣が出來ないといふことになる、私は考へるのであります。かういふ風な形に於て今日の統制經濟といふものは行はれて居るのであります、かういふ風になつて參りますといふと、もう痛屈になりました、從來のやうに廣い百疊敷の青疊の上でふんぞり返つてゐたものが狭い二疊か三疊の部屋に押し込められて寝ることもどうすることも出來ないといふ風な状態になつて來るのであります。この状態が何十年も續くといつた場合に日本國民が果してこれに將來堪えるといふ覺悟が今日に於て出來るかどうかといふことが、私が最初から申します思想問題の強化に關聯して來るのでありますから、この點は皆様に呉々も繰返して御協力をお願いしたいと存するのであります。

日本の國力

そこで、それでは十年、二十年、或は數十年將來に行くと思つたと、日本の國力が果してそれに堪えるかどうかといふ問題が私は次に考へられる問題だらうと思ふのであります。今日の戰

争は日本國家始まつて以來の大規模なものだとかう申されますけれども、ヨーロッパ大戰當時に於て參戦しました各國の動員數に較べますといふと殆ど話になりません。此處に私その數字を持つて居りますから御參考の爲に申し上げますが、ヨーロッパ大戰當時に於てフランスが動員致しました兵力が八百二十萬人、その中喪人しました兵力が五百五十萬人、約六割九分餘が戦死或は戦傷したのであります。イギリスは八百萬人動員して喪失した者が三百萬人、三割七分の戦死傷であります。イタリアが四百五十萬人に對して二百萬人、四割二分の戦死傷であります。それからドイツは動員致しました兵力が一千二百二十五萬人、その總人口の一割五分が戦線に出た譯でありまして、その中喪失した兵力所謂戦死傷が六百萬人あります、これも四割九分強でありまして殆ど半數の者がやられて居ります。オーストリアハンガリーが九百三十萬人動員して喪失兵力が四百七十萬人、五割一分強であります。かういふ風な莫大な兵力を各國は動員致したのであります。今日日本は幾ら動員されて居りますか、機密に亘りますので具體的には遠慮致しますが、ドイツのそれに較べたら私は恐らく十分の一位のものぢやないかと想像するのであります。あのドイツが四年間あれだけの戦鬪を致したといふことを考へて見ますといふと、日本がその十分の

一の兵力を動員してやる場合にはその十倍の年月即ち四十年持ち得るのでないか、ドイツの當時の國力と日本の現在の國力ともし同一とするならばさういふ計算が私は出て來ると思ふ。ですから日本がこれに堪へ得ないといふ風に私は考へますことは甚だ宜しくないのであつて、永久にこの戦ひに堪へ得るといふ風に私は考へるべきでないか、又さういふ考を以てこれに處して行かなければならぬぢやないかと考へるのであります。

そこで戦費の問題を少し申し上げますが、日清、日露兩役に於きましてどの位の戦費を使つたかと申しますと、日清戦争が十ヶ月間で二億圓、日露戦争は一年半で直接費として十四億六千萬圓を使つて居ります。さうすると日露戦争は日清戦争に較べて割合に於て六七倍の大きな戦争をしたといふことになります。それでは日本の國力に對してそれらはどの位の割合であるか、更に今日の戦費はどの位の割合になるかといふことをお話申し上げます前に、ヨーロッパ大戰中に於ける列國の戦費を茲に統計で申し上げますといふと、英國では非常に贅澤な兵隊を養ふ爲に金が相當掛るのであります。英國の國富に對するパーセンテージは三割五分位なものを使つて居ります。假に私が譬へば一萬圓の財産を持つて居ると致しましたならば、その中から三千五百圓を失つて

後の財産は六千五百圓に減つたといふ風なのと同じやうな事になつて居るのであります。それから英國の毎年の國民所得に較べて四年間の戦費を一年に平均するといふと、三割七分に當つて居ります。譬へば私が一ヶ年一萬圓の収入があれば三千七百圓が取られて六千三百圓で暮しをしたとかういふことになるのであります。フランスのはそれより少し少いのであります。その當時英國の敵國でありましたドイツを調べて見ますと、ドイツは國富の二割五分が戦費として使はれて居ります。さうして國民所得の三割二分が年平均の支出になつて居ります。御参考迄にこの實際の數字を申し上げますと、英國の四年間の戦費總額は弗で計算しまして二百四十一億四千三百萬弗、さうしてその國民所得は毎年六百五十三億九千三百弗であります。ドイツの戦費總額は約二百億弗、國民所得は毎年六百二十億弗といふことになつて居ります。ロシアその他も大體數はそれよりも少いのであります。國力相應な消耗をして居るのであります。

そこで日本の國富といふものが幾らあるかといふことを計算して見たいのであります。これがどうも分りにくいのであります。國富の計算のやり方が多種多様で中々よく分り兼ねますが、日清戦争當時に於きまして日本の國富は幾らあつたかといふと、これも色々推算したもので的確

なものでございませぬからそのお積りお聴きを願ひたいですが、先づ百七十億圓位でないかと思ひます。さうして一年の國民所得は二億四千二百萬圓位であります。随分貧弱なものでございませぬ。さうすると日清戦争當時の戦費は國富の一・二%國民所得の六〇%といふことになります。日清戦争の當時日本が臥薪嘗膽するといひましたが、本當に國民所得の六割迄取られたのですから臥薪嘗膽せざるを得ないといふやうな状態であつて、如何に貧弱であつたかといふことが分るのであります。日露戦争になりますといふと、當時の國富は二百四十億圓といふ風に推算されて居ります。さうして國民所得が毎年十億圓あつて、日清戦争當時よりも十倍に殖えて居ります。併し日露戦争當時は非常な戦費を要しましたので、國富に對しては一・二%であります。國民所得は殆ど全部を擧げて戦費に使つたといふ風な計算になります。それはどういふ譯かと申しますと、日本が外債及内債を募集して戦費に充てましたので、さういふ外債及内債で賄つて居る爲に實際には國民所得の全部をこれに充てたといふことにはならないのでございますが、計算上はまあさういふ風な算盤が出て参ります。

それでは今日ほどの位の國民所得があるかといふことを計算して見るのであります。昭和五

年に或方が計算されました所では、日本の國民所得は百億圓ある。或は百二十億圓あるといふ風なことを言はれるのであります。これも計算の仕方によつて種々違つて参ります。所が大藏省では日本の國民所得といふものは今年の春では百七十億圓あるのだとかういふことを言はれて居ります。最近になりまして相當經濟が萎縮して参りましたが、併し滿洲その他に於ける日本人の投資、それによる生産額、その他色々考へ合せまして、尙軍需品の生産といふやうなものも考慮に入れます。大體一ケ年の國民所得は二百億を下らないのではないかといふ風に私は推算するのであります。詰り日露戰爭當時に較べまして大體十倍近くの増加といふことが考へられるのぢやないかと思ふのであります。即ち人口一人當り約三百圓の所得があるといふことになりす。ドイツに於きましては今日に於ても千二百圓、英國は千四百圓、アメリカは千五百圓近くの國民一人當りの所得を持つて居りますから、さういふものに較べますと日本は五分の一或は三分の一の小さい國民所得しかないのであります。併し日本の戰費といふやうなものが非常に經濟的に支出されて居りますので、兵士一人一日當りに對する戰費を考へて見ますと、ヨーロッパ大戰當時アメリカでは兵士一人に付三十何圓も四十圓も掛つたといふ話を聞いて居ります。これも勿論輸送

費とか何とかいふものを入れますといふと相當大きな金額になるのであります。英國でも矢張り三十圓以上に附いたさうです。所が今日の日本ではどうかと申しますと、私達はよく分りませんが、どんなに多く見積りましても〇〇圓位で済むのではないかといふ風に私は考へます。

所が茲に面白いのは支那でございます。それでは支那はどうかと申しますと、先刻申しました困苦缺乏に堪へ一日五錢か十錢あつたら食つて行く支那兵のことです。ですから私は支那は兵士一人一日に付〇圓か〇圓位の戰費で賄へるのではないか、ですから日本が或金額を以て例へば十年戦ひ得るとすれば、支那がもし一人當りの戰費の入り方が半額ならば支那は倍出来る、或は同じ年限對峙するならば支那は倍の兵隊を養ひ得るといふ算盤が出て参ります。茲に先刻申しました將兵の精神的戰鬥力の強弱といふことを計算に入れればさうした算盤は出て來ないので、單なる算盤に出て來る限り支那の方が長期抗戰の力が強いといふことを私は考へるのであります。蔣介石が長期抗戰を叫ぶのも私は尤もだと思ひます。支那の兵隊は唐傘をさして居るといふやうにお考であります。さうでありませぬ。最近使つて居る武器は日本よりもずつと良いのであります。チエツコの機關銃を持つて居りますが、あれなんか迎も立派なものであります。

日本の軍隊で最近使つて居る輕機關銃はチエツコ機關銃よりも良いさうであります。従來は日本はもつとそれよりも悪いものを使つて居つたのであります。尤も蔣介石の正規軍中の先づ十萬人前後の精銳は或は日本軍位の金が掛ると思ひますが、併しさうでない者は極く安く附くのであります。日獨戦争の後に私は山東省の視察に参りましたが、その時は支那は群雄割據の時代でありまして袁世凱とか何とかが威張つてゐた時代であります。あの時に何とかいふ馬賊上りの偉い大將が居りましてその軍隊を見ました。それが白晝濟南の市街を練り歩いて居るのを見ますと、所謂百鬼横行といひますか、白晝魍魎魍魎が横行して居るやうな、迎も汚ない馬に乗つて汚ない服を着て、唐傘どころでない、鍋釜まで背負つて居るやうな兵隊であります。さうしてそれが戦争する時には、第一線に出て受取つた十發か二十發の彈を撃ち終ると請負仕事で済んだといふやうな顔をして後へ歸つて來ます。又次の隊が出て行つて鐵砲を撃つ。ですから鐵砲を早く撃てばよいといふので空へ向けて何處へでも撃つてさつさと歸つて來るといふやうな状態であります。

扱てかういふ風な國民所得から考へて、それでは今日二百億圓あるのならばどういふ風な計算

になるかと申しますと、政府が豫算で發表して居ります所では、戰費約五十億圓は別の經濟で衆議院或は貴族院に提出して通過して居ります。この五十億圓の外に可なり私は要るのでないかと思ひます。さうすると私は先づ七十億圓或は七十五億圓といふものを押へて見たらよいのでないかと思ふのであります。さうするといふと國民所得二百億圓に致しますと約三割五分の程度の戰費を支出して居るといふことになるのであります。さうすると先刻申しましたヨーロッパ大戰に於ける英國或はドイツの戰費が三割前後支出されて居りますから、日本も矢張りこれだけの戰費の支出をして、所謂國民所得の三割乃至三割五分程度の支出ならば四年間は戦争が大丈夫出来るといふことははつきり申上げ得ると思ひます。ドイツは四年間全く孤立無援でやつたのでありますから、日本のやうな物資の豊富な國、殊に食糧なんかの缺乏のない日本に於きましては私はその倍尠くとも八年、十年といふものは何等の困難なく私は戦争を持続し得るといふことを斷言し得ると思ふのであります。その以上は結局政府がどういふ風なやり方でうまくやつて行くかといふことに懸る譯であります。

茲に皆様に一つ御注意願ひたいのは、今日日本は支那との戦争をやつて居りますが、併し一面に

於て生産力擴充と申しますか、即ち日本で自分自身の力で何事でも辨じて行かうといふ所謂自給自足、よく經濟學でアウトキーといふ言葉が使はれますが、そのアウトキー、自給自足の政策を執つて居るのであります。ですから戦争が一年、二年と長くなれば長くなるだけ自給自足力が段々増して行きます。即ち四年後或は五年後に於ける日本の生産力といふものは今日の比でない素晴らしい大きな生産力が出來ます。鐵にしても自給自足が出来るやうにならうと思ひます。勿論鉛とか錫とか日本に産しないものは已むを得ませんが、これらも色々な合金で代用品を考へますならば私は殆ど總てのものゝ自給自足が出来る時期が来るのではないか、勿論消費力も段々増しまして、戦争が百萬の動員が二百萬になり、三百萬になるとかいふやうなことになるればそれは分りませんが、現在程度の兵力で現在程度の戦争を續けるといふのならば、私は英國やアメリカあたりの厭な小言を聞かなくとも、何年でも私は戦争が出来るやうになりはしないかと考へるのであります。その點が私は日本の非常な強味でないか、所謂一方に戦争をしなから、一方に於て將來の大飛躍をやらうといふ準備が並行して行はれて居るといふ、その事實を御認識になれば皆様は一千萬人の味方を得られたやうにお考になつていゝのでないかと思ふのであります。一、二

ケ月程前に私はラジオ放送でこの事を少し申しました所が、或貴族院議員の方から感謝のお手紙を頂戴したことがあります。

先日でした偶然に或イタリーの新聞記者だといつて私の所へ訪ねて参つた人があります。それは最初朝日新聞社の經濟部へ聴きに行つたのですが、それは商工會議所の武田に聴けといふので私の方へ振り向けて來られました。そこでその人から私は色々質問を受けました。日本は國富といふものが非常に少い、それに戦費を年に五十億も七十億も使つて居れば直ぐ駄目になるぢやないか、一體何年持てるのかとかういふ話です。そこで私は今皆様に申上げましたやうな事を言つた、國民所得は大體二百億ある、併しこれを一割かそこら割引して例へば百七十億として、政府が五十億といふ戦費を出して居る、その外に陸海軍の經常費を十億とすると六十億位になる、さうすると大體國富の三分の一位の戦費が支出されて居るぢやないか。かう私が言ふとその新聞記者は頭が悪い男で、それでは三年てか持たないぢやないかと言ふ。そこで毎年日本の國民が百七十億宛儲けるから永久に行けるぢやないかと言つたら、これはよい事を聞いた、早速それを本國に通知すると言つて歸つて行きました。そのイタリーの新聞記者といふのは本當のイタリーの國

籍證明書を持つて居りません、或は他の者がさういふ事を言つて色んな事を聞き出しに來たのではないかと思ひます。

前に支那の財政顧問をして居つたリースロスといふ英人がありますが、その人の下で秘書をして居つたホールパッチといふ英人があります。その人が今年六月頃に日本の財界の打診をする爲に日本へやつて來ました。或方面から私に、あいつが大阪へやつて行くかも知れぬからその時は宜しく頼む、うまくやつて呉れといふお話がありました。それは宜しく料理するから寄越して下さいと申しましたが、遂に大阪へは來ませんでした。東京では大使館でテイ・パーチーみたやうな事をして、帝國ホテルに根城を据えて色々な方面の日本人に大變御馳走をしてその間に聞き取つた、日本人が不用意にも、どうも日本はかういふ事で長いこと戦争が出来ないで困るとか何とかいふことを言ふと、早速それを本國へ電報を打つといふ風なことをやつたのであります。ですから英國では日本が今にも潰れるやうに思つて居ります。

アメリカのニューヨーク・タイムスといふ新聞に七月にかういふ事が出て居りました。日本の軍人が劍を抜いて進めといふ號令を掛けて居る、さうすると後ろで金庫をあけて大藏大臣みたや

うな恰好をした人が、金が無くて破産だとかう言つて居る漫畫が出て居りました。又ロンドン・タイムスにはかういふ記事が載つて居ります、「日本の三局面」といふ題ですが、蔣介石軍が段々退却するから日本軍が段々奥地へ行く、詰り後方の輸送が困難になる、戦線が奥へ行つて擴大するだけ兵隊を澤山出さなければならぬ、後方の連絡距離が長くなるといふと茲に一つ弱味が出来て、ゲリラ戦術によつて輜重隊の襲撃、兵站線の遮断といふものをやられる。この二つの點、それから所謂戦費といふものが破産する。日本は蔣介石に引摺られて奥地に行けば結局さつき申しましたナポレオンのモスコーと同じやうになるんだといふことを書いてある。それから又アメリカの或新聞には、日本の鮎川といふ人がアメリカへ資本を求めて來たが即座に拒絶されたと、鮎川さんの寫眞入でさういふ事を堂々と載せて居ります。又或アメリカの雑誌は「侵略者」といふ言葉を用ひて、英語では「インベーダー」といひますが、日本は侵略者であるとかう言つて居ります。私はその雑誌を読む度にどうも癪に障つて仕方がないが、向ふが勝手に書くので對抗出來ない。それに對抗して私は英文の機關誌に色々日本の事を書いてやりまして、アメリカ人は婦人のヒステリーの感情的に支那が弱いものと決めてかゝつて同情して居るが、支那は弱くない

のだ、支那は人口でも日本の五倍もあるぢやないか、兵隊の数は日本は常備軍が二十五萬だけれども支那はその十倍の二百五十萬も持つて居る、その他地下の埋藏物とか色々な事を擧げまして、支那が強いので日本が弱いのだ。なぜこの弱い小國の日本に同情しないのかといふやうなことを書いたり色々な事をしてやりました。或は英國の方に對しては、日本は今生死を賭して戦つて居る、然るに英國人は唯金勘定ばかりして日本に反對するのは不都合ぢやないか、かういふやうな色々な事を書きましたが、向ふではさういふものは一切讀まないさうです。日本人が今度の日支事變に關して色々書きましたが、一切それを讀んで呉れない、多少でも讀んで呉れたらよいのですが、殆ど讀んで呉れないのですから幾ら書いても何にもならない、私も随分根氣よく書きましたが、遂に根氣負けして最近では一切書かないことにして居ります。

そこで何とかいゝ方法がないか知らんと思つて居ると、或英字新聞の編輯をして居る方が、外人の記者に北支その他上海戦線を視察させて、日本の軍隊が如何なる行ひをして居るか、支那の虚偽の宣傳をすつかり根柢から覆へすやうなことをしたいといふ話がありました。それはよからうといふので、大阪の或特志な方々を説きまして費用を據出して貰つて、それを提供して費用に

充てゝ、それらの外國の新聞記者を招待して北京から山東省及青島迄すつと廻つて貰ひまして、寺内司令官も一緒に御飯を食べたり一緒に寫眞を撮したり色々な事をされましたので非常に一行は喜びましたが、日本軍が如何に勇取であつたかといふことの戦跡を見るとか、支那が如何に嘘を言つて居るかといふことがはつきり分りました。それで歸つて來まして、ラヂオの朝六時の海外放送ですつかりそれを放送して呉れました。それから大阪へ參りまして報告演説をやりました。最近ではそれらの感想を書いた小さい數十頁の冊子を拵へまして、それを私達が援助して海外へ送り出してやる。かういふものがよいのです。外國人が實際に視察してさうして書いたものは、これは手前味噌でないといふ考からか讀んで呉れます。將來はさういふ事を私達は大いにやらなければならぬぢやないか尠く共アメリカに對してはそれをやらなければならぬぢやないかと考へて居ります。

金と國際經濟

英國は御承知のやうにもうそんな事は百も承知であります。日本の正しいこと、所謂道德的に

見まして日本の正しいことはよく承知して居るのでありますが、これは算盤を弾いてやつて居ります。ですからこれはどうしても英國の算盤に合ふやうにしてやらない限り英國といふものは決して日本の味方になりません。特に英國は國際金融と申しますか、詰り世界中の金繰りをやるのは英國の實權にあります。尠く共日本が外國貿易をやりまして振り出すその手形、それらのものの金融の七割は英國人の手にあります。英國系の金融業者の手にあります。あとはアメリカであります。その英國とアメリカを合しまして國際金融の殆ど全部はユダヤ人の手に握られて居るのであります。日露戦争當時に日本へ參つて 明治天皇に拜謁の榮を賜り勳三等を頂戴しましたアメリカ人のシフ、この人もユダヤ人であります。この人があの當時日本銀行副總裁、既に亡くなりましたあの高橋大藏大臣の非常な努力により日本に對して當時あれだけの金融の盡力をしたといふ話に付ては既に皆様も御承知のことでありませう。それは何でさういふ事が出来たかと申しますと、當時ロシアがユダヤ人を迫害して居りましたから、そのロシア人はユダヤ人の敵だといふので、ロシアと戦争をする日本には是非後援してやらなければならぬといふ所からあれだけの金を出して呉れた。所が今度はどうかといふと、ユダヤ系のロシアと支那とが手を握つて居る

のですから、その支那を叩き潰す日本といふやつは甚だ不都合だといふ譯で徹底的に日本に反對をした。特に上海附近に於きましてはあそこにサツスンといふ英國系の大きな資本家がありまして、これがユダヤ人であります。これらの者があそこに頑張つて居る限り絶対に日英融和といふことは出来ないのです。前にお話したリースロス、ホールバツチといふやうな人、それから飛行機から撃たれて怪我をしたといふヒューゲツセン駐支大使、これらは皆ユダヤ人です。さういうユダヤ人がその間にあつて色々畫策して居るのでから、ユダヤ人を叩き潰さういふのには日本人が自ら世界の金融の霸權を握る位力がないと出来ないのです。ドイツはあれだけユダヤ人を追拂つて居りますが併しヒットラーの政策は根本に於て親英政策を執つて居るのです。英國の御機嫌を絶対に損しないやうな政策を執つて居るのであります。と申しますのはかういふ例があります、英國の某貴族の夫人と令嬢の二人がドイツの或町へ來て居られた、さうするとヒットラーはそれに対して特別な關心を持つて待遇する、ヒットラーがその或町へ行きました時に、ドイツの軍人が整列して手を舉げてむつかしい顔をして敬禮して居る時に、その列の背後にその英國の婦人が二人居るのを見てヒットラーが歩みを止めて、滅多に笑つたことのないヒットラーがその

二人に笑つてし話かけて、さうして自分の列中に引き入れて自分の部屋の方へ連れて行つたといふことは如何にヒットラーが英國に對して心を盡して居るか、即ちユダヤ人はドイツから追拂ひましたけれども、ユダヤ人の金権といふものにはどうしても頭が上らないのであります。ドイツの中央銀行はライヒス・バンクと申しますが、そのライヒス・バンクの金の準備といふものはその發行して居る紙幣に對して僅かに一分五厘しかありません、詰り紙幣百萬圓出して僅かに一萬五千圓の金の準備しかないのであります。外國でユダヤ人を怒らして居るから何處からも金を貸して呉れない、それが爲にドイツにあるだけの金は殆ど皆出してしまつたことになつて居るのであります。

そこで日本の今の状態を皆様お考になつても矢張りそれと同じことではないかと思ひます。先月〇億圓の金をアメリカへ送りまして、これを始終回轉さして何十億の金融をするのだといふことを政府が聲明して居られますが、これはちよつとインチキではないか、さういふ事を言ふとお叱りを受けますが、これは詰り日本が外國へ拂ふ金がなくなるから己むを得ず〇億の金を持ち出したといふことに私は解釋すべきものでないかと思ふのであります。〇億圓の資金を送つてぐる

く回轉さして使ふのだといふ、詰り外國爲替は大抵六十日ですから、六十日だといふと〇回轉する、〇億だから〇〇回轉する、大抵の金融は勿論それで出来てしまふのであります。所が輸出といふものは外國から品物を買つて呉れなければ輸出出来ないのでから、今申しましたやうな英國やアメリカ、ことにユダヤ人に左右されて居るから輸出の伸びようがありません。成るべく日本品を買はないやうにして居るといひますから幾ら商品を山と積んでも賣れないのであります。賣れないで買ふ方が多いからその金が自然消えてしまひます。〇億圓が何時迄もあるやうに考へて居る人があります、經濟界の相當有力な方でもあのものが何時迄も消えずにあるやうに考へて居る人がありますが、私はあれは早晚消えてしまふと思ふ。それはどうかといふと、外國が誰も金を貸して呉れないから金を持ち出さなければならぬ、昨年中に日本が金を持ち出したのは〇億〇千萬圓に上つて居ります。それから本年度に入りましてからもうこの間の〇億圓以外に約〇億〇萬圓かの金が出て居ると思ひます、これは日本ではヒタ隠しに隠して居りますが、ニューヨークで出て居ります聯合準備銀行の月報にチャンと載つて居るのであります、それには日本から毎月幾ら金をアメリカへ送り出したかといふことがはつきり載つて居るのであります。日本の

方は誰も知らないから呑氣にして居りますが、さういふものを見ますといふと日本に金がないといふことが向ふでははつきりなつて居る譯であります。今言つたやうに兵隊さんが進めと言つても金庫は空だといふやうな漫畫を描くのも尤もであります。何とかしてこの問題をうまく解決して行くといふことが即ち私達が日常夢寐にも忘れ得ず考へて居る事ですが、所謂無い袖は振れないであります。

そこでなぜ金を今日の國際經濟に於て重要視するかといふことです。これを一つ申上げておきます。普通の商品は要らないが金なら貰はうといふのが世界の經濟界の通則です。誰でもさういふ考を持つて居ります。皆様がお酒の好きな方が餅菓子を貰つてもそれは要らないと仰しやると同じやうに、或は酒は要らないと仰しやると同じやうに、日本品は要らない或はポイコットをやつてやらうといふ意識的な方もあります。さうでなくとも日本品は要らないといふ方は澤山あります。向ふにこれを押しつける、只やれば兎も角、代金を取つては賣れません。その代り金を上げようと言へば喜んで取りますから、どうしても金といふものは必要であります。輸出入は日本が輸出した額だけ輸入してそれで戦用資材が十分ならば金は要らないのであります。さうでな

い限りどうしても金が要る。所で産金額は朝鮮に於て年々約一億圓、國內に於て幾ら出るか、假に一億圓と假定しても僅か二億圓しか出ません。そこへ持つて行つて一年に八億、九億の金を出さなければならぬといふことになれば、勢ひ日本銀行の中に準備して居ります金といふものを持つて行かねばならない。○億圓が今年中に消えて無くなればもうあと○億圓しかありません。來年その○億圓を持つて行くといふればドイツのライヒス・バンクと同じやうに日本も準備金といふものが殆んどなくなります。

それで私はかういふ事をよく言つて居ります。かういふ大きな戦争をやつて居るのであるから、さういふ時に金の五億や十億を大切にして居つてはいけない、思ひ切つて皆無くしてしまへさうすれば何も無いからさつぱりしてそこで又何かいゝ智慧が出て來はせぬか、かういふ事を私は主張して居ります。その以前に、今年の春でございますが、私はかういふ事まで主張しました、日本はこれから戦時體制に入る、戦用資材を澤山買はなければならぬ、萬一何處かの國と戦端を開いたならば即ち今日に於ける状態が豫想されるから、かういふやうな状態になるとすると、眞面目な從來のやり方、所謂正統學派と私は申します、經濟學上從來の英國式な常道を通つ

て來ます理論から申しますといふと日本はギリ貧になる、ドイツと同じやうにギリ貧になる、だから今日本が金が澤山ある時に何十億といふ外國の物を買つたらどうだ。しこたま買込んで一億圓に付一千万圓か二千万圓金をやればよい。日本に十億位の金があればそれで以て五十億圓位の物を買ふことは何でもない。そこは政府の役人と貿易業者とコンビでうんと腕を揮へば這入つて來ます。さうすると戦用資材をしこたま買込んでおいてさうして實際五十億買つたけれども現金は十億しかやらないとこふことでぼち／＼と一割か二割の頭金を拂つて品物を入れて、もうこれで金が無くなるといふ時に支拂停止をする。さうするといふと向ふの外國人は日本に對して三十億、四十億の債權を持つ事になる。之を返せと言つてもあとから品物を賣つたら金を拂つてやる。かういふことをやると前金を欲しいから皆少し宛賣つて呉れる。所謂輸入がある。それだけ買込んだらあとは買ふ必要がない。今度は輸出超過になる、輸出超過になれば外國から代金を取つて來るからあと金を拂つても心配なく行ける。それをやれと私は言つた所、それをやれと君が言つても、そんな亂暴な事は出來ないと言つて叱られました、それを昨年やつておけば日本は大成功であります。餘りに日本は正直過ぎた、こんなことを言ふとどうも博奕打ちみたやうな

とになるが、併し戦争は非常道でありますから國家經濟も非常手段で行かなければならぬ。

翻て看ると今日の外國貿易は萎縮して居ります。これに付て大藏省、商工省に對して私は何時も悪く言ふので大藏省、商工省の方から厭がられますが、今日の輸出貿易が萎縮して居るのはさつき申しましたやうに戦用資材を輸入する爲に成るべく民需品の輸入を抑制して行かう、さうして一方の輸出を増して行かうといふ、成るべく外國から買はないで餘計賣付けてやらうといふのはちよつと愆であります。さういふ事は出來ない、皆様も相手の友人ばかりに自分に深切にさして自分が不深切にやつて行く、それは決して兩立しないのであります。さういふ事をやらうとしても出來よう筈がありません。外國から品物を澤山買へば又澤山賣れるのであつて、その輸入を抑へたものですから外國へも賣れなくなつた、唯抑へるのもうまく抑へておくのならばよいが下手な抑へ方をして居ります。貿易が萎縮するやうな抑へ方をして居ります。或品物は外國から全部原料をとる、それを日本で加工すると三倍に賣れる品物がある、その厚料を何十萬圓か輸入を許して呉れといふことを大藏省に願ひ出ますと、三倍や四倍になるものは駄目だ、もつと十倍にも二十倍にもなるものを考へて來いと言ふ、そんな手品みたやうな商賣は出來ません。それで

もしその原料を輸入しないならば外國ではかういふものが競争者になつてやるのだといふことを話しますと大藏省は、それは外國へ取られて困るから先づ許さうといふので、或品物の三分の一の輸入を許した。三分の一が三倍になるから、例へば十萬圓のものなら三十萬圓にして賣れる、その十萬圓のものを五十萬圓輸入して百五十萬圓輸出すると百萬圓儲かるから軍用資材が百萬圓輸入出来る、それをキチンと十萬圓とかいふことにするから詰り儲けが少くなる、従つて戦用資材も極めて僅かしか輸入が出来ないといふことになる、さういふ風なチリ貧になるやうな事ばかりやつて居られる。これも大事を取つて成るべく冒險をしないでやらうといふ極く眞面目な正直なやり方がありますが、それはかういふ非常時には通用しないのであります。

先刻申しました物價の統制問題もさうでございます、從來の經濟學で教へて居ります所は御承知のやうに需要供給の關係によつて物價といふものが定まるのであります。物資が缺乏すれば物價が上るのは當然でありますからそこで國家で物價を公定してこれを抑へるといふのは甚だ不都合だ、かういふ議論をして居ります。併し日本がかういふやうな状態になるといふことは少し頭の良い者は分つて居る筈です。實は私は手前味噌を申上げるのであります、十年前に「統制經濟の基本原理論」といふ原稿を書きまして八年前に出版致しました。今は絶版になつて居りますが、その中で私は、統制經濟を眞に有効に行はんと欲するならば物價を公定しろ、或は國定しろさうしてその他のものはその従たる地位、その補助の意味で色々な政策を行へといふことを主張しました。その當時私の物價公定といふ説が採用されましたのはお米だけでございます、米穀統制法で米價の公定をやつただけであります。前の商工大臣の吉野氏なんかは物價公定説に反對をして居られました。私は昨年六七月頃大藏省へ参りまして、さういふ馬鹿な事を言つても駄目だ、是非これをやりなさいと勧めましたが、遂に政府でも意を決しその物價公定の政策を執られたのであります。これは日本で今物價公定をしましても商人あたりはそれによりませんで闇取引をする、例へば先刻申しました二十番手の綿糸を二百圓で賣買すべきものを三百圓、三百五十圓或は四百圓まで賣買して今引つ張られて居る人が澤山あります。さういふ取引は絶対に根絶出来ないのであります。これは思想動員によらなければ根絶出来ないものであります、經濟警察でやりましても根絶は出来ません。併し根絶出来ないでも公定價格によつて物價が尠く共安定して居るいふことはつきり言へる。もしこの公定價格制度を行はなかつたならば今頃は王子が一個

一圓位して居るものと覺悟しなければならぬと思ひます。

かう云ふ状態ではそれでは今後日本はどういふ風な事をやつて行けばいゝかと申しますと、結局經濟的には營利主義を放棄して所謂國家主義と申しますか、詰り營利主義の修正と申しますか、その方が一番よいかも知れません。營利主義を修正して國家主義的に經濟人が行動するといふことさへやりましたならば私は何等心配がないぢやないかと思ふのであります。御承知のやうに日本は食糧は十分にあるのであります。ドイツが大戦に負けましたのは思想的に負けたのと、それからもう一つ食糧が不足して、戦線の兵士から郷里の家内の方へパンを送つてやつたといふやうな逆の現象が生ずる位に食糧が不足し、又あの戦線に向つて反戦思想を宣傳された爲に、戦鬪に勝ちながら結局戦ひに負けたといふことは皆様御承知の如くであります。ですから日本これを強力にやらうとすれば矢張り營利主義の修正といふこと、それを一つ皆様からお説きを願ひ、私達もこれを説いてさうして民衆の賛成を得たいと思つて居ります。併しこれは説くだけでは行きませんで、本當は國家の經濟組織と申しますか、經濟機構と申しますか、それを矢張りかういふ戦時統制の根本から立直して行かねばいけないのであります。所謂國民全部が失業をしな

いで安心をして生活出来るといふ風な經濟組織に變へて行かなければなりません。今のやうに或消費を制限しますと直ぐ失業者が出来るといふ風な組織ではいけないのであります。戦争の爲に百萬、二百萬を動員してもビクともせぬやうな、さういふ日本の經濟體制といふものを立てゝさうしてこの組織で行くのだといふことで國民を率いければ國民はそれに隨いて行く。

一昨日も或方が見えまして、統制に付てどういふ風な意見が國民にあるか聴かして呉れといふことをであります。民間では今度の經濟警察なんかやつたので皆商賣が萎縮してしまつた、或法律所謂經濟法令が出て居る、その法令を讀んでどうも疑はしい點である、疑はしい點があるけれどもそれも色々に解釋が出来る、かういふ風に或解釋をやつて居つてその解釋が違ふのだといつて警察へ引つ張られたりしては困る、僅かしか儲からぬ時に儲からぬ事をやつて引つ張られるよりは何もしない方がよいといふことで、或種の商賣では全く取引が暫くの間停止したといふやうなこともあるのであります。それで私はその人に申しましたのですがそれではいけない。この戦争が例へば陸軍大臣その他の方々が漢口が落ちてもまだ續くのだらうと言はれる、三年や五年は續くのだから言はれる、三年経つたらどうなる、元に戻るのであるか、それならば三年間食ふ金があ

るから何もやらぬで居らうといふやうな國民が出て来る。五年間食ふ金があるから何もしないと
いふやうなことになる。と經濟界が萎縮する。だから日本は今後永久に、尠く共半永久にかうい
ふ經濟統制を行つてさういふ經濟體制を國で立て、行くのだ、尠く共東洋から英國、アメリカ、
フランスのやうなものを追拂つて、もう日本が自給自足の經濟が確立出來て、不脅威不侵略の軍
備といふものが完成して東亞の實際の名實共に盟主となる地位に立つ迄はこれをやるんだ、かう
いふ風なことを政府はなぜ聲明されないか、政府に於てさういふ聲明をされれば國民はそれなら
ばそれに隨いて行かうといふ覺悟をする、さうすれば經濟警察に引張られる違反者も出ないし皆
喜んで協力するだらう、生半可なことで三年五年とかいふことを言ふからいけないといふ事を私
はその人に言つておきました。この私の申しました事が或新聞の夕刊の第一面のトップに出て居
ります。さういふ風に政府が考へ直して呉れましたならば、又それだけの勇氣を持つて行きまし
て國民も協力すれば恐るゝものはないと思ふのであります。

そこで、それではどうしたらさういふ風に出来るか、かういふ問題が起るのであります。それ
には矢張り人と金とが要るのであります。詰り人と申しますといふと、これは私達のやうな筆と

口で言つて居る者では駄目で、實際腕を以て働く人でなければならぬ。所謂科學的な技術を持
ち技能を持つ人、さういふ人を澤山養成しなければならぬと思つて居ます。大阪に産業科學研究所と
いふものが出来ることになりましたが、あれは大阪の帝大に附設されるのであります。あれは一
昨年私が提唱しまして、さういふ學校に附設しないで獨立でやらうといふ事を言つたのですが、
賛成者が少なくて遂に帝大に附設されることになつたのであります。その産業科學研究所を私が考
へましたのも其處であります。今日の物質文化といふものは全部皆様が御詮索になりますと人間
の叡智の産物でありまして、所謂自然の存在物ではないのであります。所謂人間の智力によりま
して創造されたものが今日の物質文化であります。ですからこの物質文化といふものは矢張り人
間の精神力の産物であります。そこでさういふ精神力を養ふといふことが結局質的に自給自足が
出来る原因になる。最近代用品工業だとか色々なことを言つて居りますが、結局工夫をしなけれ
ばならぬ、その工夫をする科學的な頭がないといふと駄目であります。大阪に商工省がやつて居
られます工業試験所といふものがございますが、其處へ色々な人が相談に行きます。それが國家
が發明して貰ひたいといふ要求をして居るものもありませんが、大部分は何とかしてこうやつて特

許を取つたら儲かりはしないかといふやうな相談、中には出来ない相談を持つて来る人がございます。どうしても理窟が附かぬものを持つて来る。それで非常に困られて居りますが、かういふもの即ち理工學に關する教育といふものを私は盛にしなければならぬ。成るべく皆様の御子弟でも將來は皆様の跡をお繼ぎになる方以外の方は私は法律、經濟なんといふものをおやらせにならないで、何とか理工學の方に向ふやうに一つお考を願ひたいと思ふのであります。

御承知のやうにドイツが戦争中であれだけ堪へ、その後には於ても金がなくてあれだけの盛な貿易をやつて居りますのは、皆所謂人間の叡智による科學的な創造物、創造されたる製品といふものを外國へ輸出して居りますからあれだけの輸出が出来るのであります。所が日本は殆どありふれた物ばかり、詰り頭腦がなくても、考へなくても直ぐ出来さうな物、所謂草鞋みたやうなものを持つて、そんな商品ばかりであります。日本の輸出商品を御覽になるとこれはといつて感心するやうな頭腦を働かしたものは無い、馬鹿でも出来るやうな商品ばかりが輸出されて居る。だから何とかしてこれを日本がドイツのやうに科學的にやりまして合成されたもの、例へばゴムでも天然のゴムではなくして人間が考へた合成ゴムがもし出来ましたならば、或はガソリンでも石

炭を液化するとか何とかいつた洋の方が多くて油が僅かしか採れないといふやうな下手なことではなくして、何とかの方法で合成油が出来ましたら、ガソリンを統制してテク／＼歩かなくても幾らでも自動車に乗れるといふことになるのであります。木炭自動車もありますが、あんな坂も登れないでヨチ／＼として居るやうな自動車を考へたつて仕方がない、もう少し良いものを考へなければならぬ、そこに私は官民の努力が大いに必要でないかと思ふのであります。

それからもう一つは資本であります、この資本の方は心配なく金はなくても國內では出来るのであります。所謂金融方面の學術語で管理通貨制度といふのがあります、或は統制通貨制度とも申しますが、金とか銀とかいふやうなさういふ貴金屬を引當にしませんでも、詰り今日の日本の經濟組織がガツチリ統制されましたらばお札で澤山であります。お札は今日本銀行へ持つて行つても金に換りません、ですからあゝいふお札をどん／＼出せばよいのであります。さうして物價を上げないやうにしておいて澤山のお札を出してそのお札で物を拵へて行く。詰りさういふ新發明者には賞金をやり月給をやるのは、物價を下げるのが目的であります。或はさういふ研究所をどん／＼建てるといふ爲にはお札を印刷局でガラ／＼刷り出せばよいのであります。その

刷り出したのが悪い事をするのは、詰り物價の騰貴といふ所へ來るからでありますから、その物價の騰貴さへ抑へてしまつて、即ち人間の値打を上げて物の値打を抑へる、さうすれば何も心配なく日本の經濟が廻つて行くのであります。この點は私の申すことは絶対間違はありません、百パーセントの御信賴を得たいと思つて居ります。

色々詰らないことを申し上げましたが、結局今日の統制經濟と申しますか、この制度は今後十年續くもの、又續かしめるやうにこの制度を良くして行くといふことに御協力願ふといふことに致したいと思ひます。幸ひ此處に私數字を持つて來て居りますので、ちよつと日本と世界各國のものと比較して上げたいと思ひます。さつきから金のお話を申し上げましたが、世界の各國の中央銀行、所謂その國で一番重要な、例へば日本でいへば日本銀行、英國では英蘭銀行、アメリカでは聯合準備銀行といふものがあります。ドイツはさつき申しましたライヒス・バンクであります。さういふやうな銀行で持つて居ります金即ち刷り出したお札に引換の金であります、それが英國では約四割強持つて居ります。アメリカでは殆ど百パーセント、それを本當の金だけに致しますと大體八割近く持つて居ります。ドイツはさつき申しした通り一分五厘、フランスは約六割

近く、日本は二割五分といふことになつて居ります。

次に物價の問題ですが、先刻云つた通りに物價を安くしなければと申しますが、英國の物價を昭和五年以降ずつと十二、三年迄私は調べて見ましたが、一九二七年即ち今から十一年前の物價を百と致しますと今日はその七割前後になつて居ります、詰り一九二七年より三割前後も安くなつて居ります。アメリカは一九一三年即ち今から二十五年程前の物價を百として居りますが、それにしても二割程しか騰貴して居りません。最近是非常に不景氣で又物價が下りました。ドイツは一九一三年即ちヨーロッパ大戰前と殆ど變りません。諸外國はさういふ風であります、所が日本は十年前の一九二八年を百として大體に於て二倍半近く騰貴して居ります。詰り世界各國の物價が安いにも拘らず日本の物價が二倍半近くも騰貴して居るといふことは、それだけ先刻申しました安い物を多く外國へ賣ることが出来なくなつたといふことになるのであります。

それから貿易の數字でございますが、これも日本では十年前の一九二八年を採つて基礎數字を百と致しますと、昭和十二年度に於ては約その倍になつて居ります。英國は二割以上減つて居ります、アメリカも四割近く減つて居ります、ドイツも勿論三割近く減つて居ります。フランスは

半分に減つて居ります。フランスがどうして半分に減つたかと申します理由をちよつと御参考に申上げたいと思ひますが、これはフランスに第一回のブルーム内閣といふ共產主義の政府が出来まして、これが一週四十時間労働制度といふものを拵へまして、一週に四十時間だけ働いたらよい、それ以上は働かないでもよいといふことにしました爲に生産量が非常に減りましてそれだけ物價が高くなりました。労働者は餘り働かないで金を儲けようといふ、その爲に貿易が半分に減つてしまつた。どうしても勤儉努力といふもの、健康を害しない限り出来るだけ長く働いて行かねばならぬ。さうして生産力を多くしなければならぬといふのが眞理であります。

經濟學の鼻祖といはれて居る英國の有名な學者アダム・スミスの「國富論」、或はそれを承け繼ぎました英國の大學者リカードの著書、それらの書物を読んで見ますといふと、富といふものは何であるか、富といふものは物資豊富なのが富であつて、金額に換算して多いのが富ではないといふことを書いてある。これは皆様のお考へに合ふのではないかと思ひます。私は佛教の方の研究は足りませんがさういふ風に考へます。例へばこの湯沸しでありますが、この湯沸しが一圓として十箇あれば十圓であります、この湯湧しを澤山拵へまして一箇五十錢として二十箇拵へますと

十圓です、金額に致しますとどちらも同じ十圓です。一圓で出来て十箇あるのと五十錢で出来て二十箇あるのとどちらが富めるものであるか、その十圓の富の内容といふものを研究致しました場合に、五十錢のもの二十箇の方が富裕である、かういふ事を考へますといふと矢張り働いて生産量を多くすることがより多く富むものであるといふことになります。従來の資本主義經濟と申しますか營利經濟はそれに逆行して居ります。詰り五十錢で二十箇拵へて賣りますといふと、原價を四十錢とすれば一箇に付十錢しか儲からぬ、二十箇で二圓しか儲からぬ、これを生産量を十箇だけに減して、さうしてこれを一圓に賣ればどうなるか、生産量を減した爲に生産原價は上りますから、四十錢が例へば六十錢になつたとしても一箇に付四十錢儲かる、十箇で四圓儲かる、さうすると二十箇拵へて安く賣るよりも十箇だけ拵へて高く賣つた方が二圓餘計儲かる、そこに營利經濟では少しの品物を拵へて高く賣つた方が儲かるといふことになる。これが従來の營利經濟に於て採用された原則であります。例へば紡績會社がよく操短をやる、詰り綿糸が澤山出来て値段が安くなると綿糸を拵へる數量を減して値段を上げて来る。これは國家全體的の觀察からいへば澤山拵へて安く賣つて貰つた方が國が富むのであります、一會社の算盤からいへば少く生

産して高く賣つた方が利益になる。そこに營利經濟と國家の經濟に食ひ違ひが出来て来る。これを如何に修正すべきかといふこと、その修正の名プランを私は持つて居りますが、此處で申上げて叱られるといけませんから、もう少し當局とも話をしてその中に一度發表して見たいと思つて居ります。

そこでさういふ風に分析してお考へ下されば今の共產主義經濟、或は勞働時間を短縮するといふ問題は丸きり見當外れだといふことが出來ます。ロシアが共產主義をやつて生産が少しも増加しません、勞働者を酷使して居ります。これは確かあの附近の國の人でしたが、アメリカへ行つてアメリカで共產黨員になりました、それからロシアが共產國になつたといふのでそれに憧れてロシアに入國して、さうして非常に失望して歸つたといふことを書いた書物があります。それを讀んで見ますといふとかういふ事を書いてあります。その人が最初にニューヨークの共產黨から代表者としてロシアを視察に行きました時には、あのフィンランドから入りますロシアの入口で樂隊を以て歓迎して呉れて、各地を見せて貰ふといふと非常に立派な工場があり生産物がある。これだけ立派ならばよいといふので、アメリカへ歸つて自分の財産を全部賣拂つて妻子を連れて

再びロシアへ行つた、所が今度入國して工場に配屬されて働いて見るといふと案に相違して物資は缺乏して居る、不潔である、生産技術は低劣である、更にゲ・ベ・ウみたやうなものが始終別嬪を連れて威張り散らして居るといふのですつかり憤慨して、スターリンまで彈劾の手紙を出した爲に非常に睨まれて居堪らなくなつて逃げ出して來たといふ話があるのであります。詰り共產主義なるものが如何に誤魔化しものであるかといふ事が私はよく分るのであります。そこには矢張り資本主義經濟のいゝ所を利用しましてさうして日本の經濟の組織を少し改めましたならば、私は失業者もなく本當に結構な皇道樂土が實現し得ると考へて居るのであります。

(昭和十三年十一月於信貴山朝護孫子寺講堂講演筆記)

二十 現行經濟統制の改善強化に就て

現行統制經濟の不備と統制經濟本來の意義及目的

統制經濟の改善強化といひますことは、今日米内内閣が出來ますについて、各方面から、どう